岡山県立大学

# 社会貢献年報 2020

岡山県立大学
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

# 社会貢献年報 2020 の発刊にあたって

岡山県立大学
学長　沖　陽子

令和 2 年度は 3 月より新型コロナウイルスの感染拡大を受け、入学式は中止となり、授業開始が延期されると共に急遽オンライン授業が取り入れられました。未曽有の影響を受けながらも、大学教育は授業だけでなく、学生同士や教員との人格的なふれ合いも大切であることから、工夫を凝らして対面授業の再開を目指し、後半は対面型とオンライン型のハイブリッド型授業と致しました。ただ、実習、演習等のフィールド科目は質保証を考慮しながらの苦しい一年となりました。

本誌は、そのようなコロナ禍における教育研究環境にて、本学の社会貢献の拠点であり、令和 2 年度より新たに設置された「地域創造戦略センター」を中心に展開された令和 2 年度（2020 年度）の活動を詳細に掲載しています。

「地（知）の拠点としての活動」に大きく寄与した、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」の代表校としての活動は、令和元年度で文科省からの補助期間が終了して令和 2 年度から自走致しております。地域志向型人材育成も軌道に乗り、本年度を含めて過去 3 年間で 72 名の学生に「地域創生推進士」の称号を授与することができました。

一方、閉鎖的な空気が漂う中、本学には明るいニュースが入りました。地方創生推進事業(COC＋)の後継事業である「大学における地方創生人材教育プログラム構築事業(COC＋R)」を文科省に申請したところ、全国で 4 校が選定され、本学は中国地方で唯一採択されました。「「吉備の杜」創造戦略プロジェクト～雑草型人材育成を目指して～」という事業名で、若者の地元定着と地域活性化を推進するために、地域・企業・大学が一体となって合体教育を行うもので、副専攻としての実質的なプログラムは令和 3 年 4 月からスタートです。本誌では本プロジェクトの概要を記しています。

地域の企業、公的機関及び本学で構成する岡山県立大学協力会には、本年度も産学連携、特に産業人材教育の推進に大きく貢献して頂き、感謝申し上げます。「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの展開で、さらなる強い連携活動を期待しております。

With /After コロナにおける社会構造は大きく変化し、「ヒト・データ」が中心の経済社会に移行して、今後の社会貢献の在り方も変化すると予測されます。対応策としては、地域・行政・企業等の皆様方との協働で、変化する社会に適応する術と人材を生みだすことが大学に求められます。本誌をご高覧頂き、今後の社会貢献活動についてご示唆を賜れば有難く存じます。引き続き力強いご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

2021 年 6 月

# 目　　次

社会貢献年報 2020 の発刊にあたって

１　本学の社会貢献についての概要 ..... 1
２　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト
（大学による地方創生人材教育プログラム構築事業採択事業） ..... 3
２．１　大学による地方創生人材教育プログラム構築事業の趣旨 ..... 4
２．２　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト～雑草型人材育成を目指して～の概要 ..... 5
２．３　大学院クロスセクション ..... 8
２．４　食と栄養と健康を温め羅ねる杜 ..... 8
２．５　地域の ICT 技術を温め羅ねる杜 ..... １０
２．６　森と建築と匠を温め羅ねる杜 ..... １１
２．７　実施体制 ..... １２
２．８　連携体制 ..... １４
２．９　学内実施体制 ..... １５
２．１０　メンバーシップ等の開催 ..... １６
２．１１　攻めの広報 ..... １６
３　地（知）の拠点としての活動 ..... １９
３．１　地域との協働 ..... ２０
３．１－１　公開講座 ..... ２０
３．１－２　吉備創生カレッジ ..... ２２
３．１－３　高大連携活動 ..... ２３
３．１－４　附属図書館の活動 ..... ２４
３．１－５　異文化理解の活動 ..... ２６
３．１－６　健康・スポーツ推進の活動 ..... ２７
３．２　行政との協働 ..... ２９
３．２－１　岡山県への貢献 ..... ２９
３．２－２　市町村への貢献 ..... ２９
３．２－３　各種委員・講師の応嘱（行政関係） ..... ３０
３．２－４　共同研究・受託研究等（行政関係） ..... ３１
３．３　企業との協働 ..... ３２
３．４　未来人材の育成・輩出 ..... ３３
３．４－１　保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科 ..... ３３

３．４－２　情報工学部・大学院情報系工学研究科 ..... ３８
３．４－３　デザイン学部・大学院デザイン学研究科 ..... ４２
３．５　その他の社会貢献 ..... ４５
３．５－１　各種委員等への派遣（行政関係以外） ..... ４５
３．５－２　職員表彰 ..... ４６
４　県立大学の各組織での活動 ..... ４９
４．１　地域創造戦略センター ..... ５０
４．１－１　体制 ..... ５０
４．１－２　重点領域研究 ..... ５１
４．１－３　OPU フォーラム 2020 ..... ５３
４．１－４　情報発信 ..... ５８
４．２　産学官連携部門 ..... ６１
４．２－１　企業等と連携した研究活動 ..... ６１
４．２－２　アクティブ・ラボ ..... ６３
４．２－３　学外組織との連携・協働活動 ..... ６５
４．２－４　岡山県立大学協力会 ..... ６８
４．３　地域連携部門 ..... ７５
４．３－１　地域連携プロジェクト ..... ７５
４．３－２　各種連携活動 ..... ７８
４．３－３　各種研究会活動 ..... ８０
４．３－４　岡山県立大学子育てカレッジ ..... ８６
４．４　社会連携教育推進部門 ..... ９１
４．４－１　副専攻「岡山創生学」の推進 ..... ９１
４．４－２　副専攻「岡山創生学」のカリキュラム改革 ..... ９２
４．４－３　地域創生推進士 ..... ９３
４．５　ボランティア部門 ..... ９５
４．５－１　ボランティア活動支援体制 ..... ９５
４．５－２　学生のボランティア組織 ..... ９５
４．５－３　活動状況 ..... ９５
５　外部資金獲得実績と今後の課題 ..... ９７
５．１　令和 2 年度の実績 ..... ９８
５．２　科学研究費 ..... １００
５．３　今後の課題 ..... １００
巻末資料 ..... １０１

# １．　本学の社会貢献についての概要

## １　本学の社会貢献についての概要

令和 2（2020）年度には、新たなフェーズに向けた社会連携活動を実施するために、地域共同研究機構を発展的に解消し、産学官連携、地域連携、社会連携教育推進、ボランティアの 4 つの部門を持つ地域創造戦略センターを設置した。さらに、文部科学省から公募された令和 2 年度大学改革推進等補助金「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業：COC＋R」に、本学を代表校とする「吉備の杜」創造戦略プロジェクト～雑草型人材育成を目指して～が採択された。しかし、新型コロナウィルスの感染拡大の影響で、実施できない活動はあったものの、開催規模を見直し、オンラインなど新たな実施形態を模索することで、多くの活動を実施することができた。本報告は、これらの社会貢献活動をまとめたものであり、その概要は以下の通りである。

地域創造戦略センターとしては、実用化基盤研究「領域・研究プロジェクト」を継続して実施したが、OPU フォーラムの開催は断念した。しかし、COC＋R の採択を受けて、本事業を推進するための吉備の杜推進室を本センターに設置し、令和 3 年度からの本格実施に向け準備を行った。

産学官連携部門では、本来教員とコーディネータが企業に出向くアクティブ・ラボはハイブリッドで推進した。岡山県立大学協力会などと共同開催を予定していた最先端技術講習会、交流会、業種説明会など多くの事業は中止となったが、新たな取り組みとして、県内産業構造などを学ぶ講義を岡山県立大学協力会の寄付講座として開講した。

地域連携部門では、一部活動中止のものもあったが地域連携プロジェクトを継続して実施するとともに、まちづくり、子育て支援などの新たな活動を実施した。さらに、独自で岡山県立大学子育てカレッジ、各種研究会を実施した。

社会連携教育推進部門では、COC＋の中核事業である副専攻「岡山創生学」を実施し、17 名の学生に地域創生推進士（第 3 期）を授与した。また、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの実施を受けて、副専攻の整備を行うとともに、「岡山創生学」の改善を進めた。

ボランティア部門では、ボランティア活動自体がほぼ実施できなかったが、学生のボランティア活動を支援する体制を整備した。

## ２．　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト（大学による地方創生人材教育プログラム構築事業採択事業）

２．１　大学による地方創生人材教育プログラム構築事業の趣旨

２．２　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト～雑草型人材育成を目指して～の概要

２．３　大学院クロスセクション

２．４　食と栄養と健康を温め羅ねる杜

２．５　地域の ICT 技術を温め羅ねる杜

２．６　森と建築と匠を温め羅ねる杜

２．７　実施体制

２．８　連携体制

２．９　学内実施体制

２．１０　メンバーシップ等の開催

２．１１　攻めの広報

## ２．　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト
## （大学による地方創生人材教育プログラム構築事業採択事業）

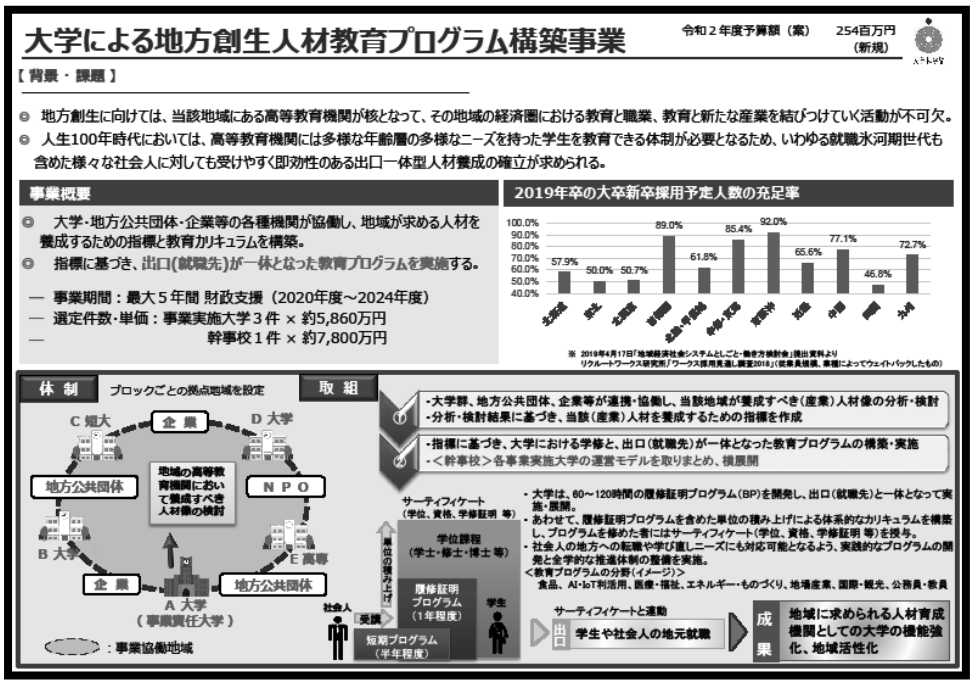
### ２．１　大学による地方創生人材教育プログラム構築事業の趣旨

人生 100 年時代、人口減少、産業構造の変化、グローバル化、地方創生、一極集中型から遠隔分散型への転換といった劇的な変化の中で、Society5.0 時代を担う人材育成に向けては教育界のみならず、産業界、行政との多面的な連携に基づき、地域社会のニーズを踏まえた質の高い高等教育の確保と高い能力を持った人材育成が求められる。そのためには、人材育成機関としての大学が、地域社会の核となって、地域において何が必要とされているのか、地域に対して何が提供できるのか等の観点から情報共有と連携を図り、これからの地域に求められる人材を育成することが必要となる。

また、地域に求められる人材の育成にあたっては、18 歳の伝統的な人材育成ニーズのみならず、高大連携、リカレント教育、共同研究の在り方、まちづくりのシンクタンクとしての機能などの幅広い観点を踏まえることが重要であり、そのためには、地域社会を構成する関係者間での恒常的な連携が求められる。加えて、高等教育が地域の知の拠点として確立し、学修者一人一人の可能性を最大限伸張することで未来を支える人材を育成する役割を果たすためには、公的な支援だけに依存することなく、民間からの投資と社会からの寄附等の支援、個人負担等の資産マネジメントに関わる取組を速やかに進めていくことができるよう、新しい資金循環メカニズムを構築することが期待される。

このような考えに基づき、令和 2 年度に大学改革推進等補助金として「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業」が文部科学省から公募された。本事業は地域の知の拠点としての大学が、他の大学等や地方公共団体、地域の企業等と協働し、地域が求める人材を養成するための教育改革を実行するとともに、出口（就職先　企業）と一体となった教育プログラムを実施することで、学卒者の地元定着と地域活性化を推進することを目的としている。

大学による地方創生人材教育プログラム構築事業の概念図



## ２．２「吉備の杜」創造戦略プロジェクト～雑草型人材育成を目指して～の概要

本学では平成 27 年度～令和元年度にかけて、同じく大学改革推進等補助金の交付を受けて「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」を実施し、教育改革、域学連携、産学連携活動により実践的な専門性と高い地域志向を有する人材の育成を図ったが、この事業の対象は学部低学年の学生が中心であるため、次の段階として、学部高学年及び大学院生に対する教育改革の必要性に迫られていた。

このため、新たに学部高学年及び大学院生に対する教育プログラム（「吉備の杜」創造戦略プロジェクト～雑草型人材育成を目指して～）を構築して応募したところ、全国で 4 校の 1 つに選ばれて採択された。

事業計画の検討に当たっては、「本地域で養成すべき産業人材像」を見いだすため、次のようなヒヤリング及びアンケート調査を行った。

(1)各種産業界・有識者へのヒヤリング　合計 21 団体（人）

(2)企業・団体等へのアンケート調査　調査数 6　回答数合計 285 社

(3)関係大学との協議

参加校であるノートルダム清心女子大学、中国学園大学及び協力校である岡山理科大学、愛媛大学工学部との協議（「おかやまCOC＋推進協議会」の後継組織である「おかやま地方創生プラットフォーム」に参画していない大学にも「養成すべき地域産業人材像」について協議。協議の結果、中国学園大学が事業協働機関（参加校）、愛媛大学工学部が協力校として参画することになった）。

(4)岡山県、市町村との協議

(5)おかやま地方創生プラットフォームでの協議

(6)高等学校へのヒヤリング

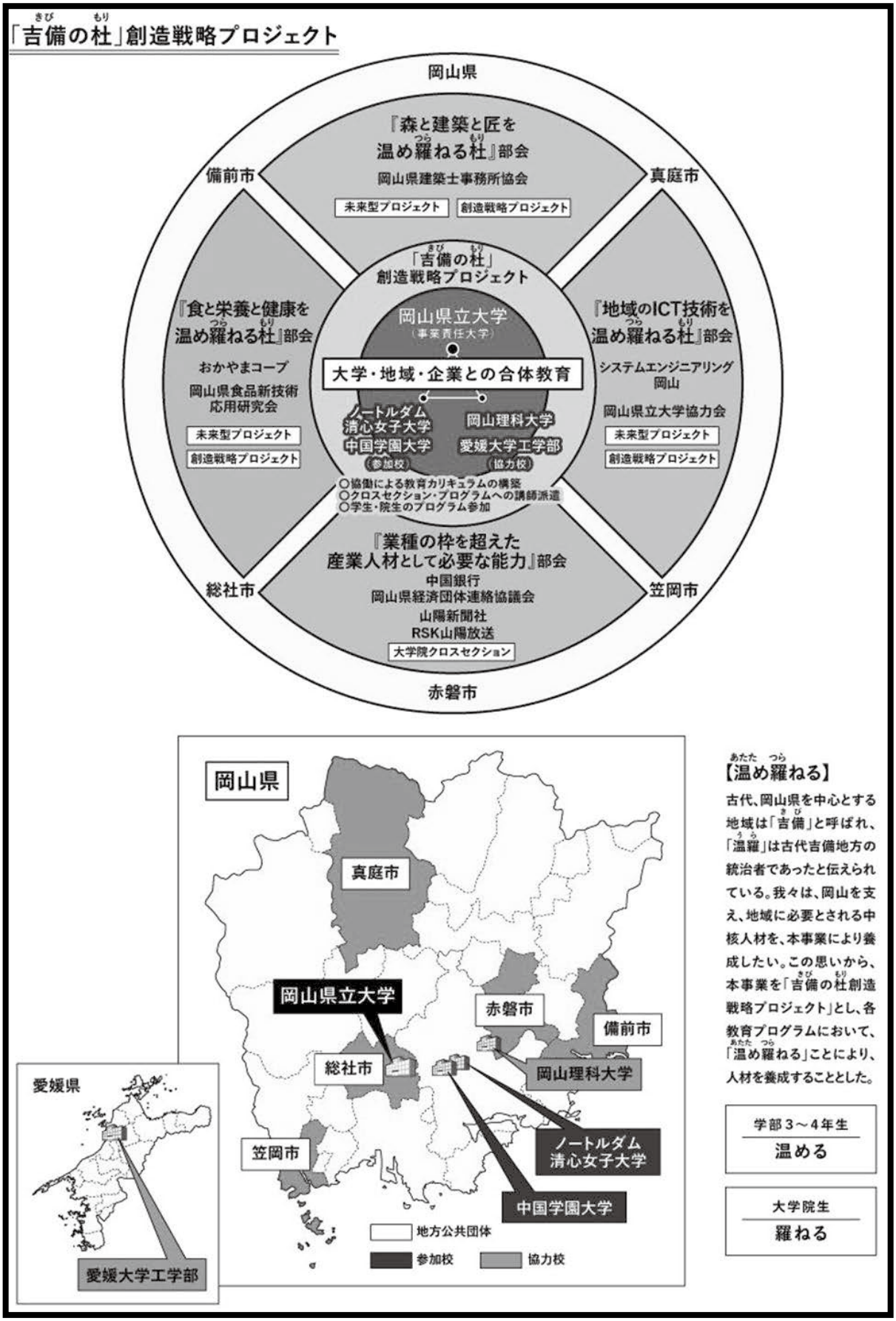
採択された事業の概要は以下のとおりである。

- 事業名：**「吉備の杜」創造戦略プロジェクト　～雑草型人材育成を目指して～**
- 対象地域：岡山県
- 事業期間：令和 2～6 年度
- 事業協働機関：
  - 大学　岡山県立大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学
  - 自治体　岡山県、真庭市、総社市、備前市、赤磐市、笠岡市
  - 企業等　中国銀行、山陽新聞社、RSK 山陽放送、おかやまコープ、岡山県立大学協力会、岡山県食品新技術応用研究会、システムエンジニアリング岡山、岡山県建築士事務所協会、岡山県経済団体連絡協議会
- 本事業の目標・期待される効果：
  - 「県内産業発展に寄与できる人材」を出口（就職先　企業）と一体になって育成するプログラムを構築
  - 予測不可能で急速な変化が生じる未来社会において、多種多様な環境圧をバネにする未来型思考と地域力を有した雑草型リーダーを育成することにより、「高い専門性と幅広い人間力に立脚した地方創生を担う逞しい人材」を輩出

「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの概念図

また、本プロジェクトは、事業協働地域を岡山県とし、岡山県における若者定着と地域活性化を推進するものである。事業協働機関の全てが岡山県内に位置するとともに、担当する地域のほとんどは岡山県であるため、岡山県を対象地域とすることが最も合理的と考える。

事業協働機関との連携については、ノートルダム清心女子大学や中国学園大学とは、地域人材の育成や地域産業の振興等の協働、「食」に関する教育研究の推進に関して相互に連携して取り組んできた実績があり、地方公共団体に関しても、地域創生コモンズにおける協働事業をはじめとする COC＋の取組や共同研究、委託事業、社会連携教育などの実施において、協働して地域貢献事業に取り組んでいる。加えて、本プロジェクトの実施に関係が深い企業等に事業協働機関に加わっていただいている（次ページの連携図参照）。




本プロジェクトに参加していただいている大学、地方公共団体、企業等の連携図

本事業には、教育効果を最大にするための核となるプログラムがある。

即ち、リベラルアーツ教育を行う**「大学院クロスセクション」**と、岡山県の産業特性を踏まえた**「食と栄養と健康を温め羅ねる杜」**、**「地域の ICT 技術を温め羅ねる杜」**及び**「森と建築と匠を温め羅ねる杜」**の 3 つのサテライトプログラムである。

その詳細について以下に述べる。

## ２．３　大学院クロスセクション

本事業の企画に当たって、多くの企業等と意見交換をしたが、産業別の「養成すべき人材像」以外にも、ヒューマンスキル（教養）の重要性に関する非常に多くの意見が寄せられた。

本学で実施した学生に対する卒業時アンケートでも、専門的成長の達成者数が 80％であるのに対し、教養的成長では 60％と低い様相を呈した。この理由として、教養教育が学部低年次生向けに開講されていることが挙げられる。従って、今まで以上に急速に変化する社会で活躍できる人材を育成するためには高年次生に対するカリキュラム改善が急務であり、特に、「高い専門性と幅広い人間力を身に付ける高年次生教育」が本学における今後の最重要な教育改革のポイントと考えた。

さらに、本事業では本質を見極め、自ら考え、自ら行動できる人材養成（＝リベラルアーツ教育）も非常に重要と考え、主要なプログラムの一つとして取り組むことにした。一般的に教養に関する科目は低学年次生に配されることが多いが、高学年次生から大学院生がヒューマンスキルを身に付けることが地域社会に出てから最も必要な資質と位置付けた。

プログラムでは、研究科共通基盤科目として、**＜時事と歴史を読む＞ ＜データサイエンス＞ ＜知の理論＞＜地域資源学＞ ＜地域社会とビジネス＞ ＜アカデミック・プレゼンテーション演習＞**の 6 科目が開講され、講師として地元企業の幹部も登壇する。

これらの履修により、身に付けるべき資質・能力等は以下のとおりである。

- 俯瞰的な視野に立ち、物事の本質をとらえる能力
- 仮説の設定とその検証を可能とするデータ分析能力
- 地域の資源を理解し、それをビジネスへとデザインできる能力
- 異世代や多文化に対応できるコミュニケーション能力

## ２．４　食と栄養と健康を温め羅ねる杜

岡山県の食品業界では、食料生産や機能性食品開発に向けて、食の安全・安心に対して高い倫理観を有し、農業県である岡山県の特産品の桃やぶどうに代表される食資源開発力に基づく食品の生産、加工、流通、消費を通して、岡山県から広く地域社会及び国際社会で活躍できる食のスペシャリストが求められている。

本サテライトプログラムでは、副専攻「岡山創生学」による地域創生の意識付けの後、総社市等の県内企業と協働して、新型コロナウイルスの感染拡大に対応した地産地消の推進を図るとともに、実務的な意欲を醸成する。

また、他学部学生とのプロジェクトを通して、食品技術だけではなく、情報工学的観点及びデザイン力との融合を図ることができるように、高い専門性と深い教養を修得するために、次の教育プログラムを構築する。

＜3 年次＞

2 年次までの社会・環境と健康、人体の構造と機能・疾病の成立ち、食べ物と健康に関する基礎科目での学びを通し、ヘルスサイエンス及びフードサイエンスの土台を確立した後、3 年次には、参加校（ノートルダム清心女子大学、中国学園大学）、協力校（岡山理科大学）、事業協働機関（おかやまコープ、岡山県農林水産総合センター）や、事業協働機関である総社市等の企業との協働により、フードビジネス学を配置し、食品の川上から川下までのシステムを理解し、データ解析能力の基礎を確立する。これと並行して、チームガバナビリティ演習及び地域保健福祉演習で地域社会の多様な人々と協働して課題を解決する能力を育む科目を通して、県内の食品産業の理解を深め、社会や企業から求められる食のスペシャリストについて理解する。

＜4 年次＞

事業協働機関の食品企業と協働し、企業と学生と協働する「未来型プロジェクト〈食〉」を配置し、多様な分野の人とのかかわりを通して、例えば、デザインの観点に基づく人が使いやすい食品パッケージの在り方などから、持続可能な「おかやま」の未来を展望できる雑草型人材の育成に取り組む。

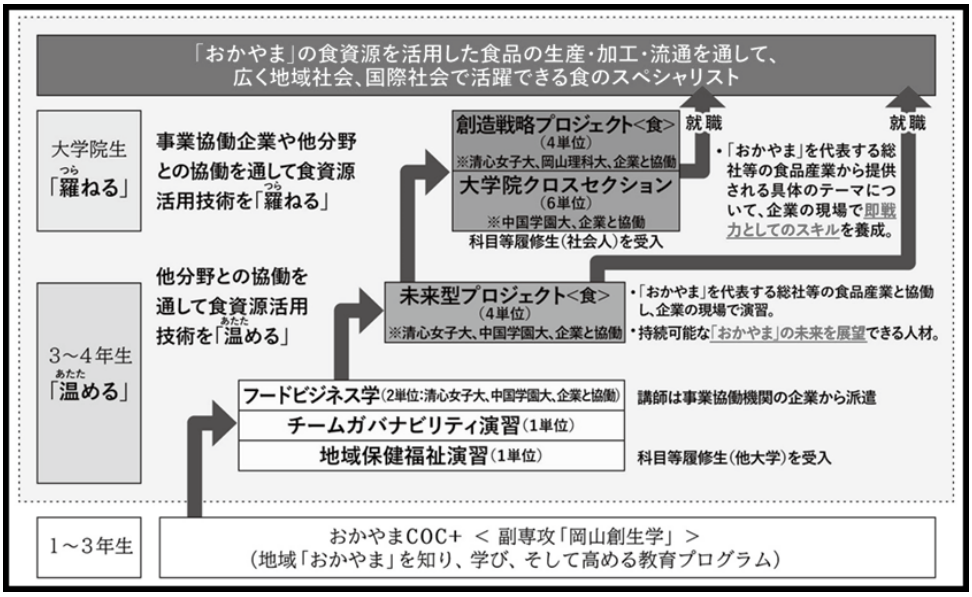
本プログラムにおいて所定の単位を修得すると、「地域創生クリエイター」の称号が授与される。

＜大学院＞

副専攻「岡山創生学」及び 3～4 年次の授業科目を通して、学修した人間力を発展させるべく、全研究科共通の雑草型人材育成科目を配置する。また、これと並行して、食品産業から提供される具体的なテーマに対し、事業協働機関と協働して、即戦力としてのスキルを醸成する「創造戦略プロジェクト〈食〉」を配置し、プロジェクトの企画、運営、情報発信などのスキルを身に付けることを目的としたグループワークなども行う。

本プログラムにおいて所定の単位を修得すると、「創造戦略プロデューサー」の称号が授与される。

以上により、岡山県の特産品の桃やぶどうに代表される食資源開発力に基づく食品の生産、加工、流通、消費を通して、食のスペシャリストとして岡山県から広く地域社会及び国際社会で活躍できる能力を身に付ける。




食と栄養と健康を温め羅ねる杜

## ２．５　地域の ICT 技術を温め羅ねる杜

岡山県の産業界では、ICT先端基盤技術（組込みシステム、AI、セキュリティ）を理解し（温め）、これらを融合する（羅ねる）とともに、様々なデータを分析、概念化することにより、新しい情報システムの創出に取り組み、従来からの農業機械、繊維に加え、石油、化学、鉄鋼、自動車など「おかやま」のものづくり産業を中心とする地域産業拡大に安全・安心な知能化をもって寄与できる技術者が求められている。県内には、高い技術力を持ってはいるものの、学生による認知度が十分ではないために、学生の就職行動に繋がっていないものづくり企業が多い。

本サテライトプログラムでは、これを解決すべく、副専攻「岡山創生学」による地域創生の意識付けの後、県内企業と協働して、「Society 5.0」の実現を目指して、実務的なものづくりへの意欲を醸成する。また、他学部学生とのプロジェクトを通して、ICT技術だけではなく、保健福祉的観点及びデザイン力との融合を図ることができるように、高い専門性と深い教養を修得するために、次の教育プログラムを構築する。

＜3 年次＞

協力校（岡山理科大学）等との協働により組込みシステム・IoT、AI及び情報セキュリティの総論的講義科目を配置し、オンラインで学習することで、所属大学に居ながら基礎を確立する。これと並行して、事業協働機関の企業と協働し、企業のトップを講師とする技術者としての倫理観等を醸成する授業科目を通して、県内産業の理解を深め、求められる技術者像を理解する。

＜4 年次＞

事業協働機関の企業と協働し、企業と学生と協働する「未来型プロジェクト〈ICT〉」を配置し、多様な分野の人とのかかわりを通して、例えば、福祉自動車へのニーズ、人間工学に即した自動車デザインの在り方などから、持続可能な「おかやま」の未来を展望できる雑草型人材の育成に取り組む。

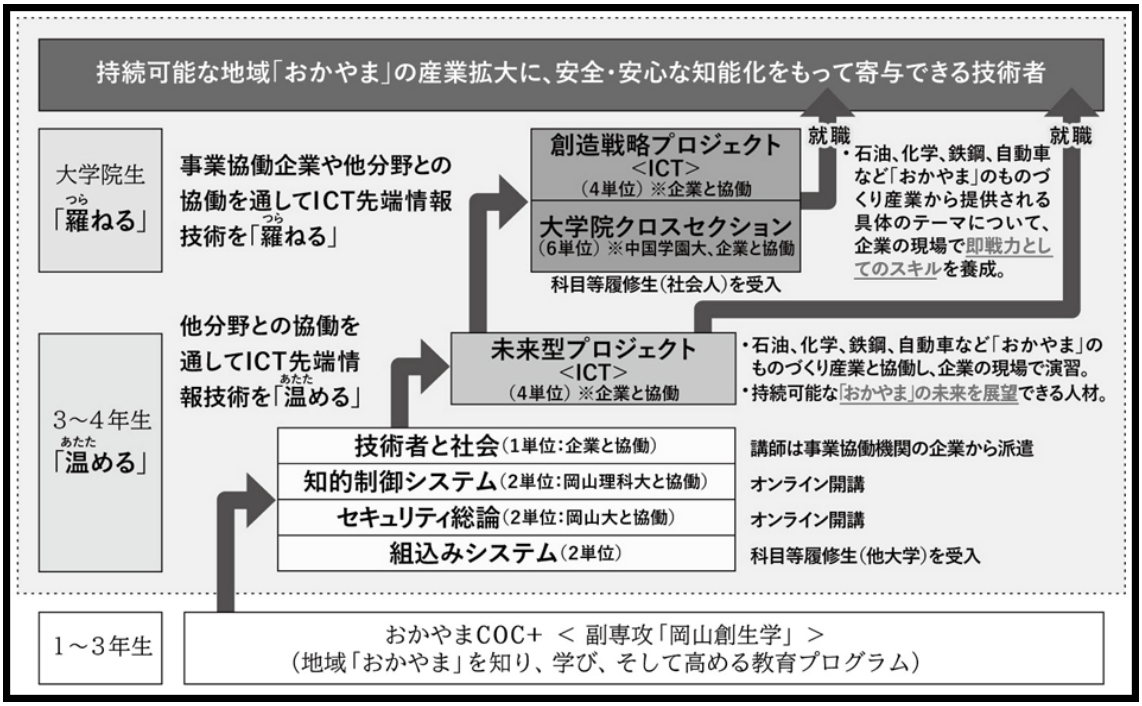
本プログラムにおいて所定の単位を修得すると、「地域創生クリエイター」の称号が授与される。

＜大学院＞

副専攻「岡山創生学」及び 3～4 年次の授業科目を通して、学修した人間力を発展させるべく、全研究科共通の雑草型人材育成科目を配置する。また、これと並行して、石油、化学、鉄鋼、自動車産業を中心とする、ものづくり業界から提供される具体的なテーマに対し、事業協働機関と協働して、即戦力としてのスキルを醸成する「創造戦略プロジェクト〈ICT〉」を配置し、プロジェクトの企画、運営、情報発信などのスキルを身に付けることを目的としたグループワークなども行う。

本プログラムにおいて所定の単位を修得すると、「創造戦略プロデューサー」の称号が授与される。

以上により、ICT先端基盤技術（組込みシステム、AI）と、さらに重要性を増すセキュリティとを融合することを通して、新しい情報システムの創出に取り組み、「おかやま」の地域産業拡大に安全・安心な知能化をもって寄与できる技術者を養成する。




地域の ICT 技術を温め羅ねる杜

## ２．６　森と建築と匠を温め羅ねる杜

岡山県の建築業界では、木造建築の素材としての木、木が生まれる森林環境、森林を支える地盤、地盤に建つための木造構造設計技術と大工技術、これらに関わる知識と技術をバランス良く統合する能力（設計力）、加えて、木・テキスタイル・セラミックなどの自然から生まれた素材の力を活かしながら心地よい住環境を生み出す能力（デザイン力）を持つ技術者が求められている。

本サテライトプログラムでは、副専攻「岡山創生学」による地域創生の意識付けの後、真庭市等の企業と協働して、実務的な意欲を醸成する。また、他学部学生とのプロジェクトを通して、建築技術だけではなく、保健福祉的観点及び情報工学的観点との融合を図ることができるように、高い専門性と深い教養を修得するために、次の教育プログラムを構築する。

＜3 年次＞

協力校（岡山理科大学）及び企業との協働により、環境デザインの基礎科目となる森林生態・地盤工学、木構造学・木構造デザインの講義を配置するとともに、事業協働機関である真庭市等の企業との協働により森林での演習課題に取り組む。現在の大学における建築教育で軽視されがちな木造建築について、木構造及び木構造デザインのスペシャリストによる講義を通じて、木構造設計の基礎と木造建築のデザインの可能性についての知見を修得する。

＜4 年次＞

3 年次に修得した環境デザインの基礎を統合する設計演習に取り組むとともに、事業協働機関である真庭市等の企業との協働により、「未来型プロジェクト〈森と木〉」を配置し、多様な分野の人とのかかわりを通して、持続可能な「おかやま」の未来を展望できる雑草型人材の育成に取り組む。

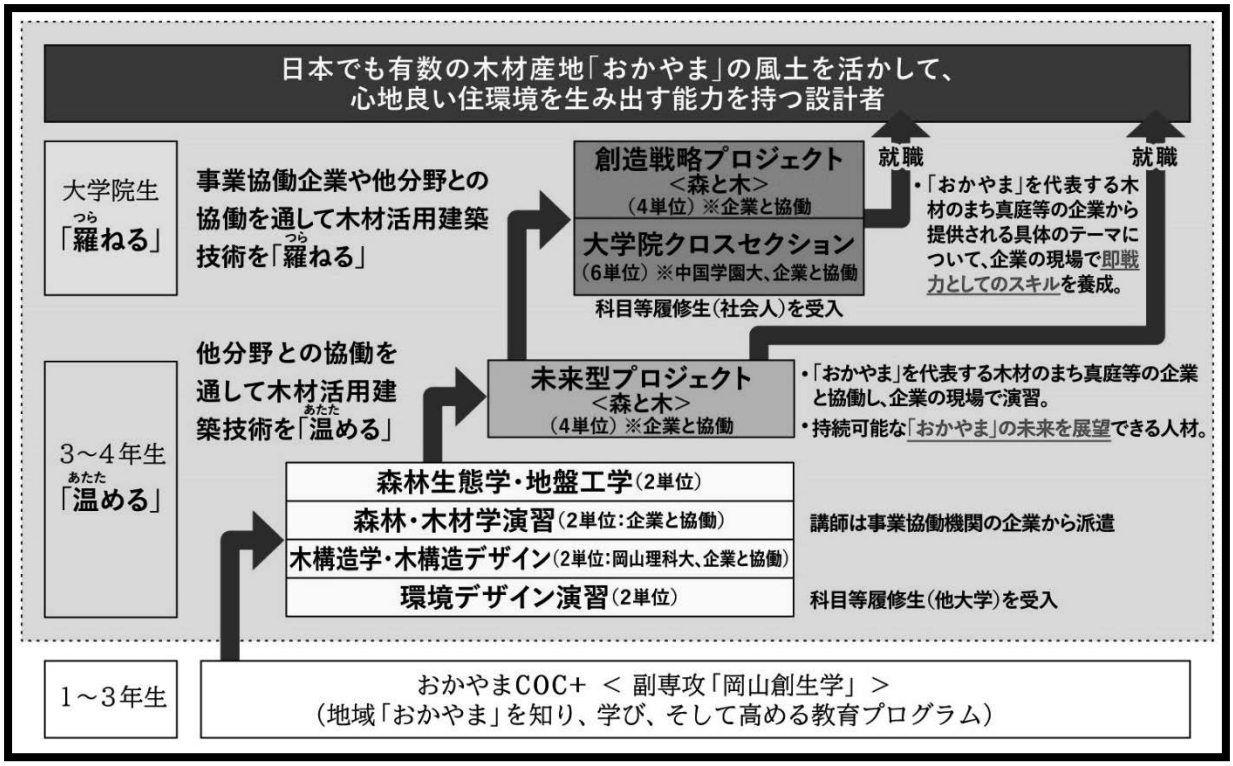
本プログラムにおいて所定の単位を修得すると、「地域創生クリエイター」の称号が授与される。

＜大学院＞

副専攻「岡山創生学」及び 3～4 年次の授業科目を通して、学修した人間力を発展させるべく、全研究科共通の雑草型人材育成科目を配置する。また、これと並行して、建築業界から提供される企業からの具体的なテーマに対し、事業協働機関や企業と協働して、即戦力としてのスキルを醸成する「創造戦略プロジェクト〈森と木〉」を配置し、プロジェクトの企画、運営、情報発信などのスキルを身に付けることを目的としたグループワークなども行う。

本プログラムにおいて所定の単位を修得すると、「創造戦略プロデューサー」の称号が授与される。

「木」や「森」、これらを活用する「匠」の技術を有した設計者の養成は脱鉄・コンクリートの観点から全国的に必要とされていることから、本教育プログラムの全国への普及についても取り組む予定である。




森と建築と匠を温め羅ねる杜

## ２．７　実施体制

本プロジェクトの事業協働機関による協議の場として、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップを設置する。

また、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ内に、本プロジェクトで最も重要な活動である「教育プログラムの開発」に関する協議の場として、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトおかやま教育プログラム開発委員会を設ける。

さらに、本プロジェクトの評価を行う場として、「吉備の杜」創造戦略プロジェクト外部評価委員会を設ける。

加えて、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ内に、事業評価部会及び創造戦略アドバイザーを置く。

これらの協議会及び委員会等の目的、業務、組織及び委員は以下のとおりである。

「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ

【目的】本プロジェクトに参加する高等教育機関、地方自治体、企業等（以下「事業協働機関」という。）は、地域が求める産業人材の養成を行うための教育プログラムの構築・展開を通じ、若者の地元定着と地域の活性化を図ることを目的に、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップを設置する。

【業務】以下の業務を行う。

(1)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの実施方針・事業計画の策定に関すること

(2)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの実績の自己評価に関すること

(3) 事業協働機関間の調整に関すること

(4) その他「吉備の杜」創造戦略プロジェクトに関し、必要な業務

【組織】本学及びすべての事業協働機関をもって組織する。

【委員】岡山県立大学長ほか、各事業協働機関の長

「吉備の杜」創造戦略プロジェクト教育プログラム開発委員会

【目的】「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ設置・運営規約(第 5 条第 1 項の規定)に基づき、設置する。

【業務】以下の業務を行う。

(1)「吉備の杜」創造戦略プロジェクト教育プログラムの開発

次の 4 つの部会を設ける。

①食と栄養と健康を温め羅ねる杜部会

②地域の ICT 技術を温め羅ねる杜部会

③森と建築と匠を温め羅ねる杜部会

④業種の枠を超えた産業人材として必要な能力部会

(2) その他教育プログラムの開発に関する事項

【組織】本学及びすべての事業協働機関をもって組織する。

【委員】事業責任大学、参加校担当副学長ほか、各事業協働機関から 1 名から 3 名

「吉備の杜」創造戦略プロジェクト外部評価委員会

【目的】「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ設置・運営規約（第 6 条第 2 項の規定)に基づき、設置する。

【業務】以下の業務を行う。

(1)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップの自己評価に基づいて行うプロジェクトの実績評価の点検、及びその評価に関すること

(2) その他評価に関し必要な事項に関すること

【組織及び委員】岡山県立大学長が指名する学外の有識者をもって組織する。

「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ事業評価部会

【目的】「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ設置・運営規約（第 7 条第 3 項の規定)に基づき、設置する。

【業務】以下の業務を行う。

(1)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの教育プログラムの評価指標の設定に関すること

(2)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトプログラムディレクターの作成するレポートの分析に関すること

【組織及び委員】岡山県総務部総務学事課長、岡山県立大副学長(教育担当)、ノートルダム清心女子大学人間生活学研究科長、中国学園大学担当副学長、株式会社中国銀行ソリューション営業部長、岡山県経済団体連絡協議会事務局長をもって組織する。

<u>「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ創造戦略アドバイザー</u>

【目的】「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ設置・運営規約（第8条第2項の規定)に基づき、設置する。

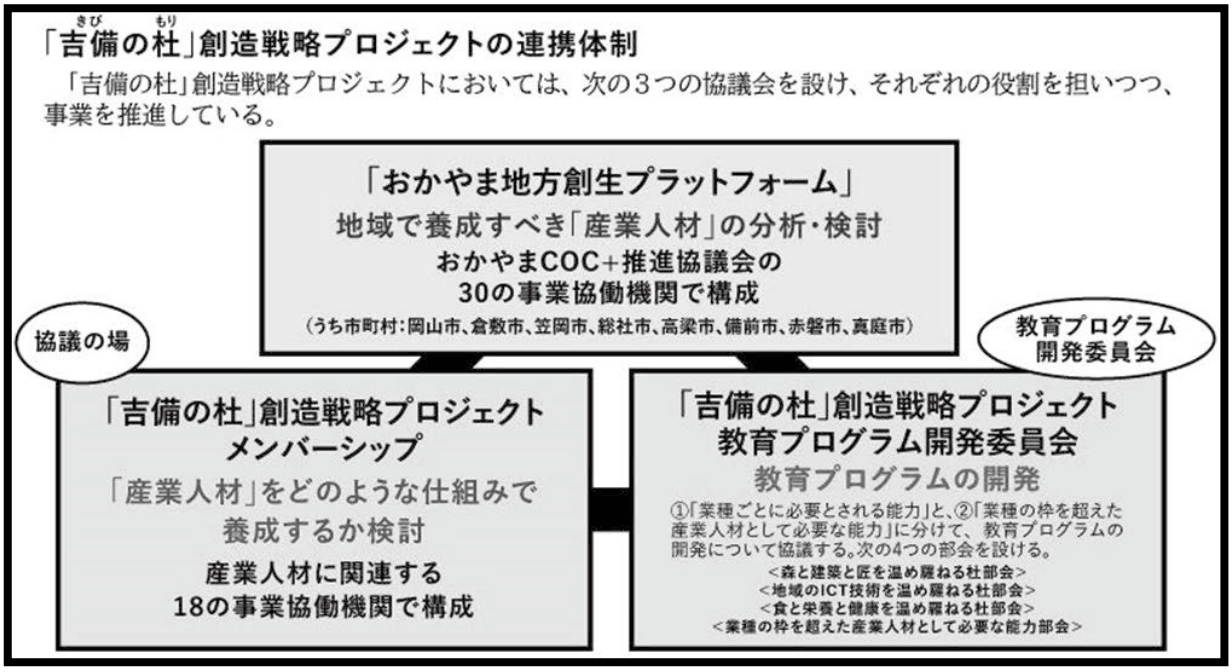
【業務】「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの効果的実施を図るためのアドバイス

【アドバイザー】梶谷俊介岡山トヨタ自動車株式会社社長
中島義雄株式会社システムズナカシマ社長

## ２．８　連携体制

「おかやま COC＋」で取り組んだ地域「おかやま」を知り、学び、そして高める教育プログラムである副専攻「岡山創生学」を基盤とし、その上に、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトを位置付けている。

おかやま COC＋推進協議会の参加機関と同じメンバーで構成する「おかやま地方創生プラットフォーム」では、COC＋の継続とともに、地域で養成すべき「産業人材」の分析・検討などにおいて、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトと密接な関係にあり、「吉備の杜」創造戦略プロジェクト教育プログラム開発委員会とともに、互いに連携して取り組んでいくこととしている。




プロジェクト連携体制

## ２．９　学内実施体制

本学内には、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの円滑な推進を目的に、「吉備の杜」創造戦略プロジェクト推進本部を置いた。推進本部の業務及び組織は以下のとおりである。

「吉備の杜」創造戦略プロジェクト推進本部

【業務】以下の業務を行う。

(1)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの企画立案及び実施に関すること
(2)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの自己評価に関すること
(3) その他「吉備の杜」創造戦略プロジェクトに関し必要な事項

【組織】

(1) 学長（本部長）
(2) 副学長（社会連携担当）、副学長（教育担当）、副学長（学術研究・国際担当）
(3) 保健福祉学部長、情報工学部長、デザイン学部長
(4) 保健福祉学研究科長、情報系工学研究科長、デザイン学研究科長
(5) 共通教育部長
(6) 地域創造戦略センター長
(7) 地域創造戦略センター吉備の杜推進室長、副室長
(8) 地域創造戦略センター社会連携教育推進部門長
(9) 事務局長
(10)地域連携・研究推進課長、教学課長
(11)その他学長が指名する教職員

「吉備の杜」創造戦略プロジェクト推進企画委員会

【業務】以下の業務を行う。

(1)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの教育プログラムの企画・立案に関すること
(2)「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの教育プログラムの推進に当たっての学内調整に関すること

【組織】

(1) 副学長（社会連携担当）【委員長】
(2) 副学長（教育担当）【副委員長】
(3) 共通教育部長
(4) 地域創造戦略センター長
(5) 地域創造戦略センター吉備の杜推進室長
(6) 地域創造戦略センター吉備の杜推進室副室長
(7) 地域創造戦略センター吉備の杜推進室教育プログラム担当教職員
（伊東教授、榊原教授、向山教授）
(8) 地域創造戦略センター社会連携教育推進部門長
(9) 地域連携・研究推進課長
(10)教学課長

「吉備の杜」推進室

【業務】以下の業務を行う。

(1)「吉備の杜」創造戦略プロジェクト推進本部会議が決定した事業の実施に関すること

(2)事業協働機関との連絡調整に関すること

【組織】

(1)「吉備の杜」推進室長（統括プログラムディレクター）

(2)「吉備の杜」推進室副室長（統括補佐プログラムディレクター）

(3)「吉備の杜」推進室員（プログラムディレクター）

(4)「吉備の杜」推進室員（プログラムディレクター）

(5)「吉備の杜」推進室員（事務担当）

## ２．１０　メンバーシップ等の開催

次のとおり、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ等の会議を開催した。

□日　程：令和 3 年 3 月 17 日（水）

□場　所：山陽新聞社 さん太ホール

雇用創出・若者定着に係る連携協力に関する協定書調印式

会議の開催に先立ち、3 大学、6 自治体により協定書を締結するとともに、協定書を掲げて記念撮影を行った。

＜参加者＞岡山県立大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学、岡山県、笠岡市、総社市、備前市、赤磐市、真庭市

「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ、
「吉備の杜」創造戦略プロジェクト教育プログラム開発委員会、
おかやま地方創生プラットフォーム　合同会議

＊「吉備の杜」創造戦略プロジェクト関係

・規約の説明・承認　　メンバーシップ設置・運営規約
　　教育プログラム開発委員会設置・運営規約

・役員等の選出、紹介　　メンバーシップ
　　委員長、副委員長、外部評価委員、
　　事業評価部会構成員、創造戦略アドバイザー
　　教育プログラム開発委員会
　　委員長、副委員長、作業部会構成員

＊おかやま地方創生プラットフォーム関係

・規約の説明・承認

## ２．１１　攻めの広報

本プロジェクトのPRを行うため、次のような普及啓発事業に取り組んだ。

普及啓発資料等の作成

・事業パンフレット　A3 判両面印刷　1,000 部作成

・封筒　角形 2 号　1,000 部作成
　　長形 3 号　1,000 部作成

**キックオフシンポジウムの開催**

□日　　程:令和 3 年 3 月 17 日(水)14:00～17:00
□場　　所:山陽新聞社 さん太ホール
□テ ー マ:育てよう「吉備の杜」～望まれる雑草型人材とは？～
□主　　催:「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ
□共　　催:山陽新聞社
□参加者:535 名(内訳　会場参加:121 名、Web 参加:414 名(当日 100 名、後日 314 名)
□概　　要:総合司会　玉井玲名(岡山県立大学保健福祉学部 4 年)
　　佐藤正義(岡山県立大学情報工学部 4 年)
14:00～ 開会挨拶　沖陽子「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ委員長
　　来賓挨拶　伊原木隆太知事(ビデオメッセージ)
　　来賓挨拶　横井理夫文部科学省地域学習推進課長
　　来賓挨拶　江草明彦山陽新聞社執行役員読者局長
14:20～概要説明　「吉備の杜」の成長を期して
　　沖陽子「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ委員長
14:40～ パネルディスカッション＜Ⅰ部＞　テーマ:一緒に育てよう「吉備の杜」
　　パネリスト
　　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト受講希望学生
　　早川智紗(岡山県立大学保健福祉学部 4 年)
　　佐田　晃(岡山県立大学情報工学部 4 年)
　　橋本拓磨(岡山県立大学デザイン学部 4 年)
　　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト参加予定企業若手社員
　　小野　力(㈱英田エンジニアリング経営企画部　県大OB)
　　RSK山陽放送アナウンス室　石田好伸室長
　　コーディネーター
　　「吉備の杜」推進室　三宅昇室長
15:30～　パネルディスカッション＜Ⅱ部＞　テーマ:大地の恵みを「吉備の杜」へ
　　パネリスト
　　文部科学省地域学習推進課　横井理夫課長
　　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト　梶谷俊介創造戦略アドバイザー
　　(岡山トヨタ自動車㈱社長)
　　総社市　片岡聡一市長
　　真庭市　太田　昇市長
　　中国学園大学　杉山慎策副学長
　　コーディネーター
　　山陽新聞社編集委員室　岡山一郎室長
　　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト事業推進責任者　末岡浩治副学長

16:50～　閉会挨拶　万殿貴志「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ
副委員長（株式会社英田エンジニアリング社長）

●写真追加
●可能であれば、紙面の採録を掲載

## ３．　地（知）の拠点としての活動

３．１　地域との協働

３．２　行政との協働

３．３　企業との協働

３．４　未来人材の育成・輩出

３．５　その他の社会貢献

## ３．１　地域との協働

### ３．１－１　公開講座

**（１）概要**

本学では毎年、県民を対象とした公開講座を開催している。本年度の公開講座では、情報工学部が担当し、「私たちの生活を変える AI」をテーマに、2 日間 4 講座を実施した。

**（２）日程等**

テ ー マ ： 私たちの生活を変える AI

担当学部： 情報工学部

受講対象： 県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人

そ の 他 ： 全 2 回のうち両日とも出席の者に修了証書を交付した。

| 日　程 | | テーマ | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 9 月 5 日（土） | 10:00～10:10 | 開　講　式 | 学　長　　沖　陽子 |
| | 10:10～11:10 | 身近になった人工知能 | 教　授　伊藤　照明 |
| | 11:10～12:10 | AI による画像処理技術のシンカ | 准教授　滝本　裕則 |
| 9 月 12 日（土） | 10:00～11:00 | ゲームでひもとく人工知能の歴史 | 准教授　但馬　康宏 |
| | 11:00～12:00 | 将棋の AI 技術 | 助　教　　芝　世弐 |
| | 12:00～12:10 | 閉　講　式 | 学部長　榊原　勝己 |

**（３）開催状況**

（1）参加者

| 居住地 | 人数 | 比率 |
|---|---|---|
| 岡山市 | 35 | 49.3% |
| 総社市 | 12 | 16.9% |
| 倉敷市 | 10 | 14.1% |
| その他 | 14 | 19.7% |
| 計 | 71 | 100.0% |

| 年齢 | 人数 | 比率 |
|---|---|---|
| 10 歳代 | 33 | 46.5% |
| 20 歳代 | 4 | 5.6% |
| 30 歳代 | 3 | 4.2% |
| 40 歳代 | 6 | 8.5% |
| 50 歳代 | 7 | 9.9% |
| 60 歳代 | 6 | 8.5% |
| 70 歳以上 | 11 | 15.5% |
| 不明 | 1 | 1.4% |
| 計 | 71 | 100.0% |

・受講者数:71 名
・修了証交付者数:58 名

（2）参加者からの意見・感想

- 大変分かりやすい内容で楽しく学ぶことができた。
- AI を身近に感じることができた。
- AI に興味がわいた。

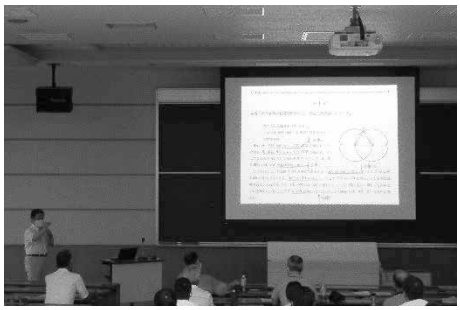
**（４）今後に向けて**

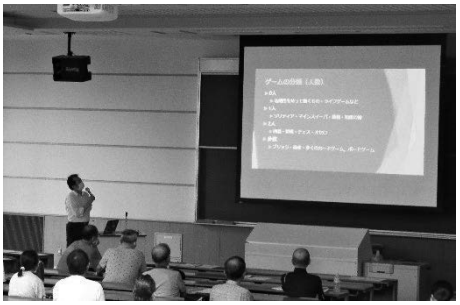
今回の講座は、「私たちの生活を変える AI」をテーマに、情報工学部教員の研究内容を取り入れた講義を実施した。近年メディア等で目にすることが増えた AI（人工知能）を扱ったテーマに、年齢層の幅広い受講者が見られ、特に 10 代の受講者が多く見られた。一見すると難解に思えるテーマではあったが、私たちの生活やゲームに関連した身近な内容であったため、受講者からは大変好評であった。

本学の公開講座は、例年 40 代以上の中高年者の受講が多く、テーマを問わず受講くださるリピ

ーターも存在する。今後も高度な専門的知識を得たいという受講者の要望に応えつつ、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学において蓄積した知識、技術ならびに研究シーズをより多くの地域住民に、身近に感じてもらえる工夫をしていくことが必要である。

○開催の様子





○募集案内チラシ

○過去のテーマ一覧

| 年度 | 担当 | テーマ |
|---|---|---|
| H25 | 情報工 | 快適な暮らしを求めてー現代における情報技術ー |
| H26 | 保健福祉 | 認知症と向き合う～安心して豊かな老後を過ごすために～ |
| H27 | デザイン | 地域が求めるもの～「デザインのチカラ」 |
| H28 | 情報工 | 地域を活かす情報技術 |
| H29 | 保健福祉 | 知って得する糖尿病との付き合い方 |
| H30 | デザイン | 美と芸術について考える |
| R1 | 共通教育 | テクストの中の〈世界〉 |

### ３．１－２　吉備創生カレッジ

岡山県は、全国的に見ても充実した高等教育機関の集積地である。このため、県内15の四年制大学が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の資質向上や地域社会への貢献等を目指す目的で、平成 18 年 4 月に「大学コンソーシアム岡山」が発足し、現在では正会員として 18 大学が参加している。さらに、特別会員として 4 短期大学及び 1 高等専門学校が加わっている。

「大学コンソーシアム岡山」は、事業のひとつとして社会人教育事業「シティ・カレッジ」を県内各地で開講したが、同時に、山陽新聞社でも、県内の大学の協力を得て、生涯学習講座「山陽新聞カレッジ」を開始した。この 2 つの事業は、趣旨・目的がほぼ同様であることから、受講生にわかりやすくするため、平成 19 年度から「吉備創生カレッジ講座」として統合された。

本学は、中期計画及び年度計画で講師派遣を行うこととしており、本年度は下表の 2 講座を提供した。 開催場所はいずれも吉備創生カレッジ・さん太キャンパスであり、講義開催日数は 2 日であった。

| 期 | 日　時 | 担当教員 | 講座名 | 内　　容 |
|---|---|---|---|---|
| 前期 | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、4 月に予定していた当学の 2 講座は中止となった。 | | | |
| 後期 | R2.10.15 | 情報工学部<br>教授<br>岩橋　直人 | 人工知能最前線<br>（科学講座） | 人間と協力できる人工知能を作るために、協力を成立させる認知原理および数理原理を解明し、実際に動作するシステムの開発と評価により応用展開の可能性を明らかにしようとする研究フレームワーク「協力の理論」。 |
| | R2.11.14 | 保健福祉部<br>教授<br>入江　康至 | 腸内環境を整えて介護予防<br>（医療福祉講座） | フレイルとは加齢により心身が衰えた状態のことである。便秘を伴うことが多く、腸内環境の異常が、低栄養、合併症、生活の質の低下、介護者への負担増加につながる。フレイルと腸内環境の関係について考える。 |

## ３．１－３　高大連携活動

| 高校名 | 担当学部 | 教員名 | | 講義内容等 | 受講人数 | 学年 | 実施日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岡山芳泉 | 情報工学 | 教授 | 穂苅　真樹 | 情報工学部の説明 | 61 | 1-3 | R2.6.13 |
| 岡山南 | 保健福祉 | 教授 | 高戸　仁郎 | 「介護予防について」講義・実技指導 | 14 | 3 | R2.6.15 |
| 総社南 | 情報工学 | 教授<br>教授<br>教授<br>教授<br>准教授<br>准教授<br>准教授<br>准教授<br>助教<br>助教<br>助教<br>助教 | 榊原　勝己<br>佐藤　洋一郎<br>綾部　誠也<br>穂苅　真樹<br>國島　丈生<br>福田　忠生<br>山内　仁<br>大下　和茂<br>荒井　剛<br>芝　世弐<br>太田　俊介<br>吉田　智哉 | Linux PC を用いた Web の基盤技術に関する実験<br>3 次元 CAD の入門<br>デジタル画像処理による画像加工<br>骨格筋収縮時の筋電信号<br>圧電素子を用いた生体情報の計測 | 74 | 2 | R2.9.16 |
| 総社 | デザイン | 准教授 | 朴　貞淑 | 住環境※ | 11 | 2 | R2.10.13<br>10.27 |
| | | 教授 | 嘉数　彰彦 | 映像デザイン※ | | | R2.11.17 |
| | | 准教授 | 舩山　俊克 | プロダクトデザイン※ | | | R2.11.24 |
| | | 准教授 | 作元　朋子 | セラミックデザイン※ | | | R2.12.1<br>12.15 |
| 倉敷南 | 保健福祉 | 准教授 | 佐々木　新介 | 「キャリアⅠ」学問の哲人講座:フィジカルアセスメントについて | 56 | 2 | R2.11.19 |
| 岡山南 | 保健福祉 | 教授 | 高戸　仁郎 | 「高齢者の健康」について | 79 | 2 | R2.11.25 |
| 倉敷南 | 保健福祉 | 准教授 | 岡崎　愉加 | 自他の生命、多様性の大切さについて | 320 | 1 | R2.12.10 |
| 岡山学芸館 | 保健福祉 | 教授 | 近藤　理恵 | 高校生の課外活動について<br>1.里親政策の現状と課題<br>2.養子縁組政策の現状と課題 | 2 | 2 | R3.2.4 |

※　講義内容等の※印は連携講座（高校が単位認定を行うことができるもの。）

## ３．１－４　附属図書館の活動

### （１）地域への一般開放

当館は、平成21年度より教育研究に支障のない範囲で、一般開放を行っている。館内では自由に蔵書の閲覧ができるほか、OPAC専用端末による蔵書検索や所蔵している文献の複写、DVD・ビデオなどの視聴が可能となっている。また、平成28年度から18歳未満の方の利用も可能としている。

なお、学外の方が入館するには、申込書への記入及び下表に示す証明書等の提示が必要となる。更に、利用者カードを申請することにより図書の貸出も可能である。貸出の対象と冊数及び期間は下表に示すとおりである。

利用資格

| 区　　分 | | 入館に必要なもの |
|---|---|---|
| 県内（注 1） | 18 歳未満の方(注 2) | 学生証（生徒手帳）又は身分が証明できるもの |
| | 大学関係者(注 3) | 所属大学の学生証又は身分が証明できるもの |
| | 上記以外の 18 歳以上の方 | 身分が証明できるもの(注 4) |
| 県外 | 県外の方 | |

(注 1)県内居住者等とは、岡山県内に居住又は通勤・通学をされている方
(注 2)小学生以下の方がご利用の場合は、保護者の同伴及び申込書への署名が必要
(注 3)岡山県大学図書館協議会加盟校の方
(注 4)運転免許証・保険証等又は公共料金郵便物の住所が記載されているもの（コピー可）

貸出の対象、貸出冊数及び貸出期間

| 貸出の対象 | 貸出冊数 | 貸出期間 |
|---|---|---|
| (1) 岡山県大学図書館協議会加盟校の教職員・学生 | 5冊まで（図書のみ） | 14日以内 |
| (2) 本学卒業生など | | |
| (3) 県内に居住または通勤・通学し、許可を受けた方 | 3冊まで（図書のみ） | |

貸出については、本学における教育研究を優先するため、定期試験開始日の2週間前から試験期間終了日までの約1ヶ月間は行わないこと、ならびに、貸出期間内でも返却の依頼をする等の制約を設けている。平成21年度から利用者カードを発行し、令和3年3月末現在までの発行枚数は3,050枚であった。令和2年度の学外の方への新規利用者カード発行枚数は2枚であり、貸出は10冊であった。

また、令和2年度の学外の方の図書館利用実績は、本学卒業生が2人、一般の方が8人であった。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により本学の教育研究活動にも制約があることから、一部のサービス（資料の返却、岡山県立図書館インターネット予約資料の受け渡し）を除く一般開放を4月初めから停止している。

### （２）岡山県内図書館との連携

当館は、岡山県立図書館（以下「県立図書館という」）が中心となって行っている「岡山県図書館横断検索システム」、「岡山県図書館間相互貸借システム」に参加している。このシステムは岡山県内の公共図書館や加盟している大学図書館の図書資料を一括で検索することができるほか、借りたい資料が近隣の図書館にない場合でも、県立図書館を通して県内の他の図書館から無料で取り寄せることが可能となっている。令和2年度にこのシステムを通じて県民へ貸出した冊数は、74冊であった。

また、当館は県立図書館の返却窓口及びインターネット予約資料の受渡館にも指定されている。県立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、県立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「岡山県立大学附属図書館」を選択することにより予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができる。令和2年度に返却窓口として利用された本は253冊、インターネット予約で受渡館として利用された本は323冊であった。

平成30年11月から学内者に限り、県立図書館と協力し、利用者カードの発行を行えるようになった。これまでのカード発行枚数はのべ23枚である。

### （３）総社市健康インセンティブ事業への協力

総社市健康インセンティブ事業「歩いて獲得健康商品券」への協力として、図書館エントランスに事業参加者が利用できるリーダーとモバイルルーターの設置を昨年度に引き続き行っている。

### （４）学術情報の発信

本学の研究成果を学内外の方に広く活用してもらうため、岡山県立大学学術情報リポジトリにより、本学発行紀要（岡山県立大学保健福祉学部紀要、岡山県立大学デザイン学部紀要及び岡山県立大学教育研究紀要）のほか、学術雑誌に掲載された論文等を公開している。

### ３．１－５　異文化理解の活動

語学教育推進室では、全学対象の語学教育の責任を担いつつ、同時に地域に開かれた組織を目指し、国際社会を生き抜くために必要とされる語学力や異文化理解を促す事業を企画し、地域の方々にも広く公開して参加を呼びかけている。グローバルに事象を見て考え、ローカルに行動できる人材作りを目標とする際に、異文化・多文化理解は必須である。

#### (1)スピーカーズ・コーナー

スピーカーズ・コーナーは、コンテストという競争形式ではなく、学生の自由な発想のもとに英語、韓国語、ドイツ語といった外国語でのスピーチをすることができるイベントである。学生の語学力向上と地域社会とのつながりを目指し、毎年秋の大学祭1日目に行われる恒例行事となっている。

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため大学祭が中止されたことを受け、スピーカーズ・コーナーも実施を見送った。

#### (2)海外研修等

語学教育推進室では、学生の異文化理解を進めるために海外研修にも携わっている。

例年、4 月下旬に前年度の海外研修等の報告会を開催し、その後、当該年度の研修の参加者募集を行なうが、本年度は新型コロナウイルスの世界的流行を受け、語学文化研修、スタディツアーなどの海外研修はすべて中止することを余儀なくされた。

今年度中止となった研修は以下のとおりである。

語学文化研修
- ・バンガー大学（英国）
- ・アデレイド大学（オーストラリア）
- ・梨花女子大学（韓国）

海外研修（保健福祉学）
- ・又松大学校（韓国）
- ・アデレイド TAFE（オーストラリア）
- ・香港理工大学（香港）

スタディツアー
- ・ポートランド州立大学（米国）

海外研修は学生が現地でその国の文化、事物、人々に直接触れることにより異文化理解を深める貴重な機会である。新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息と、海外へ自由に渡航できる環境の回復を願っている。

## ３．１－６　健康・スポーツ推進の活動

### （１）概要

岡山県立大学健康･スポーツ教育推進室は、大学におけるスポーツ関連の授業や課外活動が安全かつ円滑に行える環境を確保し、スポーツを通じた学生･教職員の親睦と健康維持を推進している。さらに、大学のスポーツ施設の有効利用を可能な限り学外にも広げ、健康･スポーツの面から地域に貢献することを目指している。

### （２）管理体制の実質化

岡山県立大学の運営規程におけるスポーツ関連施設の管理責任者は事務局長であるが、施設の状況に精通した教員による実質的な｢スポーツ施設管理者主任｣を 2 名置いている。

屋内スポーツ施設管理主任(体育館･プール)

屋外スポーツ施設管理主任(陸上競技場･野球場･グラウンド(サッカー場)･テニスコート)

スポーツ施設管理主任の所掌事項は主に以下の 3 点である。

①施設･用具の点検と要望の把握

②施設･用具の補修補充に関する協議･実行･報告

③施設･用具の安全使用と整理整頓等の啓発

### （３）施設・設備の充実

スポーツ施設の地域開放をにらみ、体育館アリーナを全面メンテナンスし、野球場の表土の補充、陸上競技場フィールド内の芝の養生を行った。また体育館で授業や講習会などを実施する際の感染症予防対策として、拡声器や液晶プロジェクターおよびスクリーンなどを新規に導入した。安全に施設を利用できるよう、老朽化して使用者に危険が及ぶ可能性がある設備について調査、適切な処分を行った。

### （４）公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項

平成 21 年 10 月より実施してきた本学の体育施設の地域開放の対象を、岡山県内に住所を有する者及び勤務する者を主な構成員(1/2 以上)とする団体へと拡大している。

### （５）大会・行事

**地域貢献スポーツ大会**

感染防止を優先し、今年度予定されていた大会は全て中止した。

### （６）今後の展望と課題

地域へのスポーツ施設の貸し出しは 4 月の緊急事態宣言発出以降、宣言が解除されても開放できる状況には至っていないと判断され、貸し出しを休止している。今後は、幅広い世代が本学の体育･スポーツ施設を活用できるように、新しい生活様式に即した施設使用のあり方を検討することも必要と思われる。一方で施設の老朽化も進んでいる

ため、安全で快適に利用できる対策の再検討も含め、補修・管理をしていく予定である。

**（７）関連資料**

体育施設の地域開放について(公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項)
平成21年11月から貸付対象施設の貸し出しを開始した。

**① 貸付対象施設および本年度貸付実績**

野球場　　なし

グラウンド(サッカー場)　なし

**② 貸付対象者**

1) 岡山県内に住所を有する者及び岡山県内に勤務する者を主な構成員(1/2以上)とする団体

2) その他理事長が特に使用を認めた者

**③ 利用可能時間帯**

1) 時期　通年(12月29日から翌年1月3日を除く)

2) 時間　9:00～日没まで(19:00を限度)

**④ 予約申込**

受付は、平日9:00～17:00まで、事務局総務課窓口

**⑤ 受付期間**

希望日の前月の1日から15日の間

**⑥ 貸付許可**

理事長が、健康・スポーツ教育推進室長の意見を聞いて適当と認められるときに許可する。なお、施設使用の公平を図るため必要があるときは、同一申請者が施設を使用する回数又は時間を制限する場合がある。

**⑦ 利用料金**

| 施設名 | 金額(1時間当たり) | |
|---|---|---|
| 野球場 | 一般 | 2,000円 |
| | 高校生以下 | 500円 |
| グラウンド(サッカー場) | 一般 | 2,000円 |
| | 高校生以下 | 500円 |

**⑧ 貸付条件**

1) 施設使用に当たっては、本学の諸規程や指示に従うとともに、使用開始時及び使用終了時に体育施設管理人に報告し、確認を受けること。

2) 施設の使用中に生じた事故及び損害について、借受人がその一切の責任を負うこと。

**⑨ 問い合わせ先**

岡山県立大学事務局総務課　℡:0866－94－2111(代)

## ３．２　行政との協働

### ３．２－１　岡山県への貢献

本学の設置者である岡山県へは各種の委員会やイベントで多くの貢献を行ってきた。本学は保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部から構成されており、委員の応嘱状況は下記のとおりである。

| | 岡山県 | 岡山県<br>教育委員会 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 保健福祉学部 | 37 | 3 | 40 |
| 情報工学部 | 8 | 0 | 8 |
| デザイン学部 | 13 | 0 | 13 |
| 合計 | 58 | 3 | 61 |

保健福祉学部では、介護保険審査会、社会福祉審議会、子ども・子育て会議、食の安全・食育推進協議会など学部の特性に応じた委員会の他に、環境審議会、都市計画審議会などに貢献している。情報工学部では、高度情報化推進協議会、工業技術センター外部評価委員会などに貢献している。デザイン学部では、都市計画審議会、建築士審査会などの他に、土地開発審査会、環境影響評価技術審査会などにも貢献している。

また、共同研究・受託研究等の詳細は 4.2-1 を参照されたい。デザイン学部では学部の特色を活かし、共同研究としてポスターやグッズ等のデザイン、動画やウェブサイトの作成等を行っている。

### ３．２－２　市町村への貢献

県内市町村及び県外への委員の応嘱状況は以下のようになっている。

| | 保健福祉学部 | 情報工学部 | デザイン学部 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 国 | 1 | 7 | 0 | 8 |
| 総社市 | 16 | 1 | 4 | 21 |
| 岡山市 | 6 | 0 | 6 | 12 |
| 倉敷市 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| 笠岡市 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 備前市 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 浅口市 | 3 | 0 | 1 | 4 |
| 瀬戸内市 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 高梁市 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 赤磐市 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 真庭市 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 玉野市 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 美咲町 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 早島町 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 滋賀県 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 広島県 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 徳島県 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 兵庫県神戸市 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 奈良県三郷町 | 2 | 0 | 0 | 2 |

| | 保健福祉学部 | 情報工学部 | デザイン学部 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 滋賀県草津市 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 滋賀県守山市 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 三重県亀山市 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 愛媛県今治市 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 香川県高松市 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 37 | 11 | 28 | 76 |

活動の内容は、地域の福祉、介護、子育て、健康などに関するものが多くを占めている。なお、総社市との間では、平成 20 年に締結した包括連携協定に基づき様々な活動を行っており、本学が有する知識や情報、研究成果を地域に還元する一方、総社市からはインターンシップの提供等のサポート受ける相互支援体制を形成している。

（総社市との主な連携事業）

**[連携活動において地域に貢献したもの]**

① 共同研究等の実施

【共同研究・受託研究等実績(行政関係)3.2-4 を参照】

② 岡山県立大学子育てカレッジ

【地域連携部門実績(4.3-4)を参照】

**[連携活動において支援を受けたもの]**

① 共通教育講義「大学で学ぶ」への講師派遣【令和 2 年 5 月 27 日(水)】
オンライン
「人間力」(講師:片岡市長) ※ 新入生約 400 名を対象

② インターンシップの実施【令和 2 年 9 月 1 日(金)～12 月 11日(金)】
インターンシップ報告会では学生一人ひとりが体験で得た成果を報告するとともに総社市へ提言を行った。

### ３．２－３　各種委員・講師の応嘱（行政関係）

本学における令和 2 年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

| 区　分 | 国・独立行政法人 | 県 | 市町村 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 保健福祉学部 | 1 | 42 | 34 | 77 |
| 情報工学部 | 7 | 8 | 4 | 19 |
| デザイン学部 | 0 | 14 | 27 | 41 |
| 合　計 | 8 | 64 | 65 | 137 |

※ 公表を制限されているものを除く

本学における令和２年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

| 区　分 | 国・独立行政法人 | 県 | 市町村 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 保健福祉学部 | 1 | 13 | 12 | 26 |
| 情報工学部 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| デザイン学部 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 合　計 | 1 | 13 | 14 | 28 |

## ３．２－４　共同研究・受託研究等（行政関係）

### （１）共同研究

| 相手方 | 題目 | 研究代表者 |
|---|---|---|
| 総社市 | 総社市が実施する健康づくり事業の医療費等事業効果分析 | 情報工学部<br>綾部誠也教授 |
| 吉備中央町 | 地域創生におけるPR手法（移住促進企業ガイドブック）の研究 | デザイン学部<br>髙橋俊臣准教授 |
| 矢掛町 | 砂糖の代わりにステビアを用いた菓子の開発と健康効果 | 保健福祉学部<br>住吉和子教授 |
| 矢掛町 | 青唐辛子の商品化に関するパッケージデザインの研究 | デザイン学部<br>中西俊介准教授 |
| 矢掛町 | カリムティー（5種ブレンド茶）の商品化に関するパッケージデザインの研究 | デザイン学部<br>中西俊介准教授 |
| 総社市 | マスク着用啓発活動による総社デニムマスクのプロモーション | デザイン学部<br>髙橋俊臣准教授 |
| 総社市 | 総社デニムマスクを用いた地域住民へのデッサン教室を通じた交流 | デザイン学部<br>髙橋俊臣准教授 |

### （２）受託研究

| 相手方 | 題目 | 研究代表者 |
|---|---|---|
| 岡山県<br>（産業労働部産業振興課） | 電気自動車用モータコントロールユニット筐体の小型化・低ノイズ化および高信頼性化に関する研究 | 情報工学部<br>尾崎公一教授 |
| 岡山県<br>（土木部都市局都市計画課） | 岡山後楽園マスキングテープのデザイン開発（3種類） | デザイン学部<br>西田麻希子准教授 |
| 吉備中央町 | 地域創生におけるPR手法（ツールのアイデア）の研究 | デザイン学部<br>髙橋俊臣准教授 |

## ３．３　企業等との協働

この節では 3.2-4 で述べた自治体以外の共同研究、受託研究等について記載する。企業等との関連では、共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金・その他の 4 つに分類できる。学部別の件数は以下のようになっている。金額については第 5 章を参照されたい。

| | 保健福祉学部 | 情報工学部 | デザイン学部 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 共同研究 | 11 | 17 | 17 | 45 |
| 受託研究 | 1 | 8 | 2 | 11 |
| 教育研究<br>奨励寄附金 | 11 | 16 | 7 | 34 |
| 合計 | 23 | 41 | 26 | 90 |

## ３．４　未来人材の育成・輩出

### ３．４－１　保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科

#### Ａ．看護学科

**（１）教育状況**

看護学科では、健康で豊かなその人らしい人生の実現を支援するための専門知識・技術と倫理観及び豊かなコミュニケーション能力を育み、地域におけるあらゆる健康レベルの人々の生涯を通じた健康を支援し、岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献できる人材を育成することを目指している。看護学科で取得可能な資格は、看護師国家試験受験資格と助産師国家試験受験資格（4 名）であり、4 年間で看護師と助産師の国家試験受験資格を得ることができる県内唯一の大学である。

**（２）就職・進学状況**

令和 2 年度看護学科の就職・進学率は 100％であった。就職者は 39 名で、就職先は、岡山大学病院、倉敷中央病院、川崎医科大学総合医療センター、倉敷成人病センターなどの県内屈指の医療施設であり、県内就職率は 53.8％であった。進学者は 3 名で、岡山県立大学大学院・浜松医科大学大学院であった。

**（３）その他**

**・国家試験の合格状況**

国家試験合格率は、看護師・助産師のいずれにおいても、5 年連続で全国平均を上回っていた。

国家試験合格率（％）

| | 看護師 | | | 助産師 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 本学 | 全国 | | 本学 | 全国 |
| H28 年度 | 106 回 | 97.7 | 89.4 | 100 回 | 100 | 93.0 |
| H29 年度 | 107 回 | 100 | 88.5 | 101 回 | 100 | 98.7 |
| H30 年度 | 108 回 | 97.5 | 91.0 | 102 回 | 100 | 99.6 |
| R1 年度 | 109 回 | 97.7 | 89.3 | 103 回 | 100 | 99.4 |
| R2 年度 | 110 回 | 100 | 90.4 | 104 回 | 100 | 99.6 |

#### Ｂ．栄養学科

**（１）教育状況**

栄養学科では、超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重視されている現代社会において、食と健康の相互関係を科学理論によって理解し、未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身につけ、栄養学を人の健康・維持増進、疾病の予防、治療へと応用し、広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。

### （２）就職・進学状況

令和 2 年度の進路状況は、就職希望者に対する就職率は 100%(37 名)、他大学編入 1 名、大学院進学は 10 名であった。就職先の内訳は病院・社会福祉施設 19 名(51.4%)、行政・学校 6 名(16.2%)、企業 12 名(32.4%)であり、管理栄養士として就職したものは 34 名(91.9%)、事務、食品開発・販売等が 3 名(8.1%)であった。主な就職先としては埼玉県・名古屋市(栄養教諭・講師)、徳島県(行政)、岡山協立病院・公立邑智病院・川崎医科大学附属病院・倉敷中央病院・済生会今治病院等(病院)、アヲハタ(株)・(株)山食等多岐にわたる。また、進学先は岡山県立大学大学院・奈良女子大学大学院であった。

### （３）その他

**・国家試験の合格状況**

栄養学科で取得可能な資格は下表上のとおりである。また、管理栄養士国家試験合格率は、令和 2 年度は 97.9%であった。これまでも 90%以上の高い水準を保っており(下表下)、高度な専門知識と技術の修得を行っている。

栄養学科で取得可能な資格

・栄養士
・管理栄養士国家試験受験資格
・食品衛生管理者(任用資格)
・食品衛生監視員(任用資格)
・栄養教諭一種免許状

過去 5 年間の管理栄養士国家試験合格率(%)

| 卒 業 年 度 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|---|---|---|---|---|---|
| 本学 | 97.5 | 95.2 | 97.7 | 94.3 | 97.9 |
| 管理栄養士養成課程　全国・新卒 | 92.4 | 95.8 | 95.5 | 92.4 | 91.3 |
| 全体(既卒・栄養士養成校含) | 54.6 | 60.8 | 60.4 | 61.9 | 64.2 |

## Ｃ．保健福祉学科

### （１）教育状況

複雑化・高度化された社会において、人々が抱える生活問題に十分に対応するためには、保健と福祉の両面の政策・サービスが融合された、新しい制度・サービスの構築が必須である。このような時代背景のもと、保健福祉学科は、日本で初めて保健福祉学の名称を用いた学科として平成 5 年 4 月に開学した。伝統的な社会福祉学に加え、保健学(健康科学)、心理学、障害科学分野の教員も加わり、新しい保健福祉学の創造と発展、現代的ニーズにマッチした知識と技術を有する社会福祉士の育成に力を注いできた。以来、多数の優秀な人材を福祉分野に輩出しており、彼らの中には現在では、それぞれの職場や地域で管理職・リーダーとして活躍している者も少なくない。また、平成 9 年度からは大学院修士課程を、平成 15 年度からは博士課程を設置し、高度専門職や教育・研究者を社会に送り出している。施設長、職場の管理職・リーダー、団体代表、大学教員などとして活躍している卒業生の中には、全国レベルで活動している者や、帰国後母国で保健福祉学の教育・実践に携わっている者も多い。さらに、平成 25

年度からは、保健福祉学科は「社会福祉学専攻」「子ども学専攻」の 2 専攻に分かれ、それぞれの教育理念に基づき、社会福祉士と介護福祉士、幼稚園教諭と保育士の養成を柱として、少人数制教育による本格的な専門職育成および大学院における高度専門職・研究者育成に取り組んでいる。令和元年度からは、社会福祉学専攻において、精神保健福祉士と認定スクールソーシャルワーカーの養成を行っている。また、令和 3 年度に、保健福祉学科は、現代福祉学科と子ども学科へと改組される。

**（２）就職・進学状況**

令和 2 年度の保健福祉学科の就職率は、社会福祉学専攻・子ども学専攻ともに 100%である。

社会福祉学専攻においては、①公務員 10 名、②医療ソーシャルワーカー4名、③社会福祉協議会 1 名、④社会福祉施設 14 名、⑤企業 7 名、⑥団体等事務員 2 名、⑦大学院等進学 1 名、合計 39 名が就職・進学した。

子ども学専攻においては、①公務員（幼稚園・保育所・こども園関連）6 名、②学校法人（幼稚園）1 名、③社会福祉法人（保育所）6 名、社会福祉法人（施設）5 名、⑦企業 1 名、⑧大学院等進学 1 名、合計 20 名が就職した。

就職活動へのサポートとしては、①本学就職相談室及び就職相談（カウンセラー）の利用に関する情報提供及び本学就職ガイダンス開催の案内、②本学求人 NAVI システム利用に関する指導、③学科就職担当教員による個別就職相談対応及び指導、④就職掲示板への求人票の掲示やメール等による求人情報の提供、⑤公務員試験合格者によるオンライン公務員試験対策説明会などを積極的に実施した。

**（３）その他**

**・国家試験の合格状況**

社会福祉士の国家試験において、本学科はこれまで全国的にも高い合格率を示している。保健福祉学科では、国家試験合格に向けて模擬試験の実施、学生による自主的な学習会のサポート等を行うなど、国家資格取得に向けた学生の意欲向上に努めている。

| | 合格率（%） | 全国福祉系大学内順位（10 人以上受験校） | 全体合格率（%） |
|---|---|---|---|
| 平成 28 年度 | 71.8 | 22/212 | 25.8 |
| 平成 29 年度 | 79.5 | 13/214 | 30.2 |
| 平成 30 年度 | 92.7 | 12/208 | 28.9 |
| 令和元年度 | 82.5 | 15/207 | 29.3 |
| 令和 2 年度 | 67.5 | 29/200 | 29.3 |

**Ｄ．看護学専攻（博士前期課程）**

**（１）教育状況**

看護学専攻では、学際的で高い看護の専門的知識と基礎的な研究能力を活かして、保健医療福祉分野における課題を解決し、国内外の看護における実践・教育・研究の場で社会のニーズに応え、貢献できる人材の育成を目指している。なお、保健師教育は法改正を機に、平

成 25 年度から大学院博士前期課程で行っており、全国では 2 番目の開設である。

**（２）就職・進学状況**

令和 2 年度看護学専攻保健師課程の就職率は 100%であり、就職先は、岡山県1名、岡山市 1 名、倉敷市 1 名、福山市 1 名で(合計 4 名)あった。

**（３）その他**

**・国家試験の合格状況**

保健師国家試験合格率は、5 年連続で全国平均を上回っていた。

国家試験合格率(%)

| | 保健師 | |
|---|---|---|
| | 本学 | 全国 |
| 103 回 | 100 | 90.8 |
| 104 回 | 87.5 | 81.4 |
| 105 回 | 100 | 81.8 |
| 106 回 | 100 | 91.5 |
| 107 回 | 100 | 94.3 |

**Ｅ．栄養学専攻（博士前期課程）**

**（１）教育状況**

栄養学専攻では、食品の機能性や臨床栄養などの人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決できる優れた専門性を備えるとともに、豊かな創造力と問題解決能力を身に付け、それぞれの領域で活躍できる人材の育成を目指している。

**（２）就職・進学状況**

栄養学専攻では、令和 2 年度に 7 名(社会人学生 3 名を含む)が修了し、1 名が岡山県内へ、3 名が岡山県外へ就職した(就職率 100%)。就職先業種は、医療業、化学工業などの専門職・研究職などである。それぞれの業界で活躍する人材を育成している。

**Ｆ．保健福祉学専攻（博士前期課程）**

**（１）教育状況**

保健福祉学専攻では、保健福祉学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い、保健福祉に関連した臨床や政策の諸問題を解決できる優れた専門性を備えた人材の育成を目指しています。

**（２）就職・進学状況**

保健福祉学専攻では、令和 2 年度に 5 名が修了した。その内、3 名は社会人院生であったが、1 名が国家公務員、1 名が児童福祉職員として就職した。

## Ｇ．保健福祉科学専攻（博士後期課程）

### （１）教育状況

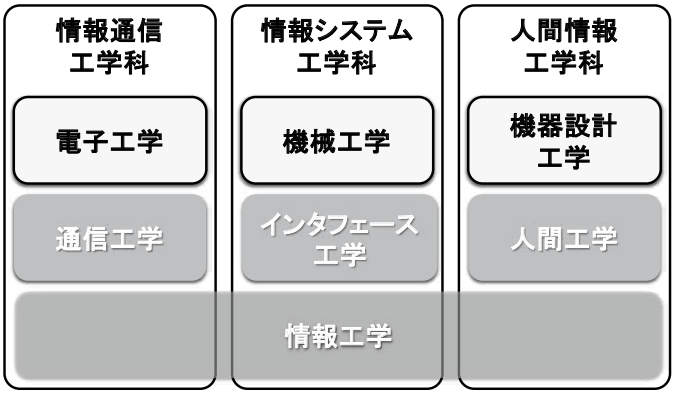
保健福祉科学専攻では、人間の健康問題に関して、看護・生命や栄養・福祉・教育などの各方面からアプローチし、保健福祉科学の係る学問をさらに深化させることにより、国内外の保健福祉関連の問題解決策を提案できる高度な見識を備えた各専門領域の実践者、指導者、研究者および教育者などの育成を目指しています。即ち、人間の健康に関する諸問題を解決するために、専門の知識や技術、高度な学問的見識を修得し、自立して研究できる研究者を目指す学生、国内外における保健福祉関連の問題を掘り起こして、その対策を立案し、国内に限らずグローバルにおける制度や計画作りに参加し、リーダーシップを発揮できる研究者を目指す学生、教育機関や企業、各種研究機関において自立して高度な教育研究に取り組める教育者及び研究者を目指す学生の育成を目指しています。

### （２）就職・進学状況

保健福祉科学専攻では、大学教員、企業、研究所等の研究者又は教育者として修了生を輩出している。令和 2 年度においては、ネパールおよび中国の協定校からの留学生が学位取得し、今後の更なる国際交流の活性化に繋がることが期待できる。

## ３．４－２　情報工学部・大学院情報系工学研究科

情報工学部では、「人、モノ、情報が織りなす未来へ」を掲げ、情報技術を活用して、人間および自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指し、3 つの学科を設置している。すなわち、3 学科に共通する基盤技術としての情報工学に加え、各学科の関連工学分野の知識と、それらを応用できる能力を育成することで、将来を見据えた技術者人材を輩出しており、令和元年度末までに 2,964 名の卒業生を世に送り出している。




大学院情報系工学研究科では、情報技術を活用して、人間及び自然との調和を図りながら未来創造社会の持続的発展に、広い視野に立って貢献できる技術者及び研究者の育成を目指している。本研究科には博士前期課程(2 年)および、それに続く博士後期課程(3 年)を設置しており、令和元年度末までに 1,036 名に対して修士（工学）の学位を、66 名に対して博士（工学）の学位を授与している。

### Ａ．情報通信工学科

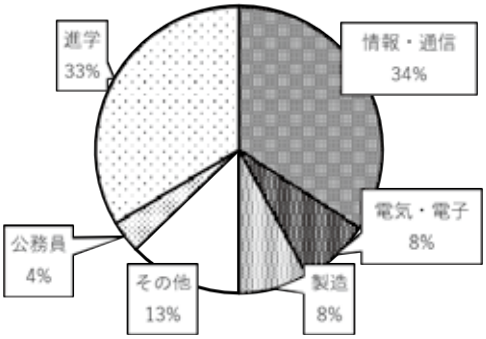
#### （１）教育状況

情報通信工学科は、「「想い」を伝える新しい情報通信エンジニアに」を掲げ、日々進歩し続ける情報通信技術(ICT)を支えている情報工学、通信工学、電子工学の 3 つの学問領域を共通の基盤として、各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し、ICT の利用者視点を理解するとともに、グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指している。令和 2 年 5 月 1 日現在の在学者数は 231 名である。

#### （２）就職・進学状況

平成 26 年度から令和 2 年度の就職･進学状況は次表のとおりである。大学院への進学率は概ね 30％前後で推移しているが、減少傾向にあるようにも思われる。就職率は好調に推移している。県内就職率は約 30％から 50％であり、卒業年度による変化が大きくなっている。就職先業種は、右図（平成 29～令和元年度の実績）に示すとおり、情報通信工学科の育成方針に沿った情報･通信業および電気･電子関係が中心である。

情報通信工学科




情報通信工学科の就職・進路内訳
（H29～R1 年度卒業生）

情報通信工学科の進路状況（H26～R2 年度卒業生）

| 卒業年度 | | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業者数 | | 53 | 44 | 61 | 57 | 57 | 53 | 65 |
| 進学者数 | | 29 | 12 | 24 | 18 | 18 | 19 | 20 |
| | 進学率 | 54.7% | 27.3% | 39.3% | 31.6% | 31.6% | 35.8% | 30.8% |
| 就職者数（起業等除く） | | 20 | 31 | 36 | 37 | 38 | 34 | 42 |
| | 就職率 | 95.2% | 100.0% | 97.3% | 97.4% | 97.4% | 100.0% | 100.0% |
| 県内就職者数 | | 6 | 15 | 19 | 18 | 19 | 10 | 17 |
| | 県内就職率 | 30.0% | 48.4% | 52.8% | 48.6% | 50.0% | 29.4% | 40.5% |

## Ｂ．情報システム工学科

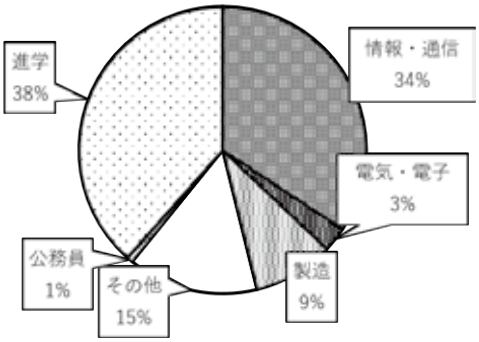
### （１）教育状況

情報システム工学科は、「機械と情報が織りなす未来を切り拓く」を掲げ、コンピュータの発展に貢献できる情報工学、力学に基礎を置くものづくりのための機械工学、人間と機械やコンピュータを結び付けるインタフェース工学などの学問を身に付け、領域横断型のエンジニアとしてのセンスを持って、新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成を目指している。令和 2 年 5 月 1 日現在の在学者数は 234 名である。

### （２）就職・進学状況

平成 26 年度から令和 2 年度の就職･進学状況は次表のとおりである。大学院への進学率は約 30%～50%で推移しているが、卒業年度による変動が大きい。就職率は好調に推移している。県内就職率は例年 50%を越えており、製造業の多い県内の産業構造を表している。就職先業種は、右図（平成 29～令和元年度の実績）に示すとおり、情報システム工学科の育成方針に沿った情報･通信業および製造業が中心である。

情報システム工学科




情報システム工学科の就職・進路内訳
（H29～R1 年度卒業生）

情報システム工学科の進路状況（H26～R2 年度卒業生）

| 卒業年度 | | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業者数 | | 57 | 66 | 53 | 49 | 46 | 54 | 60 |
| 進学者数 | | 31 | 31 | 12 | 18 | 20 | 17 | 22 |
| | 進学率 | 54.4% | 47.0% | 22.6% | 36.7% | 43.5% | 31.5% | 36.7% |
| 就職者数（起業等除く） | | 23 | 35 | 41 | 29 | 26 | 34 | 34 |
| | 就職率 | 92.0% | 100.0% | 100.0% | 93.5% | 100.0% | 94.4% | 91.9% |
| 県内就職者数 | | 13 | 18 | 27 | 15 | 16 | 11 | 16 |
| | 県内就職率 | 56.5% | 51.4% | 65.9% | 51.7% | 61.5% | 32.4% | 47.1% |

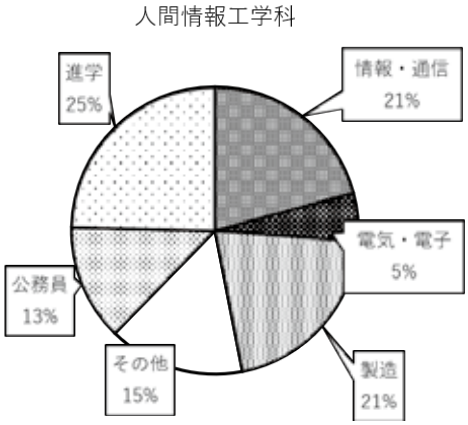
## Ｃ．人間情報工学科

### （１）教育状況

人間情報工学科は、「人に寄り添うモノづくりのためのヒトづくり」を掲げ、人間の生活環境を支える情報工学と、人間の能力や特性をモデル化する生体機能学、情報技術をものづくりに活かした機器設計学の 3 つの学問領域に関する深い知識および技術の活用と、グローバルな視点から多種多量な情報が組み込まれた人間との高い親和性をもつ新たなソフトウェア・ハードウェアの設計・開発ができる技術者の育成を目指している。令和 2 年 5 月 1 日現在の在学者数は 177 名である。

### （２）就職・進学状況

平成 26 年度から令和 2 年度の就職・進学状況は次表のとおりである。大学院への進学率は概ね 25%前後で推移しているが、令和 2 年度は急増している。就職率は好調に推移している。県内就職率は概ね 40%を越えている。就職先業種は、右図（平成 29～令和元年度の実績）に示すとおり、半数は、人間情報工学科の育成方針に沿った情報・通信業および製造業が中心であるが、公務員比率が他学科と比べて大きい。




人間情報工学科の就職・進路内訳
（H29～R1 年度卒業生）

人間情報工学科の進路状況（H26～R2 年度卒業生）

| 卒業年度 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 44 | 43 | 43 | 37 | 39 | 53 | 37 |
| 進学者数 | 11 | 10 | 14 | 8 | 10 | 14 | 17 |
| 進学率 | 25.0% | 23.3% | 32.6% | 21.6% | 25.6% | 26.4% | 45.9% |
| 就職者数（起業等除く） | 32 | 31 | 29 | 29 | 29 | 39 | 19 |
| 就職率 | 100.0% | 93.9% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 県内就職者数 | 23 | 17 | 12 | 16 | 11 | 17 | 8 |
| 県内就職率 | 71.9% | 54.8% | 41.4% | 55.2% | 38.0% | 43.6% | 42.1% |

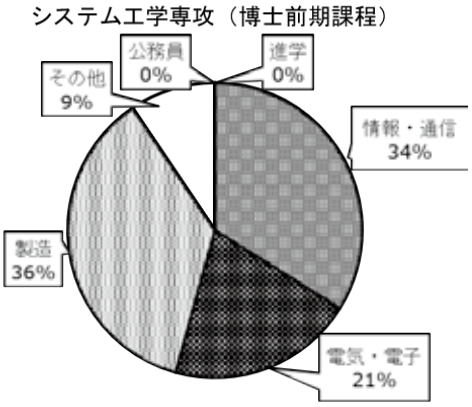
## Ｄ．システム工学専攻（博士前期課程）

### （１）教育状況

システム工学専攻（博士前期課程）では、ディジタル革新による未来創造社会の発展を支えるため、電子情報通信工学、機械情報システム工学、人間情報システム工学等の分野で、地域産業の振興をリードできる高度な専門技術者の育成を目指している。令和 2 年 5 月 1 日現在の在学者数は 91 名である。

### （２）就職・進学状況

平成 26 年度から令和 2 年度の就職･進学状況は次表のとおりである。就職率は好調に推移している。県内就職率は 20%から 40%程度であり、卒業年度による変化が大きくなっている。就職先業種は、右図（平成 29～令和元年度の実績）に示すとおり、システム工学専攻（博士前期課程）の育成方針に沿った情報･通信業、電気･電子および製造業が中心であり、その割合は学部卒業より高くなっている。




システム工学専攻（博士前期課程）の
就職・進路内訳（H29～R1 年度修了生）

システム工学専攻（博士前期課程）の進路状況（H26～R2 年度修了生）

| 修了年度 | | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 修了者数 | | 48 | 46 | 59 | 48 | 42 | 40 | 44 |
| 進学者数 | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 就職者数（起業等除く） | | 46 | 45 | 55 | 47 | 40 | 39 | 41 |
| | 就職率 | 97.9% | 100.0% | 96.5% | 100.0% | 97.6% | 97.5% | 97.6% |
| 県内就職者数 | | 12 | 14 | 11 | 18 | 10 | 3 | 10 |
| | 県内就職率 | 26.1% | 31.1% | 20.0% | 38.3% | 25.0% | 7.7% | 24.4% |

## Ｅ．システム工学専攻（博士後期課程）

### （１）教育状況

システム工学専攻（博士後期課程）では、ディジタル革新による未来創造社会の多様な要請に応えるべく、専門分野において、理論や技術を深く修得し、新たな問題を発見し解決することによって、既存の枠組みにとらわれない総合的･先端的知識や技術を切り開くことができる技術者、研究者の育成を目指している。令和 2 年 5 月 1 日現在の在学者数は 8 名であり、その大部分は社会人である。

### （２）就職・進学状況

システム工学専攻（博士後期課程）では在学生の大部分が社会人のため、就職･進学状況は省略する。

## ３．４－３　デザイン学部・大学院デザイン学研究科

優れたデザインは時代を映す象徴になり、時代を超えて支持される。デザイン学部では、本学の理念に沿う実学の体現者として、変化する社会のなかで、豊かな生活と新たな文化の形成に必要なデザイン力とマネジメント能力を備え、地域と世界に貢献できる人材の育成を目指している。

令和元年度卒業制作

大学院デザイン学研究科は、造形性に富み、多様化したデザイン環境に対応する高度な専門知識・能力・技術と総合的な視野を備えた、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材の育成を目指している。

令和元年度コンペ最優秀賞・修了制作

卒業生は、岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されているが、近年、一般企業からの求人も多く、就職先業種は、一般企業の広報部門からデザインの専門職まで多岐にわたっている。中には、起業や作家活動をする卒業生・修了生もいる。今後とも、岡山県内だけでなく、日本全国あるいは世界に向けた信頼されるグローバルな活躍ができるデザイナーの育成に取り組んでいく。

### Ａ．デザイン工学科

#### （１）教育状況

デザイン工学科では、共通教育に加えて、製品・情報デザイン領域あるいは建築・都市 デザイン領域での専門教育により、これらの関際社会の持続的発展のために、その能力を長きにわたって発揮できる、 デザイナー・建築家等の実務担当者の育成を目指している。また、デザイン工学科では、本学卒業生を含むデザイナー・建築家・自治体関係者などを招いての授業

や講演を数多く設定しているおり、実社会におけるデザインワークの体験的な理解を深めることを目指している。

**（２）就職・進学状況**

令和 2 年度には、38 名がデザイン工学科を卒業、就職率は 83.9%で、このうち岡山県内への就職者は 4 名（就職者の約 15%）となっている。また、7 名が大学院に進学した。

主な就職先は、都市部を中心に、建設業、デザイン業、印刷業のほか、製造業、情報サービス業、官公庁まで幅広い分野への人材輩出を行っている。

**Ｂ．造形デザイン学科**

**（１）教育状況**

造形デザイン学科では、共通教育に加えて、ビジュアルデザイン領域あるいは造形デザイン領域における専門教育により、素材の知識や技法の修得にとどまらず、デザインや造形を通してどう社会と関わっていくかまで企画提案するデザイン力やコミュニケーションを発揮できる、 デザイナー・造形スペシャリスト等の実務担当者の育成を目指している。

また、造形デザイン学科では、地域協働プロジェクトの授業課題への積極的導入や、本学卒業生を含むデザイナーを主としたポートフォリオセミナーや就活ガイダンスを複数回実施するなど、専門的デザインスキルの向上やキャリアプランを強く意識させる場を多様なかたちで設け、将来を担うデザイナーとしての意識と能力向上を目指している。

**（２）就職・進学状況**

令和 2 年度には、46 名が造形デザイン学科を卒業、就職率は 86.2%で、このうち岡山県内への就職者は 6 名（就職者の約 24%）となっている。また、3 名が大学院に進学した。

主な就職先は、都市部を中心に、広告・デザイン業、印刷業、映像・音声等制作業のほか、製造業、小売業まで幅広い分野への人材輩出を行っており、近年の傾向として、製造業、小売業への就職が増加している。

**Ｃ．デザイン工学専攻**

**（１）教育状況**

デザイン工学専攻は、地域社会と産業界の要請に応えられる、高度な専門的知識・能力・技能をベースにした総合的な思考力を有する高度専門職業人として多様な価値創造 が可能なデザイナー及び研究者の育成を目指している。

**（２）就職・進学状況**

令和 2 年度には、3 名が大学院（修士課程）を修了した。就職率 100%で岡山県内への就職者は 1 名となっている。

**Ｄ．造形デザイン学専攻**

**（１）教育状況**

造形デザイン学専攻は、造形デザイン学の理論と技術を修得する教育研究を行い新たな造

形デザイン構築において諸問題を総合的な視点から解決し、独創的で造形性豊かなデザイナー及び研究者を育成することを目指している。

### （２）就職・進学状況

令和 2 年度には、1 名が大学院（修士課程）を修了した。就職率は 100％で、岡山県内への就職者は 1 名となっている。

## ３．５　その他の社会貢献

### ３．５－１　各種委員等への派遣（行政関係以外）

本学における令和２年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

| 区　分 | 教育機関 | 協議会・各種団体等 | 計 |
|---|---|---|---|
| 保健福祉学部 | 6 | 55 | 61 |
| 情報工学部 | 8 | 33 | 41 |
| デザイン学部 | 1 | 9 | 10 |
| 合　計 | 15 | 97 | 112 |

本学における令和２年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

| 区　分 | 教育機関 | 協議会・各種団体等 | 計 |
|---|---|---|---|
| 保健福祉学部 | 11 | 40 | 51 |
| 情報工学部 | 3 | 4 | 7 |
| デザイン学部 | 0 | 1 | 1 |
| 合　計 | 14 | 45 | 59 |

本学における令和２年度の非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣の状況は、次のとおりである。

| 区　分 | 非常勤医師 | 非常勤講師 | 役　員 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 保健福祉学部 | 5 | 43 | 0 | 48 |
| 情報工学部 | 0 | 16 | 1 | 17 |
| デザイン学部 | 0 | 11 | 0 | 11 |
| 合　計 | 5 | 70 | 1 | 76 |

### ３．５－２　職員表彰

#### Ａ．学内表彰

本学の職員表彰規程に基づき、職務上の功績が顕著であった本学教職員 7 名が表彰され、令和 2 年 11 月 6 日（金）に理事長(学長)から表彰状と記念品が授与された。

(1)永年表彰

| 職　名 | 名　　前 | 表彰理由 |
|---|---|---|
| 教授 | 榊原　勝己 | 勤続年数:25 年 |
| 准教授 | 山内　仁 | 勤続年数:25 年 |
| 助教 | 小椋　清孝 | 勤続年数:25 年 5 か月 |

(2)教育表彰

| 職　名 | 名　　前 | 表彰理由 |
|---|---|---|
| 特任<br>教授 | 樋笠　勝士 | 平成 28 年に本学着任以来、共通教育部長、大学教育開発センター共通教育部会長、教育開発センター長、教育研究紀要編集委員長を歴任し、共通教育改革をはじめとする本学の教育改革に尽くした功績は誠に顕著であった。 |

(3)地域貢献表彰

| 職　名 | 名　　前 | 表彰理由 |
|---|---|---|
| 教授 | 佐藤　洋一郎 | 地域連携推進センター長、地域共同研究機構長、地域創造戦略センター長を歴任し、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）の採択と推進をはじめ、本学の教育改革、産学連携、域学連携に尽くした功績は誠に顕著であった。 |

(4)環境改善表彰

| 職　名 | 名　　前 | 表彰理由 |
|---|---|---|
| 教授 | 齋藤　誠二 | 平成 26 年に本学に着任以来、大学教育開発センター学生支援部会長、学生支援室長、キャリア・学生生活支援センター長、キャリア・学生生活支援センター学生生活支援部門長、大学コンソーシアム岡山障害学生支援委員会委員を歴任し、本学の学生支援制度の充実と発展に尽くした功績は誠に顕著であった。 |
| － | 川井　一志<br>学生支援班長<br>外　所属職員 | コロナ禍にあり、学生生活に多大な影響が出る中、国の緊急給付金等を活用した経済支援をはじめ、WiFiルーター無償貸出等による通信環境支援や各種相談支援などを行い、学修環境の整備と学生生活の継続に大いに貢献した。 |

## Ｂ．学外表彰

| 学部 | 職名 | 名前 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 保健福祉 | 助教 | 津嘉山　泉 | 発表論文「ジオスゲニンのプロスタグランジン $E_2$ 合成酵素の発現抑制と慢性肝炎に対する改善効果」が第 74 回日本栄養・食糧学会大会トピックス賞受賞 |
| 保健福祉 | 助教 | 戸田　圭祐 | |
| 保健福祉 | 准教授 | 川上　祐生 | |
| 保健福祉 | 教授 | 高橋　吉孝 | |
| 保健福祉 | 教授 | 山本　登志子 | |
| 保健福祉 | 准教授 | 周防　美智子 | 発表論文「児童生徒の問題行動の要因に関する研究～抑うつと児童生徒が抱える課題の関連から～」が第 67 回日本小児保健協会学術集会優秀演題賞受賞 |
| 情報工 | 准教授 | 滝本　裕則 | 論文「Hand Posture Classification of Augmented Depth Image Data Using a Convolutional Neural Network」が日本福祉工学会第 22 回(2020 年度)論文賞受賞 |
| 情報工 | 准教授 | 山内　仁 | |
| 情報工 | 教授 | 金川　明弘 | |
| 情報工 | 助教 | 高林　健人 | 「A Study on SmartBAN Physical Layer Applying Multi-Level PSK Modulation」が The 33rd General Assembly and Scientific Symposium of the International Union of Radio Science (URSI GASS 2020) Young Scientists Award 受賞 |
| 情報工 | 助教 | 芝　世弐 | 開発したソフトウェア「Hefeweizen-2020」が「世界コンピュータ将棋オンライン大会」で準優勝 |
| 情報工 | 准教授 | 但馬　康宏 | |
| 情報工 | 教授 | 伊藤　照明 | 2020 年度の ACM (Association for Computing Machinery)Senior Member に推戴 |
| 情報工 | 教授 | 伊藤　照明 | 日本機械学会設計工学・システム部門功績賞受賞 |
| 情報工 | 准教授 | 大下　和茂 | 発表論文「エクササイズ時における指導者からの主動筋への接触は筋活動増加に効果的か？」がストレングス＆コンディショニングカンファレンス 口頭発表最優秀賞受賞 |
| デザイン | 教授 | 向山　徹 | 設計した「岩国のアトリエ」(建築作品)が甍賞第 18 回瓦屋根設計コンクール金賞国土交通大臣賞受賞 |
| デザイン | 非常勤特任教授 | 塚本　カナエ | デザインを担当した「Drapé」(ドラーペ)が iF Design Award 2020(Discipline Product)受賞 |

※職名は受賞当時のものです。

## ４．　県立大学の各組織での活動

### ４．１　地域創造戦略センター

### ４．２　産学官連携部門

### ４．３　地域連携部門

### ４．４　社会連携教育推進部門

### ４．５　ボランティア部門

## ４．県立大学の各組織での活動

### ４．１　地域創造戦略センター

#### ４．１－１　体制

社会に対する大学のかかわりは、社会還元、社会貢献、社会連携と言葉を変え、「あるべき地域社会を共に創っていく」という段階に移っている。

このような流れを受けて、岡山県立大学は、社会連携を担う組織を集約し、産学連携、地域連携、社会連携教育、ボランティアの 4 つの部門を持つ、地域創造戦略センターを令和 2 年 4 月に設置した。

機構からセンターへの改組は、縦割り的であった連携活動の垣根を無くし、多様化、複合化していく地域の課題に対して、迅速かつ戦略的に対応することを目的としている。令和 2 年度の体制は、以下のとおりである。

◎は部門長

| 役　　職 | 氏　　名 | 職　名 | 所　属　等 |
|---|---|---|---|
| センター長 | 佐藤　洋一郎 | 教　授 | 人間情報工学科 |
| 副センター長 | 尾﨑　公一 | 教　授 | 情報システム工学科 |
| | 三原　鉄平 | 教　授 | デザイン工学科 |
| | 髙戸　仁郎 | 教　授 | 保健福祉学科 |
| | 岩満　賢次 | 准教授 | 保健福祉学科 |
| | 長家　輝 | 課　長 | 事務局　地域連携・研究推進課 |
| 産学官連携部門 | ◎尾﨑　公一 | 教　授 | 情報システム工学科 |
| | 田中　晃一 | 教　授 | 栄養学科 |
| | 伊藤　信之 | 教　授 | 情報通信工学科 |
| | 春木　直人 | 教　授 | 人間情報工学科 |
| | 村木　克爾 | 教　授 | デザイン工学科 |
| | 中西　俊介 | 准教授 | 造形デザイン学科 |
| 地域連携部門 | ◎三原　鉄平 | 教　授 | デザイン工学科 |
| | 綾部　誠也 | 教　授 | 人間情報工学科 |
| | 柏　まり | 教　授 | 保健福祉学科 |
| | 向山　徹 | 教　授 | デザイン工学科 |
| | 石井　裕 | 准教授 | 情報システム工学科 |
| | 名越　恵美 | 准教授 | 看護学科・研究会担当 |
| 社会連携教育推進部門 | ◎髙戸　仁郎 | 教　授 | 保健福祉学科 |
| | 福濱　嘉宏 | 教　授 | デザイン工学科 |
| | 岩満　賢次 | 准教授 | 保健福祉学科 |
| | 都島　梨紗 | 講　師 | 栄養学科 |
| ボランティア部門 | ◎岩満　賢次 | 准教授 | 保健福祉学科 |
| | 齋藤　誠二 | 准教授 | キャリア・学生生活支援センター長 |
| 共通 | 渡邉　淳司 | 准教授 | 地域創造戦略センター専任教員 |

| 役　　職 | 氏　　名 | 職　名 | 所　属　等 |
|---|---|---|---|
| 共通 | 村井　聡紀 | CD | 事務局　地域連携・研究推進課 |
| | 黒川　しのぶ | CD | 事務局　地域連携・研究推進課 |
| | 武田　吉弘 | CD | 事務局　地域連携・研究推進課 |
| | 藤木　一 | CD | 事務局　地域連携・研究推進課 |

### ４．１－２　重点領域研究

「人間尊重と福祉の増進」という本学建学の理念、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」という教育研究の理念に基づいて、平成 19 年度から、研究と社会貢献活動のレベルアップを目指した異分野複数教員の連携による「領域・研究プロジェクト」活動を推進してきた。平成 29 年度から「重点領域研究」と名称を改め本学として設定した「健康・福祉」、「地域・環境」、「モノ・コトづくり」の 3 重点領域を設定し、令和 2 年度は次の 7 研究を推進した。

令和 2 年度「重点領域研究」

| 領　域 | ■プロジェクト名、「研究課題」<br>メンバー（○：代表者） | 内　　容 |
|---|---|---|
| 健康・福祉 | ■カリキュラムワーキング<br>「ヒューマンケアリングを中心としたカリキュラムの作成」<br>○住吉和子<br>渡辺富夫、関根紳太郎、森本美智子、岡﨑愉加、名越恵美、井上幸子、山形真由美 | 本学看護学科では、「「ヒューマンケアリング」の担い手を育成することを掲げている。そこで今回は、「ヒューマンケアリング」を科目として学習したのちに、講義・演習・実習を通して継続的に学ぶことができるカリキュラムを構築する。<br>1. 現カリキュラムと日本看護系大学協議会で求められているモデル・コアカリ、コンピテンシーとの比較から、課題を明確化する<br>2. 学科教員を対象に「ヒューマンケアリング」講演会を開催し、共通認識を持つ<br>3. 在校生、卒業生を対象とした調査を実施し、カリキュラムへの意見を確認する<br>4. 実習施設を対象に、大学教育に臨むこと、卒業時に習得しておくべき能力について調査を実施する |
| 健康・福祉 | ■第 2 段階に達した高齢社会に対する栄養・腸内環境からのアプローチ<br>「高齢者施設における栄養・腸内環境とフレイルの関係」<br>○入江康至、<br>井上里加子、原野かおり、平松智子、綾部誠也、佐藤ゆかり | 平成 30 年ついに後期高齢者の人口が前期高齢者を上回り、高齢化は新たな段階に突入した。本研究では、後期高齢者において頻度が高く、また老衰（フレイル）とも強く関連する便秘・認知症・心不全に着目し、アンケート・食事調査・身体組成測定・血液検査・心エコー・次世代シークエンサーによる腸内細菌叢解析などの手法を用いて栄養状態・認知機能・腸内環境の関わりを検討する。 |

| 領　域 | ■プロジェクト名、「研究課題」<br>メンバー(○:代表者) | 内　容 |
|---|---|---|
| 健康・福祉 | ■生活習慣改善に伴う身体の応答・適応の評価<br>「地域連携を基盤とする生活習慣改善に伴う身体の応答・適応の評価を目的とする介入試験」<br>○綾部誠也<br>齋藤誠二、大山剛史、<br>入江康至、久保田恵、<br>住吉和子、井上里加子 | 本研究は，地域課題を科学的根拠の実践により解決することを目指すものであり、本学の高度な専門知識をもって高齢化や医療費高騰などの健康福祉分野における我が国の喫緊の課題解決に貢献できるエビデンス創出を目指す。本研究は、「ヒトを対象とする比較対照介入試験」を実施することにより、信頼性の高いエビデンスが得られることを特徴とする。 |
| 地域・環境 | ■NBGR 研究会<br>「岡山の自然資源を活用した多世代交流拠点の創生:キャンパス内緑地における自然教育プログラムの開発」<br>○坂野純子<br>難波久美子、沖本克子、<br>関根紳太郎、名越恵美、<br>デスマレス・エリック、<br>澤田陽一、畠和宏、<br>渡辺富夫 | 本研究は、スウェーデンの農業科学大学と連携して、岡山の豊かな自然を「資源」として捉え、学生及び多様な市民の健康増進、教育等へ活用するための教育プログラムを開発し、その効果を科学的に検証することを目的とする。<br>本研究成果の展望として、学際的かつ実践的教育プログラムの開発、多様な市民の社会参加の促進、農福連携等の機能が期待できる。 |
| モノ・コトづくり | ■身体的コミュニケーション技術<br>「人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術」<br>○渡辺富夫<br>佐藤洋一郎、石井裕、<br>伊藤照明、西田麻希子、<br>髙林範子、<br>小川浩基<br>(インタロボット/コアテック)、<br>Irini Giannopulu(Bond 大学) | うなずきや身振りなどの身体的引き込みをロボットやCGキャラクタのメディアに導入することで一体感が実感できる身体的コミュニケーション技術と、メディアの場にはたらきかけることで場を盛り上げる身体性メディア場の生成・制御技術を開発・展開・統合・実用化して、生活基盤システム・環境としての本格的な感情移入インタフェースを構築する。 |
| モノ・コトづくり | ■ディジタルエンジニアリング<br>「ものづくりを支援する数値解析法に関する研究」<br>○尾﨑公一<br>末岡浩治、佐藤洋一郎、<br>村木克爾、福田忠生、<br>山内仁、滝本裕則、<br>金﨑真人 | 複数分野の解析技術を融合して高いレベルの実学を創造するとともに、地域企業の解析ニーズに応えることを目的とする。さらには、新たな数値解析技術を開発し、実用化することも目指す。<br>本年度は、次の 4 つのサブテーマに取組む。<br>1. 材料試験分野における画像計測への適用<br>2. 演算時間性能向上に向けた改良<br>3. 超解像度用画像エンジンへの適用<br>4. 3 次元姿勢変化観測における変形対応法の検討 |

| 領　域 | ■プロジェクト名、「研究課題」<br>メンバー（○：代表者） | 内　容 |
|---|---|---|
| モノ・コトづくり | ■車いす開発ワーキング<br>「車いす介助者の負担軽減のための新規機械式パワーアシストシステムの開発」<br>○大田慎一郎<br>吉田智哉、髙戸仁郎 | 車椅子介助者の負担軽減が可能かつ、充電不要で軽量な機械式パワーアシスト車椅子を開発している。実用のためには、この新規車いすの有効性を検証する必要がある。そこで本研究では、機械式パワーアシスト車いすの介助者の負担を評価するための負荷計測システムを構築する。このシステムを用いて、介助者の負荷が測定可能かどうか、荷重板を車いす設置した測定実験等により検証する。 |

### ４．１－３　ＯＰＵフォーラム 2020

教員の研究紹介や地域の企業・団体・市民との交流促進を目的として、毎年開学記念日頃にOPUフォーラムを開催している。 令和２年度は「新技術で地域の未来をひらく」と題して準備していたが、新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、やむなく開催を中止した。保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部から報告された127件の研究成果の要旨集は予定通り作成し、ニーズとのマッチングの素材として活用いただくことを目的に、企業・関係者等に配布・PRした。

○概要

令和２年５月 29 日（金）

OPUフォーラム 2020 要旨集発行

OPU フォーラム 2020　研究シーズ一覧

| 区分 | No. | テーマ名 | 担当者名 |
|---|---|---|---|
| 健康・福祉・介護 | 1 | 地域住民における糖尿病予防を目的とした集団栄養食事指導の効果 | 平松智子 |
| | 2 | 地域住民の健康寿命の延伸のための高血圧予防支援の検討 | 久保田恵 |
| | 3 | 県大メディカルフィットネス参加者の栄養学的支援の検討　その2 | 久保田恵、井上里加子、平松智子、綾部誠也　他 |
| | 4 | 地域連携を基盤とする生活習慣改善に伴う身体の応答・適応の評価を目的とする介入試験 | 綾部誠也、久保田恵、入江康至、井上里加子　他 |
| | 5 | キャンパスの自然資源を活用した教育プログラムの開発 | 坂野純子、難波久美子、畠　和宏、石井裕　他 |
| | 6 | 自発性瞬目変動と遂行機能との関連 | 澤田陽一 |
| | 7 | 韓国による不登校の子どもに対する体験活動支援に関する研究 | 近藤理恵 |

| 区分 | No. | テーマ名 | 担当者名 |
|---|---|---|---|
| 健康・福祉・介護 | 8 | 戦前期の石井記念愛染園の保育事業に関する研究 | 井村圭壮 |
| | 9 | 新人医療ソーシャルワーカーの職務継続に関する研究 | 竹本与志人、桐野匡史、周防美智子、倉本亜優未 |
| | 10 | 家族介護者の仕事と介護(生活)の両立・復職支援に関する自由記述分析と研究動向 | 桐野匡史 |
| | 11 | 養子縁組家庭における特有の育児課題に関する予備的研究 | 樂木章子 |
| | 12 | 地域子育て支援拠点を活用した児童虐待予防プログラムの構築 | 周防美智子、逢坂麻由、福光節子、中典子　他 |
| | 13 | 精神障害者の自立支援プログラムと世代間交流音楽活動が大学生の協同作業に対する認識と自己成長感に与える影響－事後アンケートの分析結果から－ | 大倉高志、坂野純子 |
| | 14 | 高齢者施設における栄養・腸内環境とフレイルの関係 | 入江康至、井上里加子、平松智子、原野かおり　他 |
| | 15 | 重度心身障害児・者の腸内環境についての検討 | 井上里加子、入江康至、山辺啓三 |
| | 16 | 認知症ケア実践場面の介護福祉職チームにおける介護福祉士の役割 | 佐藤ゆかり |
| | 17 | 介護福祉士養成における多文化介護教育プログラムの検討 | 趙　敏廷、原野かおり |
| 看護・医療 | 1 | ドライスキンと皮膚の形態に関する研究 | 荻野哲也 |
| | 2 | 体位変換後の感染防護服における表面汚染の検討 | 森本美智子 |
| | 3 | 維持血液透析にかかわる看護管理者のエンドオブライフケア実践に関する研究 | 實金　栄、安藤　亮、井上かおり、名越恵美 |
| | 4 | アドバンス・ケア・プランニング(ACP)に関する意思決定可能な地域住民の認識 | 名越恵美、犬飼智子、實金　栄 |
| | 5 | 心不全緩和ケアに関する多職種の認識と看護職への役割期待 | 名越恵美、永野範子、松本　梢 |
| | 6 | 1 歳 6 か月児と 3 歳児の母親の育児不安と自己肯定感 | 大村真由、沖本克子 |
| | 7 | 乳幼児をもつ親の育児困難と育児支援および愛着・養育との関連 | 網野裕子、沖本克子 |
| | 8 | トランスジェンダーに関する看護師の知識及び理解と看護態度の関連 | 西百久登、井上幸子 |
| | 9 | 統合失調症者の家族の疾病理解および偏見と批判的態度の関連 | 松田安奈、井上幸子 |
| | 10 | クリッカーを用いた双方向型授業に対する学生の評価～1 年生と 3 年生の比較～ | 佐藤美恵、犬飼智子、髙林範子、名越恵美 |
| | 11 | 思春期の性に関する健康支援－性的同意を取り入れた性教育プログラムの開発と評価－ | 岡﨑愉加、川下菜穂子 |
| | 12 | 分娩介助技術習得におけるタブレット型端末を利用した学習効果の検証【第 2 報】 | 川下菜穂子、岡﨑愉加、池田理恵 |
| | 13 | 6 か月児の父親の睡眠と産後うつ・児の愛着・疲労の関連 | 池田理恵、川下菜穂子、飯草桃香、小川由華　他 |
| | 14 | 急性期脳卒中患者の家族が体験する困難と対処のプロセス | 犬飼智子 |

| 区分 | No. | テーマ名 | 担当者名 |
|---|---|---|---|
| 看護・医療 | 15 | 非がん高齢患者に対する看護師による緩和ケア実践に関する研究 | 井上かおり、實金栄 |
| | 16 | ロボット手術における安全な看護法の確立を目指して | 高橋　徹 |
| | 17 | ウェアラブルデバイスの看護援助への応用を目指した基礎的研究 | 佐々木新介 |
| | 18 | NASH 予防に向けた血小板型 12-リポキシゲナーゼの肝星細胞における役割の解明 | 高橋吉孝、川上祐生、山本登志子、田中龍舞 |
| | 19 | 失語症者の発話における意味的誤りの頻度と言語の脳内処理過程 | 中村　光、京林由季子、玉置　円、藤本憲正 |
| | 20 | 在宅医療を利用する患者や家族のニーズに関する研究 | 井上祐介 |
| 食品・生活 | 1 | 食品に含まれるタンニンの生体利用性に関する基礎研究 | 伊東秀之、森　彩夏、岩岡裕二 |
| | 2 | プロアントシアニジン多量体の高感度検出法に関する研究 | 岩岡裕二、伊東秀之 |
| | 3 | ハナビラタケβグルカンの構造および特性評価 | 新田陽子、伊東秀之 |
| | 4 | 乳汁中脂質分子プロファイリングと新規乳房炎バイオマーカーの探索 | 山本登志子、津嘉山泉、岡﨑愉加、高橋吉孝　他 |
| | 5 | 植物ステロールジオスゲニンの慢性肝炎モデルマウスにおける抗炎症効果の検証 | 津嘉山泉、川上祐生、高橋吉孝、山本登志子　他 |
| | 6 | 熱帯果樹の葉に含まれる 5-リポキシゲナーゼ阻害成分の構造解析の検討 | 川上祐生、岩岡裕二、伊東秀之、高橋吉孝　他 |
| | 7 | 大量調理に対応可能な米粉レシピの検討 | 田淵真愉美、石河知沙子、貞森真悠子、八田かおり 他 |
| | 8 | 異文化対応の食支援を目指した教材開発に関する研究 | 川上貴代、平松智子、田淵真愉美、我如古菜月　他 |
| | 9 | 桃の香りを有する日本酒の開発に向けた基礎研究 | 田中晃一 |
| | 10 | 総社産の野生酵母を用いた地域特産パンの創出 | 田中晃一 |
| | 11 | 加齢に伴う骨格筋の萎縮および生活習慣病の発症を予防する機能性食品に関する研究－タウリンの機能性に関する検討(その1) | 山下広美、丸田ひとみ、馬　芸、孫　宝軍 |
| | 12 | 岡山パクチーの特性に関する研究 | 丸田ひとみ、山下広美 |
| | 13 | 豪雨災害地域での健康管理支援 | 住吉和子、森本美智子、原野かおり、伊丹古都絵　他 |
| デザイン | 1 | 倉敷アイビースクエアの改修・設計プロセス | 福濱嘉宏 |
| | 2 | 自社製品の開発を目指す企業を支援する実践的な産学共同研究 | 村木克爾、上田篤嗣、市川正美、髙戸仁郎 |
| | 3 | ジーンズの力学特性値に基づいた風合い評価に関する考察 | 舩山俊克 |
| | 4 | 岡山城を中心とした英語版旅行者向け拡張現実(AR)サイトの構築 | ブルネリ・アンソニー |

| 区分 | No. | テーマ名 | 担当者名 |
|---|---|---|---|
| デザイン | 5 | 病院における緑環境の役割に関する基礎的研究 | 畠　和宏 |
| | 6 | 再利用可能な板倉構法の木造仮設住宅に関する研究 | 畠　和宏 |
| | 7 | 竹久夢二の筆跡を基にした仮名書体の開発1 | 野宮謙吾、柴田奈美、風早由佳 |
| | 8 | テキスタイル製造過程廃棄物を用いた研究 | 難波久美子 |
| | 9 | 「未来を変える」住宅デザインの思想と手法 | 助川たかね |
| | 10 | スティッチング技法を用いた作品制作－一致範囲・部分の無いNPP画像の合成－ | 北山由紀雄 |
| | 11 | 店舗内の自由空間を利用した集客イベントやディスプレイの研究 | 中西俊介 |
| | 12 | 素材としての間伐材を活かした身体感覚に訴える造形デザインの研究 | 南川茂樹 |
| | 13 | 「鳴るボトル」プロジェクト:古代アンデスの笛付き土器のX線CT分析、レプリカ製作と実験 | 真世土マウ |
| | 14 | 縮緬生機に関するテキスタイルデザインの共同開発 | 岡本汐加 |
| | 15 | シニア向けサービスデザインプロセスについて | 石　王美 |
| ものづくり技術 | 1 | CMOS イメージセンサ用ゲッタリング技術に資する材料計算手法の開発 | 末岡浩治、横井達矢、野田祐輔 |
| | 2 | Penrose 共振器における波動カオスモードの形成メカニズム | 福嶋丈浩 |
| | 3 | 人工誘電体メタルスリットアレイの積層構造の光学共鳴特性 | 徳田安紀、坂口浩一郎、渡辺将伍 |
| | 4 | ヘルムホルツ共鳴器のスリットアレイ構造の音波伝搬特性 | 坂口浩一郎、徳田安紀、高木翔太郎 |
| | 5 | ものづくりを支援する数値解析法に関する研究 | 尾崎公一、福田忠生、山内　仁　他 |
| | 6 | 超電導変圧器の励磁突入電流波形に遺伝的アルゴリズムを用いた機器定数推定 | 徳永義孝 |
| | 7 | 炭素繊維強化熱可塑性プラスチックの融着と修復 | 金﨑真人 |
| | 8 | 熱エネルギー輸送技術の高効率化に関する研究 | 春木直人 |
| | 9 | 幼児同乗用自転車－幼児系の理論モデルの構築 | 大田慎一郎、太田涼 |
| | 10 | 機械式パワーアシスト車いすの研究開発 | 大田慎一郎、吉田智哉、髙戸仁郎 |
| | 11 | 陶磁器造形の鋳込み技法の研究 | 作元朋子 |
| | 12 | 中空のポスト壁導波路を用いた 5.8 GHz マイクロ波アプリケータ | 岸原充佳 |
| | 13 | 放射光直接エッチングによる短ミリ波帯導波管回路 | 岸原充佳 |
| | 14 | 聴覚障がいアスリートへの情報伝達技術に関する基礎研究 | 穂苅真樹、吉田智哉 |
| | 15 | 圧電素子の焦電効果を用いた呼吸数検出法および、デバイスの開発 | 吉田智哉、穂苅真樹 |
| IT | 1 | バックオフ遅延を含む確率的フラッディングにおける到達率の動特性評価 | 榊原勝己、髙林健人 |
| | 2 | ドローンネットワークにおける干渉を考慮した省電力通信方式の研究 | 髙林健人 |
| | 3 | 非可逆右手/左手系複合導波管に関する一考察 | 大久保賢祐 |

| 区分 | No. | テーマ名 | 担当者名 |
|---|---|---|---|
| IT | 4 | 第 6 世代移動体通信システムに向けた高周波局部発振器回路に関する研究 | 伊藤信之、田島直樹、結城　主、金田直樹 |
| | 5 | IoT 時代に向けた高周波増幅器回路に関する研究 | 伊藤信之、澤山唯人、吉澤悠人、宮崎和哉 |
| | 6 | 高速かつ高信頼なデータ伝送システムに関する基礎研究 | 稲井　寛、若林秀昭、荒井　剛 |
| | 7 | 動的再構成技術を用いたニューロプロセッサの開発 | 森下賢幸 |
| | 8 | ai-Okayama Society 5.0 インテグレーションコア | 岩橋直人、菊井玄一郎、中村　光、忻　欣他 |
| | 9 | 画像伝送量削減のための画像欠損・復元手法の検討 | 小椋清孝 |
| | 10 | スマートアグリ実現に向けた深層学習による動画像からの病害虫検出・識別 | 滝本裕則、金川明弘、葛原宏章、佐藤安弘 |
| | 11 | ブロックチェーン技術の応用 | 國島丈生 |
| | 12 | アクセシビリティ支援のための IT 応用 | 國島丈生、久保　麗 |
| | 13 | ソフトウェア不具合箇所の自動特定技術の性能向上に向けた技術開発に関する研究 | 天嵜聡介 |
| | 14 | 多人数不完全情報ゲームにおけるアルゴリズムの研究 | 但馬康宏 |
| | 15 | 世界最強のコンピュータ将棋プログラム | 芝　世弐、但馬康宏 |
| | 16 | 内視鏡を用いた医用画像における管径可視化手法の高速化 | 佐藤洋一郎　他 |
| | 17 | 定常状態観測に基づく異常検知システムにおける逐次学習型深層学習適用に関する研究 | 山内　仁 |
| | 18 | 組込みシステムの低消費電力化と高信頼化に関する研究 | 有本和民、横川智教 |
| | 19 | 車内における心拍間隔の計測を目的とした非接触心拍モニタリングシステム | 有本和民、横川智教、井川　直 |
| | 20 | 人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術 | 渡辺富夫、石井裕、西田麻希子、髙林範子　他 |
| | 21 | アバタコミュニケーション場における身体的インタラクション設計 | 石井　裕 |
| 文化・地域づくり・教育・スポーツ・その他 | 1 | SNS and Collaborative Networks of Secondary Students in Japan and France | デスマレス・エリック、クレイトン・クリストファー |
| | 2 | 閑谷学校の歴史的・文化的価値に関する | 向山　徹 |
| | 3 | 山口誓子の句集『凍港』に見る短歌の影響（1） | 柴田奈美 |
| | 4 | プリンティング表現の教育・普及に関する研究 | 関﨑　哲 |
| | 5 | 大学と文化施設による地域文化力を育む「連携型プログラム」の実践研究 | 真世土マウ、難波久美子、島田清徳、作元朋子　他 |
| | 6 | 災害時の住民の情報取得と避難行動～2018 年度の西日本豪雨災害の経験から～ | 岩満賢次 |
| | 7 | 現代舞踊による交流と研鑽の質を高める地域実践モデルの構築 | 新山順子、岡本悦子 |

| 区分 | No. | テーマ名 | 担当者名 |
|---|---|---|---|
| 文化・地域づくり・教育・スポーツ・その他 | 8 | 無人駅の活用による地域再生についての研究－JR 桃太郎線の無人駅7駅を事例として－ | 西川博美、朴　貞淑 |
| | 9 | 国連持続可能な開発目標（SDGs）を軸とする持続可能なコミュニティ創生と次世代の担い手育成（持続可能なコミュニティ創生Ⅲ） | 朴　貞淑 |
| | 10 | イオンモール岡山における館内外サイネージモニター用映像コンテンツの企画提案 | 山下万吉 |
| | 11 | 身体性アバタを介したリフレクションによる看護コミュニケーション教育支援システム | 髙林範子、渡辺富夫、石井　裕 |
| | 12 | 大学英語教育における BYOD 型学習と ICT の進展 | 関根紳太郎 |
| | 13 | ISRD 調査の概要と我が国のプロジェクトの状況 | 都島梨紗 |
| | 14 | 外国籍の子どもの教育・保育の質を保障する日本語教材の開発 | 柏　まり、佐藤和順 |
| | 15 | 日本における「学校の安全・危機」言説の展開 | 池田隆英 |
| | 16 | 幼児の運動の協調性に関する予備的検討－「気になる」幼児の行動特性との関連性－ | 京林由季子、中村光、青木みゆき |
| | 17 | 保育所における保育倫理意識向上に向けたアクションリサーチ | 中野菜穂子 |
| | 18 | 職業志向生が保育指導観に及ぼす影響 | 樟本千里 |
| | 19 | 英語プレゼンテーション練習のための Web 教授法および評価法研究（2） | 杉村　藍 |
| | 20 | 幼小の円滑な接続に向けた基礎研究―19 世紀アメリカ幼稚園運動にみる幼稚園教育の独自性― | 山本孝司 |
| | 21 | 上肢構造に着目した運動学習アプリケーションの開発 | 大山剛史 |
| | 22 | 人間の運動制御機構のモデル化に関する研究 | 山﨑大河、忻　欣、泉　晋作 |
| | 23 | 太陽光発電システムを有する電力系統の安定性解析 | 泉　晋作、忻　欣、山﨑大河 |
| | 24 | 両側加群の高次中心の研究 | 小松弘明 |
| | 25 | バナッハ空間の幾何学的定数の研究 | 三谷健一 |
| | 26 | 歩行の時間的認識誤差に影響を与える因子－適切な避難行動に向けて－ | 齋藤誠二、齋藤美絵子、綾部誠也、大山剛史 |

### ４．１－４　情報発信

社会貢献活動の展開においては、本学の研究シーズ等の外部への発信と学内の教員等の情報入手・共有が極めて重要となる。本年度は、以下の取り組みを行った。

#### （１）県内での情報発信の取組み

研究シーズ等の情報発信では、各種産学連携イベントで積極的に行っている。教員の研究シーズを発信したものとしては、次のとおりである。

本年度は、4 つのイベントで 10 件の発信を行った。

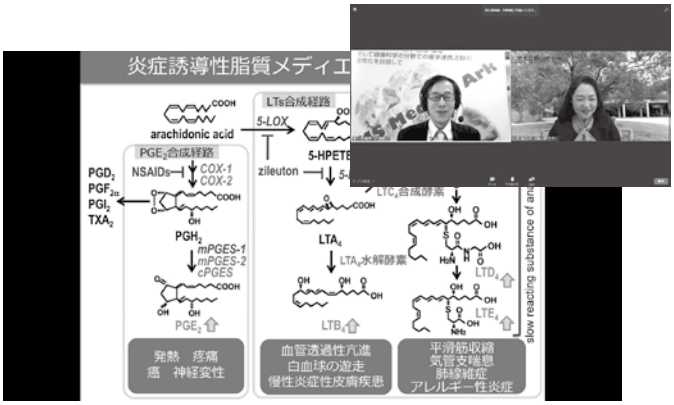
県内での産学連携イベント等での研究シーズ情報発信（学会等の発表を除く）

| 第 11 回　川崎医科大学　学術集会<br>日時:令和 2 年 8 月 1 日(土)　11:00～15:30<br>場所:川崎医科大学　現代医学教育博物館 | ※印は口頭発表者 |
|---|---|
| 高暑下におけるマスク装用時の温熱環境　※ | 池田　理恵　准教授 |
| 低侵襲型センサによる嚥下時間の計測に関する基礎研究 | 穂苅　真樹　教授 |
| 着心地を考慮した作業時衣服(防護服やつなぎ等)の研究 | 舩山　俊克　准教授 |

| | |
|---|---|
| 第1回　ミニシーズ発信会(鋳造関係)<br>日付:令和 2 年 9 月 9 日(水)<br>場所:岡山大学　※ | 尾﨑　公一　教授 |
| 第 2 回　ミニシーズ発信会(鋳造関係)<br>日付:令和 2 年 12 月21日(月)<br>場所:岡山大学　※ | 福田　忠生　准教授 |

| 第 25 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会<br>期間:令和 2 年 12 月 24 日(木)　～　令和 3 年 1 月 12 日(火)<br>場所:(オンライン開催) | |
|---|---|
| 安全・安心な手術を実現するためのシステム | 小枝　正直　　准教授 |
| 日常生活における触覚情報を活用したヒトの動作向上について | 大下　和茂　　准教授 |

| KMS メディカルアーク 2021with MTO<br>日時:令和 3 年 2 月 10 日(水)　12:00～16:00<br>場所:(オンライン開催) | ※印は口頭発表者 |
|---|---|
| 慢性炎症予防効果を有する食品機能性とそれを付加した新規嚥下調整食の開発　※ | 山本　登志子　　教授 |
| 高LDLコレステロール血症を改善する機能性食品に利用可能な発酵微生物の探索 | 田中　晃一　　教授 |
| 非接触心拍モニタシステム（高精度R－R－I検出） | 有本　和民　　教授 |




KMS メディカルアーク 2021with MTO　発表風景

### （２）県外での情報発信の取り組み

本年度は、2 つのイベントで 3 件の発信を行った。

| イノベーション・ジャパン 2020<br>期間：令和 2 年 9 月 28 日（月） ～ 11 月 30 日（月）<br>場所：（オンライン開催） | |
|---|---|
| 人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術（情報通信） | 渡辺　富夫　教授 |
| 低価格米粉の特性を活かした新商品の開発 | 田中　晃一　教授 |

| 2020 年度　第 4 回ヘルスケア・医療福祉機器技術研究交流会<br>日付：令和 2 年 9 月 24 日（木）<br>場所：ホテルセンチュリー21広島　2F　フォルザ　※印は口頭発表者 | |
|---|---|
| 身体性アバタを介した看護コミュニケーション教育支援システム ※ | 髙林　範子　助教 |

## ４．２　産学官連携部門

### ４．２－１　企業等と連携した研究活動

共同研究の様子

令和２年度の実績は、共同研究 45 件(15,345 千円)、受託研究 11 件(32,271 千円)、教育研究奨励寄附金等 34 件(22,388 千円)であった。

令和２年度の目標は、共同研究、受託研究と教育研究奨励寄附金等の合計値で、件数 115 件以上、金額 80,000 千円以上のいずれかの達成であり、実績は件数 90 件(達成率 78.3%)、金額は 70,004 千円(達成率 87.5%)と目標を達成できなかったので、成果指標※1 は[ 2 ]であった。

新型コロナウイルスの影響もあり経営環境は厳しく、コーディネータへの相談も減少傾向であり共同研究又は受託研究に繋がるものは依然として多くない。

学内全体・学部別実績は下表のとおりである。今後とも、地域に根ざした大学としての本学の存在感を出すべく、活発な産学官連携活動を進めるとともに、相談に対して『敷居の低い大学』として地元企業に認められるよう、岡山県立大学協力会との協働、金融機関等の紹介を得て、積極的な努力をしていく必要がある。

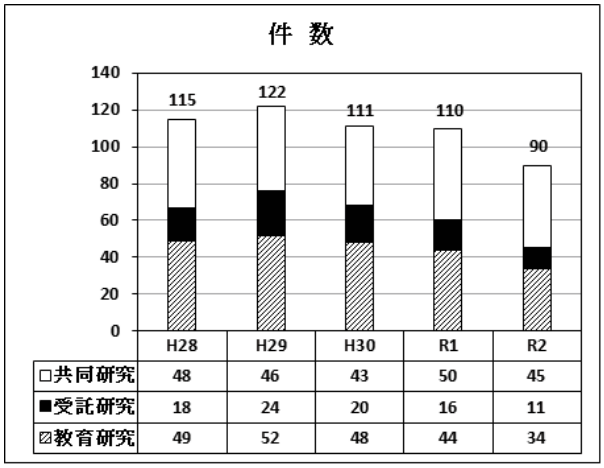
※1 成果指標

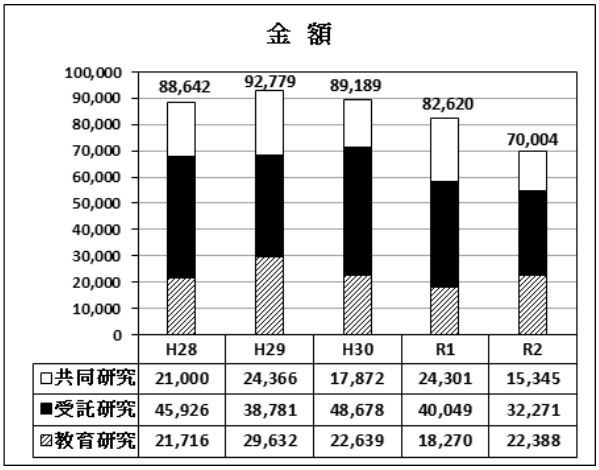
［４］… 130 件以上　又は　100,000 千円以上

［３］… 115 件以上　又は　 80,000 千円以上 100,000 千円未満

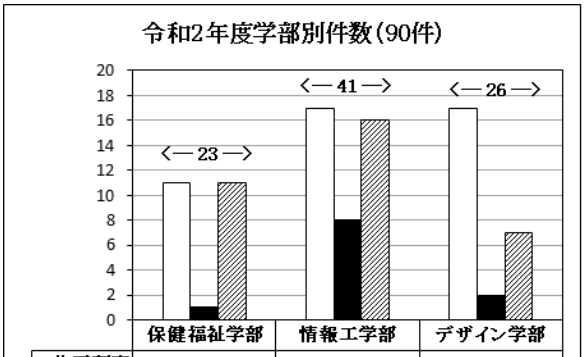
［２］… 115 件未満　又は　 80,000 千円未満

共同研究、受託研究、教育研究奨励寄付金の実績

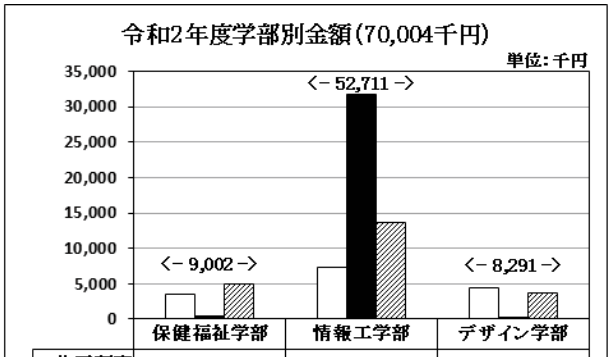


学部別実績




| | 保健福祉学部 | 情報工学部 | デザイン学部 |
|---|---|---|---|
| □共同研究 | 11 | 17 | 17 |
| ■受託研究 | 1 | 8 | 2 |
| ▨教育研究 | 11 | 16 | 7 |




| | 保健福祉学部 | 情報工学部 | デザイン学部 |
|---|---|---|---|
| □共同研究 | 3,603 | 7,301 | 4,441 |
| ■受託研究 | 440 | 31,721 | 110 |
| ▨教育研究 | 4,959 | 13,689 | 3,740 |

### （１）共同研究

産学官連携部門は普段から自治体、支援機関、金融機関、経済団体等が主催する各種交流会、セミナー及び展示会に参加することにより企業ニーズを探求してきた。近年、金融機関が産学金官の連携に注力していることから、紹介件数が増えている。各教員の学会活動や企業との交流会などの地道な努力により、本年の共同研究は 45 件・15, 345 千円であった。なお、過去 5 年間の平均は 46 件・20, 577 千円である。

### （２）受託研究

公的機関からの委託研究や民間企業と共同で公的競争的資金獲得に基づくものが多く、今年度は 11 件 32, 271 千円。
内、公的機関 8 件・30, 031 千円、民間企業等 3 件・2, 240 千円であった。なお、過去 5 年間の平均は 18 件・41, 141 千円である。

### （３）教育研究奨励寄附金等

教育研究奨励寄附金は外部の企業・団体から本学の教育・研究奨励のために寄付されるもので、本学の日ごろの社会貢献活動が反映されているとも言える。また、本件数には各種財団の助成金を含んでおり、本年度は 34 件・22,388 千円であった。
なお、過去 5 年間の平均は 45 件・22,929 千円である。

### （４）外部競争的資金への応募支援

産学官連携部門のコーディネータが関与する外部競争的資金としては JST(科学技術振興機構)の A-STEP 支援(試験研究並びに実証研究)、中国地域創造研究センターの新産業創出研究会などがある。

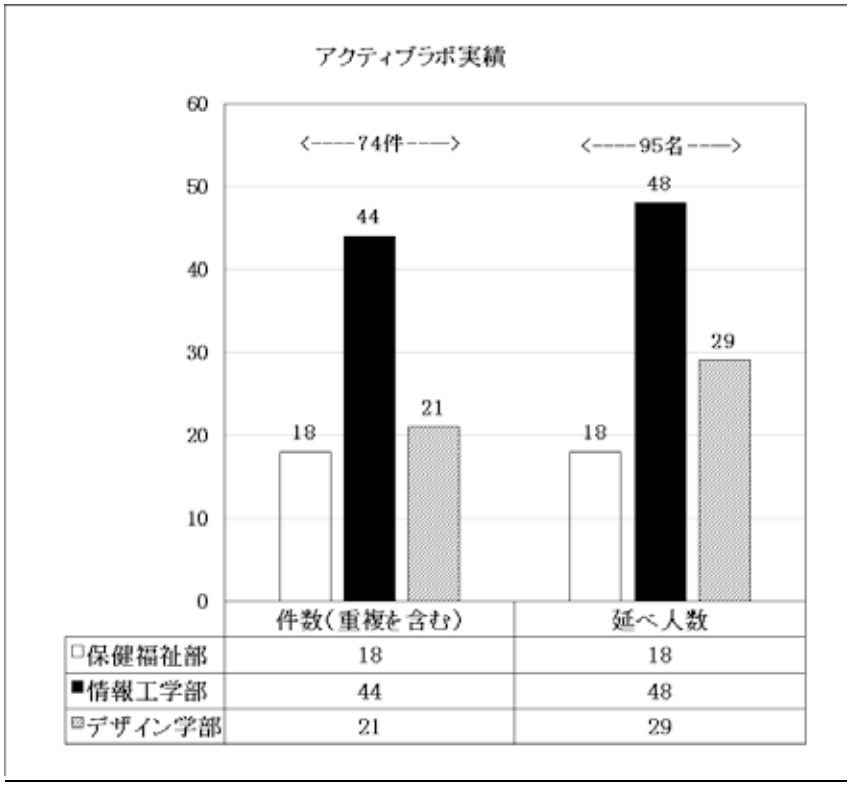
### ４．２－２　アクティブ・ラボ

アクティブ・ラボ実施状況

アクティブ・ラボ（出前研究室）は教員、コーディネータが企業・団体に出向き、また企業・団体が来学され、本学研究シーズの紹介並びに訪問先企業の抱えている課題のヒアリングや情報交換を行う場で、地域社会に役立つ実学を行う場として位置づけられている。訪問先または来学先は日常的な技術相談や産業支援機関・金融機関からの紹介で決まる場合が多く、1 年間を目途に本学協力会会員企業 53 社を訪問することで前向きにアクティブ・ラボを推進している。また、事前に企業情報を入手して概略の把握をしてから訪問している。訪問先で意見交換をする中でニーズとシーズがマッチして共同研究や受託研究に至るケースもある。

実績は 74 件の訪問で、延べ 95 名の教員が参加した。学部別では保健福祉学部が 18 件・延べ 18 名、情報工学部が 44 件・延べ 48 名、デザイン学部が 21 件・延べ 29 名であった。参加した教員の実数が全教員の 18%程度であり、今後の共同研究の拡大のためには、参加教員数の増加が必須であると考えられる。

学部別実績



令和2年度 アクティブ・ラボ実績

| No. | 訪問日 | 教員名 | 学部 | No. | 訪問日 | 教員名 | 学部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4月02日 | 滝本裕則　准教授 | 情 | 44 | 11月09日 | 尾崎公一　教授 | 情 |
| 2 | 4月07日 | 末岡浩治　教授 | 情 | | | 福田忠生　准教授 | 情 |
| 3 | 4月21日 | 舩山俊克　准教授 | デ | 45 | 11月18日 | 春木直人　教授 | 情 |
| 4 | 5月18日 | 田中晃一　教授 | 保 | 46 | 11月24日 | 樟本千里　講師 | 保 |
| 5 | 5月18日 | 田中晃一　教授 | 保 | 47 | 11月24日 | 尾崎公一　教授 | 情 |
| 6 | 6月04日 | 末岡浩治　教授 | 情 | 48 | 11月24日 | 尾崎公一　教授 | 情 |
| 7 | 6月12日 | 田中晃一　教授 | 保 | 49 | 11月25日 | 尾崎公一　教授 | 情 |
| 8 | 6月12日 | 田中晃一　教授 | 保 | 50 | 11月26日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 9 | 6月19日 | 末岡浩治　教授 | 情 | 51 | 11月27日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 |
| 10 | 6月25日 | 末岡浩治　教授 | 情 | | | 尾崎公一　教授 | 情 |
| 11 | 7月06日 | 滝本裕則　准教授 | 情 | 52 | 11月30日 | 福田忠生　准教授 | 情 |
| | | 金川明弘　教授 | 情 | 53 | 12月01日 | 尾崎公一　教授 | 情 |
| 12 | 7月15日 | 尾崎公一　教授 | 情 | 54 | 12月08日 | 尾崎公一　教授 | 情 |
| 13 | 7月17日 | 髙橋俊臣　准教授 | デ | 55 | 12月08日 | 三原鉄平　教授 | デ |
| 14 | 7月21日 | 尾崎公一　教授 | 情 | 56 | 12月10日 | 滝本裕則　准教授 | 情 |
| 15 | 7月28日 | 伊藤信之　教授 | 情 | 57 | 12月11日 | 春木直人　教授 | 情 |
| | | 尾崎公一　教授 | 情 | 58 | 12月11日 | 尾崎公一　教授 | 情 |
| 16 | 7月29日 | 尾崎公一　教授 | 情 | 59 | 12月17日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 |
| 17 | 8月05日 | 田中晃一　教授 | 保 | 60 | 12月21日 | 中西俊介　准教授 | デ |
| 18 | 8月11日 | 田中晃一　教授 | 保 | 61 | 12月25日 | 伊藤信之　教授 | 情 |
| 19 | 9月03日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 | 62 | 1月12日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 20 | 9月07日 | 田中晃一　教授 | 保 | 63 | 2月02日 | 三原鉄平　教授 | デ |
| 21 | 9月09日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 | 64 | 2月05日 | 綾部誠也　教授 | 情 |
| 22 | 9月09日 | 西川博美　准教授 | デ | 65 | 2月05日 | 三原鉄平　教授 | デ |
| 23 | 9月10日 | 難波久美子　教授 | デ | 66 | 2月07日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 24 | 9月15日 | 畠和宏　助教 | デ | 67 | 2月16日 | 小畑千晴　准教授 | 保 |
| 25 | 9月23日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 | 68 | 3月03日 | 村木克爾　教授 | デ |
| 26 | 9月24日 | 難波久美子　教授 | デ | | | 舩山俊克　准教授 | デ |
| | | 岡本汐加　助教 | デ | 69 | 3月04日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 27 | 9月25日 | 三原鉄平　教授 | デ | 70 | 3月09日 | 三原鉄平　教授 | デ |
| | | 舩山俊克　准教授 | デ | | | 津田勢太　教授 | デ |
| | | 難波久美子　教授 | デ | 71 | 3月10日 | 坂口浩一郎　助教 | 情 |
| 28 | 9月29日 | 伊藤信之　教授 | 情 | 72 | 3月15日 | 三原鉄平　教授 | デ |
| 29 | 9月29日 | 伊藤信之　教授 | 情 | 73 | 3月16日 | 難波久美子　教授 | デ |
| 30 | 9月30日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 | | | 西川博美　准教授 | デ |
| 31 | 9月30日 | 尾崎公一　教授 | 情 | 74 | 3月16日 | 西川博美　准教授 | デ |
| 32 | 10月08日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 | | | 難波久美子　教授 | デ |
| 33 | 10月13日 | 南川茂樹　准教授 | デ | 75 | 3月17日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 34 | 10月14日 | 春木直人　教授 | 情 | 76 | 3月19日 | 三原鉄平　教授 | デ |
| 35 | 10月15日 | 尾崎公一　教授 | 情 | 77 | 3月25日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 36 | 10月19日 | 春木直人　教授 | 情 | 78 | 3月26日 | 西田麻希子　准教授 | デ |
| 37 | 10月21日 | 尾崎公一　教授 | 情 | 79 | 3月26日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 38 | 10月21日 | 尾崎公一　教授 | 情 | 80 | 3月29日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 39 | 10月22日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 | 81 | 3月30日 | 田中晃一　教授 | 保 |
| 40 | 10月22日 | 佐藤洋一郎　教授 | 情 | 82 | 3月31日 | 稲井寛　教授 | 情 |
| 41 | 10月28日 | 尾崎公一　教授 | 情 | | | | |
| 42 | 10月30日 | 野宮謙吾　教授 | デ | | | | |
| 43 | 10月30日 | 村木克爾　教授 | デ | | | | |
| | | 舩山俊克　准教授 | デ | | | | |
| | | 市川正美　准教授 | 情 | | | | |

(保)：保健福祉学部
(情)：情報工学部
(デ)：デザイン学部

### ４．２－３　学外組織との連携・協働活動

地域創造戦略センターでは金融機関、経済団体、産業支援機関等が主催するセミナー、交流会、相談会等のイベントに積極的に参加し、これらの活動を通じて本学シーズと社会ニーズとのマッチング、情報収集並びに人的交流を行っている。

#### （１）各種支援機関との協働

**①　岡山・産学官連携推進会議（会長：岡山県知事）**

本会議は産学官の連携・協働の動きを強化し、県民力を結集して産業振興を図るための組織として、経済団体、行政、支援機関及び大学等県内の主要機関（20機関）が連携して平成 15 年に設立されたものである。「交流の場の提供」、「企業人材の育成事業」、「インターンシップ制度の充実」、「産学官連携情報提供」などを行っており、経済界 6、大学等 13、行政 4、その他金融機関等 9 の計 32 機関で構成されている。

◆総会　令和 2 年 6 月 12 日（金）　書面会議

◆コーディネート力向上セミナー　令和 3 年 1 月 26 日（火）　オンライン開催

**②　岡山リサーチパーク研究・展示発表会**

岡山リサーチパークに関係する企業、大学、研究機関の研究成果を発表する。また、その成果を県内に広めるため交流・相談の場を提供し、事業化に向けた積極的な産学官連携を推進し、県内の産業に貢献することを目的として毎年行われており、第 25 回を迎えた本年度は、本学から 2 件の展示が行われた。

◆研究・展示発表会

令和 2 年 12 月 24 日（木）～ 令和 3 年 1 月 12 日（火）　オンライン開催

合計展示数:7 分野 61 テーマ

**③　県内支援機関**

岡山県産業振興財団

◆産学連携説明会　令和 3 年 1 月 27 日（水）　オンライン開催

◆産学金官フォローアップセミナー　令和 3 年 2 月 9 日（火）　オンライン開催

◆岡山県中小企業ものづくり関連支援制度説明会　令和 3 年 2 月 15 日（月）　オンライン開催

◆おかやま自動車要素技術共創コンソーシアム総会　令和 3 年 3 月 11 日（木）　オンライン開催

**④　金融機関との連携活動**

平成 20 年に中国銀行、トマト銀行、おかやま信用金庫の三つの金融機関と包括協定を同時に提携し、県内の中小企業を中心に産学連携活動を行っている。本年度はコロナ禍のため、各銀行のイベントは中止されたが、共同研究等の推進活動に努めた。

**⑤　県立研究機関協議会**

岡山県立研究機関及び地方独立法人法により設置される研究機関の試験研究に関する情報交換、技術交流等を通じて、技術の向上、研究開発の推進と研究機関の活性化を図り地域振興に資するため設置された協議会である。

◆第１回企画担当者会議　　令和２年 ５月 15 日(金)　書面会議
◆機関長会議　　令和２年 11 月 19 日(木)　書面会議
◆第２回企画担当者会議　　令和３年 ２月 17 日(水)　書面会議

### ⑥　さんさんコンソ（中国地域産学官連携コンソーシアム）

文部科学省のイノベーションシステム整備事業大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)に、岡山大学、鳥取大学が共同で応募し採択され、平成 20 年度から同受託事業として実施されてきた。平成 24 年度をもって文科省事業としては終了したが、平成 25 年度以降も両校が中心となり事業を継続し、中国地域の産学官連携活性化の一翼を担うべく活動している。

### ⑦　岡山県　企業と大学との共同研究センター

岡山県は、令和元年度の新規重点事業である「大学と連携した地域産業振興事業」において、大学など高等教育機関の知の活用により新たな技術課題に対応しながら成長・ 発展を目指す県内企業を積極的に支援していくこととしており、この事業の中核を担う拠点として「岡山県　企業と大学との共同研究センター」を昨年 10 月に開設した。本年度は、5 月から関係大学等が毎月定例のコーディネータ情報交換会を開催し、本学地域創造戦略センターのコーディネータも参加した。

◆コーディネータ情報交換会　　令和２年 ５月 15 日(金)　オンライン会議
◆コーディネータ情報交換会　　令和２年 ６月 19 日(金)　岡山大学
◆コーディネータ情報交換会　　令和２年 ７月 17 日(金)　津山高等専門学校
◆コーディネータ情報交換会　　令和２年 ８月 21 日(金)　オンライン会議
◆コーディネータ情報交換会　　令和２年 ９月 18 日(金)　岡山県立大学
◆コーディネータ情報交換会　　令和２年 10 月 16 日(金)　岡山理科大学
◆コーディネータ情報交換会　　令和２年 11 月 20 日(金)　岡山大学
◆コーディネータ情報交換会　　令和２年 12 月 18 日(金)　岡山大学
◆コーディネータ情報交換会　　令和３年 １月 26 日(火)　オンライン会議
◆コーディネータ情報交換会　　令和３年 ２月 19 日(金)　岡山大学
◆コーディネータ情報交換会　　令和３年 ３月 19 日(金)　岡山大学

### ⑧　その他

その他に以下の機関が主催した交流会、セミナー、展示会に参加した。

◆イノベーションジャパン出展(JST)　　令和２年 ９月 28 日(月)　オンライン開催
～11 月 30 日(月)
◆川崎医科大学学術関連技術研究会　　令和２年 ８月 １日(土)　川崎医科大学
◆ヘルスケア・医療福祉機器技術研究会　　令和２年 ９月 24 日(木)　中国地域創造研究センター
◆OUSフォーラム　　令和２年 11 月 24 日(月)　オンライン開催
～11 月 30 日(月)
◆KMSメディカルアーク出展　　令和３年 ２月 10 日(水)　オンライン開催

### （２）技術分野別産学官連携組織・研究会などの協働

#### ①　おかやま生体信号研究会

本会は、ヒトの動き・脳波・筋電・心電・血圧など、ヒトをはじめとする生き物に由来する信号の総称である「生体信号」に関連する技術の研究を対象としている。具体的には、生体信号の計測・処理技術，生体信号による機器制御技術、生体信号の診断応用・評価、並びにその応用技術などの研究を行っている。

◆第34回例会　　令和２年10月16日（金）　オンライン会議

#### ②　ハートフルビジネスおかやま

産学官民が連携し、利用者が真に必要としている福祉用具の開発・普及を促進するとともに、新規参入を促し、福祉関連産業の振興を図ることを目的に活動している。

◆総会　　令和２年　６月10日（水）　書面会議

◆講演会　　令和３年　２月17日（水）　オンライン開催

## ４．２－４　岡山県立大学協力会

### （１）設立の背景

岡山県の製造業に分類される企業は 3,161 社であり、その約 90%は従業員数 100 名未満の中小企業である(岡山県 2019 年工業統計調査結果確報(令和 2 年 7 月 27 日公表))。特に、中小企業においては、オリジナル製品の開発や今後成長が見込まれる医療、環境分野への進出等、大企業への依存度の低減に向けた活動が行われているものの、それを推進するために、下記のような課題があるとの報告がある。

◇研究・開発に係る技術者人材の不足
◇アイデアの不足
◇アイデアがあってもそれを活かすためのプロジェクトマネージメント力の不足
◇デザイン力、ブランド力、マーケッティング力の不足
◇技術動向の情報不足
◇IoT、ビッグデータ、AI 等革新的技術の迅速な導入が困難　　等

このような課題の解決に向けて、大学や公的研究機関からの支援を望む声が多いものの、大学に対しては“敷居の高さ”を意識し依頼を躊躇するとの意見がある。

岡山県立大学は、その建学の理念の中で、地域の産業の振興に寄与することを目的の一つに掲げている。しかし、ミクロものづくり岡山、岡山県食品新技術応用研究会、つやまデザインカレッジ等での教員個別の活動が大部分であり、大学としての主体的かつ組織的な取組みは十分でない状況にある。また、開発者人材の輩出について十分な状況にはない。例えば、製造業系企業に就職する学生が最も多い情報工学部では、約 50%の学部生が県内企業に就職しているものの、絶対数は 40～50 名程度である。地域の産業の振興に寄与するためには、県内企業への技術支援や共同研究、学生の就職率のさらなる向上等の取組を積極的に推進する必要があることから、岡山県立大学協力会を設立し、下記のような課題に取り組むこととした。

◇共同研究、技術相談等の能動的・組織的な取組みへの展開
◇工学教育への地元企業の参加による地域志向教育の取込みと実践的人材育成の推進
◇本学学生の地元企業への就職支援
◇研究シーズだけでなく教育シーズの有効活用

### （２）目的

本会の目的は、次の通りである。

「県内中小企業が感じている大学の敷居の高さを軽減し、本学に対して技術相談、共同研究等を依頼しやすい環境を整え、卒業生の就職も含め、県内中小企業と本学との強い連携・協働を促進すること」

また、本会の活動を通して期待される効果としては、

Ⅰ．インターシップ、企業説明会を通した本学学生(OB・OG も含む)への魅力発信による地元企業への人材輩出の促進及びセミナーの開催や社会人ドクター受入等による産業人材の育成と確保

Ⅱ．共同研究の推進、技術研究会等による企業の技術開発力の向上及び共同研究への学

生参加による実践的人材育成（当該企業への就職も期待）

Ⅲ. 革新的最新技術の導入のためのセミナーや異業種間共同研究の推進による新規産業の創成を想定している。

### （３）運営体制

本会は、企業会員を中心とする正会員と団体を中心とする賛助会員で構成される。本会の会議は、総会、運営委員会及び事業推進委員会である。運営委員会は、会長（1 名）、副会長（若干名）、理事（10 名以上）及び監事（2 名）で構成し、本会の事業を企画し、これを執行する。事業推進委員会は、本学に置き、地域創造戦略センター長、同センター産学官連携部門長及び部門員、情報工学部長で構成し、運営委員会からの指示に基づいて、事業の具体的な計画・立案・実施を行う。事務局も本学に置き、本会の活動にかかわる諸事務を行う。

令和 2 年度の運営委員会及び事業推進委員会の委員名簿を、それぞれ、表 4.2-4-1 及び 4.2-4-2 に示す。

表 4.2-4-1:運営委員会名簿

| 役員等 | 運営委員会 | 所　属 | 役　職 | 氏　名 |
|---|---|---|---|---|
| 会長 | 委員長 | (株)英田エンジニアリング | 代表取締役社長 | 万殿　貴志 |
| 副会長 | 副委員長 | コアテック(株) | 取締役 | 山本　卓二 |
| 副会長 | 副委員長 | 岡山県経済団体連絡協議会 | 事務局長 | 神崎　浩二 |
| 副会長 | 副委員長 | 岡山県立大学 | 地域創造戦略センター・センター長 | 佐藤　洋一郎 |
| 理事 | 委員 | 板野機工(株) | 代表取締役会長 | 板野　恒一 |
| 理事 | 委員 | オーエム産業(株) | 代表取締役社長 | 難波　圭太郎 |
| 理事 | 委員 | (公財)岡山県産業振興財団 | 総務部長 | 横田　尚之 |
| 理事 | 委員 | (一社)岡山工業会 | 事務局長 | 上田　哲也 |
| 理事 | 委員 | (一社)システムエンジニアリング岡山 | 事務局長 | 楠戸　國正 |
| 理事 | 委員 | ヒルタ工業(株) | 取締役専務執行役員 | 小田　崇之 |
| 理事 | 委員 | 両備ホールディングス(株) | 人財本部シニアリーダー | 三宅　瑛治 |
| 理事 | 委員 | 岡山県立大学 | 情報工学部・学部長 | 榊原　勝己 |
| 理事 | 委員 | 岡山県立大学 | 地域創造戦略センター・産学官連携部門長 | 尾﨑　公一 |
| 理事 | 委員 | 岡山県立大学 | デザイン学部・教授 | 村木　克爾 |
| 理事 | 委員 | 岡山県立大学 | 情報工学部・教授 | 伊藤　信之 |
| 監事 | 委員 | シャープタカヤ電子工業(株) | 総務部長 | 今井　眞二 |
| 監事 | 委員 | 岡山県立大学 | 名誉教授 | 亀山　嘉正 |
| 顧問 | ― | 岡山県経済団体連絡協議会 | 座長 | 中島　博 |
| 顧問 | ― | 岡山県立大学 | 理事長・学長 | 沖　陽子 |
| 顧問 | ― | 岡山県立大学 | 理事・副学長（社会連携担当） | 末岡　浩治 |

表 4.2-4-2:事業推進委員会名簿

| 所　属 | | 職　名 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| 地域創造戦略センター・センター長 | | 委員長 | 佐藤　洋一郎 |
| 情報工学部・学部長 | | 副委員長 | 榊原　勝己 |
| 地域創造戦略センター・産学官連携部門長 | | 副委員長 | 尾﨑　公一 |
| 情報工学部・教授 | | 副委員長 | 伊藤　信之 |
| デザイン学部・教授 | | 副委員長 | 村木　克爾 |
| 保健福祉学部・教授 | | 委員 | 山本　登志子 |
| 保健福祉学部・教授 | | 委員 | 田中　晃一 |
| 情報工学部・教授 | | 委員 | 春木　直人 |
| 情報工学部・教授 | | 委員 | 渡辺　富夫 |
| 情報工学部・准教授 | | 委員 | 市川　正美 |
| 情報工学部・准教授 | | 委員 | 山内　仁 |
| 情報工学部・准教授 | | 委員 | 福田　忠生 |
| 情報工学部・准教授 | | 委員 | 横川　智教 |
| デザイン学部・准教授 | | 委員 | 中西　俊介 |
| 地域連携・研究推進課長 | | 委員 | 長家　輝 |
| 事務局 | 地域創造戦略センター・センター長 | 事務局長 | 佐藤　洋一郎 |
| | 地域創造戦略センター・産学官連携部門長 | 副事務局長 | 尾﨑　公一 |
| | 情報工学部・教授 | 副事務局長 | 伊藤　信之 |
| | 事務局次長 | 副事務局長 | 小西　邦彦 |
| | 地域連携・研究推進課長 | 副事務局長 | 長家　輝 |
| | 地域連携・研究推進課　連携推進班長 | 副事務局長 | 片岡　始美 |
| | 情報工学部・准教授 | | 渡邉　淳司 |
| | 地域創造戦略センター・コーディネーター | | 武田　吉弘 |
| | 地域創造戦略センター・コーディネーター | | 村井　聡紀 |
| | 地域創造戦略センター・コーディネーター | | 黒川　しのぶ |
| | 地域創造戦略センター・コーディネーター | | 藤木　一 |
| | 地域連携・研究推進課連携推進班 | | 後藤　大輔 |
| | 地域連携・研究推進課連携推進班研究推進グループ | | 山田　義明 |
| | 地域連携・研究推進課連携推進班研究推進グループ | | 増田　康平 |
| | 地域連携・研究推進課連携推進班研究推進グループ | | 垣内　優花 |
| | 地域連携・研究推進課連携推進班研究推進グループ | | 藤井　里奈 |
| | 地域連携・研究推進課連携推進班研究推進グループ | | 岡　正子 |
| | 地域連携・研究推進課連携推進班 | | 野口　裕美 |

### （４）活動計画

1)産学官連携関係者間の情報交換及び交流並びに研究開発支援にかかわる事業

A. 教員及び学生による会員企業への訪問

B. 会員、教員及び学生を対象とした交流会の開催

2)講演会、講習会、セミナー等の開催にかかわる事業

A. 最先端技術に関する講演会の開催

B. 画像技術講習会の開催

C. 講演会、講習会、セミナー等のテーマに関するニーズ調査

3)県内産業の発展に資する人材の確保・育成にかかわる事業

A. 業種説明会の開催

B. 会員企業による会社説明会

C. 人材確保. 育成に関するニーズ調査

4)岡山県立大学の専門教育の充実に関する支援にかかわる事業

A. 学部及び大学院学生を対象とした技術者教育の計画

B. 企業参加型PBL教育の計画

C. 大学教育への要望に関する調査

5)本会の情報管理や活動の企画・実施のための環境整備及び広報にかかわる事業

A. 本会のホームページの更新

B. 会報の発行

C. 事業実施報告書の作成

6)会議等

A. 運営委員会の開催

B. 事業推進委員会の開催

### （５）活動実績

令和 2 年度の活動実績の一覧を表 4.2-4-3 に示す。新型コロナウィルスの影響により活動が制限された。

表 4.2-4-3:活動一覧

| 日　付 | 内　容 | 場　所 | 参　加　者　等 |
|---|---|---|---|
| 6 月 15 日(月) | 総会 | 書面議決 | |
| 7 月 8 日(水) | 協力会事業推進委員会 | 岡山県立大学 | 学内協議(25 名) |
| 8 月 4 日(火) | 臨時総会 | 書面議決 | |
| 10 月～12 月 | 会員企業訪問 | | 会員企業 24 社訪問 |
| 10 月 29 日(金) | 「エンジニアリング演習」報告会 | 岡山県立大学 | 参加学生 18 名<br>参加企業 16 社 |
| 11 月 | 環境整備・広報 | | 協力会会員企業ガイド発行 |
| 11 月 12 日(木)～12 月 19 日(土) | 寄附講座 | 岡山県立大学 | 参加企業 6 社 |

| 日　付 | 内　容 | 場　所 | 参 加 者 等 |
|---|---|---|---|
| 2 月 15 日(月)<br>(中止) | 第 1 回業種説明会 | 岡山県立大学 | |

**①　岡山県立大学協力会　令和 2 年度総会**

日付:令和 2 年 6 月 15 日(月)

場所:書面議決

【審議事項】

第 1 号議案　令和元年度事業報告

第 2 号議案　令和元年度決算報告

第 3 号議案　令和元年度監査報告

第 4 号議案　令和 2 年度役員の改選(案)

第 5 号議案　令和 2 年度事業計画(案)

第 6 号議案　令和 2 年度予算(案)

第 7 号議案　規約の改正(案)

**②　岡山県立大学協力会　令和 2 年度臨時総会**

日付:令和 2 年 8 月 4 日(火)

場所:書面議決

【審議事項】

第1号議案　役員の改選(案)

**③　会員企業訪問**

新型コロナウィルスの影響があったが、10 月より活動を再開し、24 社を訪問した。

期間:令和 2 年 10 月～12 月

内容:下記の目的で、本学教員と産学官コーディネータのペアで訪問。

・大学教員と企業との技術相談、気さくなコミュニケーションを図る。

・産学連携や教育について意見交換を行い、交流を深める。

・企業が抱える技術的な課題の解決を支援する。

・共同開発、実用化への諸問題等を解決し、製品化を支援する。

・共同研究・開発案件等に限らず、技術相談に応じる。

・大学の研究シーズにより解決策を探る。

・共同研究には馴染まない企業の幅広いニーズに対応する。

### ④　「エンジニアリング演習」報告会の開催

日付:令和 2 年 10 月 30 日(金)
場所:岡山県立大学　8902･8904 講義室
参加企業:
　参加者数／企業数…28 名／16 社
　受入企業…19 名／10 社
　　(受入企業は全て参加)
　受入企業以外の協力会会員企業…9 名／6 社
学生:18 名

### ⑤　環境整備・広報

令和 2 年 11 月に会員企業の事業内容を在学生及び父兄等に周知することを目的とし、「企業ガイド」を作成した。
「協力会ホームページ」は随時更新している。
　ホームページ URL　https://commu.oka-pu.ac.jp

### ⑥　寄付講座　として「技術者と社会」の授業を開講

期間:令和 2 年 11 月 12 日(木)より 12 月 19 日(土)まで
場所:岡山県立大学内
○「技術者と社会」の授業日程について
　社会情勢を鑑み、対面授業 1 コマ+自宅学習 1 コマの形式で、下記のスケジュールに従って授業を進めた。

| | 日時･場所 | 内容 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 第 1 回 | 11/12(木)5 限<br>(16:00～17:30)<br>8901 講義室 | 授業概要説明 | 尾崎　公一教授 |
| 第 2･3 回 | 11/19(木)5 限<br>(16:00～17:30)<br>8901 講義室 | 情報業界の視点から | 株式会社システムズナカシマ<br>石原 洋之 氏 |
| 第 4･5 回 | 11/26(木)5 限<br>(16:00～17:30)<br>8903 講義室 | 電気業界の視点から | タカヤ株式会社<br>木村 弘幸 氏 |
| 第 6･7 回 | 12/03(木)5 限<br>(16:00～17:30)<br>8901 講義室 | 機械業界の視点から | 株式会社英田エンジニアリング<br>万殿 貴志 氏 |
| 第 8･9 回 | 12/10(木)5 限<br>(16:00～17:30)<br>8901 講義室 | 造船業界の視点から | サノヤス造船株式会社<br>連山 大志郎 氏 |

| | 日時・場所 | 内容 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 第 10・11 回 | 12/19(土)3 限<br>(12:40～14:10)<br>8209 講義室 | 化学業界の視点から | 倉敷化工株式会社<br>松浦 資明 氏 |
| 第 12・13 回 | 12/19(土)4 限<br>(14:20～15:50)<br>8209 講義室 | 技術者倫理 | 西日本電信電話株式会社<br>粕 淵 卓 氏 |
| 第 14・15 回 | | 岡山県立大学<br>協力会企業研究 | 尾崎 公一教授 |

**⑦ 業種説明会**

就職活動が本格的にスタートする前に地元企業の事業内容、事業展開等の説明を受け、業種・業界の魅力を直接感じることで、本学学生の進路選択の一助となることを目的とし、2月の開催に向け準備を進めていたが、新型コロナウィルスの感染拡大を受け中止となった。

（過去の開催の様子）

**⑧ 協力会会員企業への情報提供**

経済産業省、中国経済産業局、総務省中国総合通信局、独立行政法人情報処理推進機構、おかやま IoT 推進ラボ事務局（岡山県産業振興課）、（一社）システムエンジニアリング岡山等から寄せられるお知らせを随時、協力会会員企業に情報として提供している。

## ４．３　地域連携部門

### ４．３－１　地域連携プロジェクト

本学における地域連携活動の推進及び産学官連携活動を通じた企業の人材育成に寄与する活動の支援を目的に平成 29 年度から新設した「地域連携推進事業」「企業人材育成事業」を実施し、支援を行った。

#### （１）地域連携推進事業

岡山県内において本学と連携協力に関する協定を締結する自治体又はそれ以外の自治体を活動拠点とし、本学教員及び学生が行政機関、大学、経済団体、地域団体（社会福祉協議会、特定非営利活動法人、自治会等）と連携して実施する、①健康福祉関連、②子ども関連、③まちづくり関連、④アート・食育・ICT関連の事業、⑤その他学長が必要と認めた活動について、学長が行う事業計画の承認や、その実施を支援している。

#### （２）企業人材育成事業

岡山県内において本学教員が行政機関、大学、経済団体、企業、地域団体（ミクロものづくり岡山、解析シミュレーションネット OKAYAMA 等）と連携して実施する、岡山県内に所在する企業等の、①技術力向上に資する育成プログラムの開発と実施、②技術力向上に資する講演会の開催、③技術力向上に資する技術講習会の開催、④その他学長が必要と認めた活動について、学長が行う事業計画の承認や、その実施を支援している。

#### （３）事業決定実績

令和 2 年度分については、令和 2 年 4 月 1 日（水）～4 月 8 日（水）まで募集し、申請のあった事業については査定を行い、5 月 25 日付けで次のとおり事業決定した。

| 名称 | 申請件数 | 採択件数 | 配分額合計 |
|---|---|---|---|
| 地域連携推進事業 | 14 件 | 14 件 | 2,245,000 円 |
| 企業人材育成事業 | 2 件 | 2 件 | 210,000 円 |

**①地域連携事業　事業一覧**

| 代表者 | 活動の名称 | 活動する自治体 | 活動内容 |
|---|---|---|---|
| 保健福祉学部<br>看護学科<br>教授<br>森本美智子 | 総社消防署（本部）と協働による看護学生の心肺蘇生「応急手当普及員」の育成と地域住民への心肺蘇生教育・指導活動 | 総社市 | 健康福祉 |
| 保健福祉学部<br>看護学科<br>准教授<br>實金栄 | 安心して看取りを迎えられる地域づくり事業 | その他（岡山県下すべての保健医療福祉サービス従事者および民生委員、福祉委員、ボランティアなどのケアラー） | まちづくり |

| 代表者 | 活動の名称 | 活動する自治体 | 活動内容 |
|---|---|---|---|
| 保健福祉学部<br>看護学科<br>准教授<br>名越　恵美 | ELNEC-J コアカリキュラム in 岡山県立大学<br>―質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアのために― | その他（日本緩和医療学会） | 健康福祉 |
| 保健福祉学部<br>看護学科<br>准教授<br>岡﨑　愉加 | 思春期の子育て支援 | 総社市 | 子ども |
| 保健福祉学部<br>看護学科<br>助教<br>川下　菜穂子 | 思春期ピアサポート | その他（岡山県（新見市他）） | 子ども |
| 保健福祉学部<br>栄養学科<br>准教授<br>平松　智子 | 糖尿病重症化予防 | 真庭市<br>総社市 | 健康福祉 |
| 保健福祉学部<br>保健福祉学科<br>教授<br>柏　まり | 学生が地域と協働する地域子育て支援プロジェクト | 真庭市<br>備前市<br>笠岡市<br>総社市 | 子ども |
| 保健福祉学部<br>保健福祉学科<br>准教授<br>中野　菜穂子 | 官民学連携による県大そうじゃ子育てカレッジ「親子で楽しむ音楽会―0歳からのコンサート」を通した親子への文化体験提供と保育学生の資質向上 | 総社市 | 子ども |
| 情報工学部<br>情報ｼｽﾃﾑ工学科<br>准教授<br>石井　裕 | 地域活動としてのプログラミング教室 | 総社市<br>その他（岡山市または倉敷市） | アート・食育・ICT |
| 情報工学部<br>人間情報工学科<br>教授<br>綾部　誠也 | 岡山健康応援プロジェクト | 備前市<br>総社市<br>その他（玉野市） | 健康福祉 |
| デザイン学部<br>デザイン工学科<br>教授<br>三原　鉄平 | デザインの知見を活かしたまちづくり及び木材活用支援 | 真庭市 | まちづくり |

| 代表者 | 活動の名称 | 活動する自治体 | 活動内容 |
|---|---|---|---|
| デザイン学部<br>デザイン工学科<br>准教授<br>西川　博美 | 水島臨海鉄道駅周辺空間のまちづくり | その他（倉敷市） | まちづくり |
| デザイン学部<br>造形デザイン学科<br>准教授<br>島田　清徳 | ものづくりを活用した工芸系デザイン教育と県内文化施設の連携プログラム | その他<br>（高梁市、岡山県） | アート・食育・ICT |
| デザイン学部<br>造形デザイン学科<br>教授<br>野宮　謙吾 | 笠岡市立図書館におけるシンボルマーク及びロゴタイプの整備 | 笠岡市 | まちづくり |

**②企業人材育成事業　事業一覧**

| 代表者 | 活動の名称 | 連携する団体 | 活動内容 |
|---|---|---|---|
| 保健福祉学部<br>看護学科<br>准教授<br>池田　理恵 | 地域女性起業家の活動支援 | 企業（リターンエイジングサロン香音） | 商品の快適性の確認 |
| 情報工学部<br>情報ｼｽﾃﾑ工学科<br>准教授<br>福田　忠生 | 解析シミュレーションネットOKAYAMA 技術講習会 | 地域団体<br>（解析シミュレーションネット OKAYAMA） | 技術講習会の開催 |

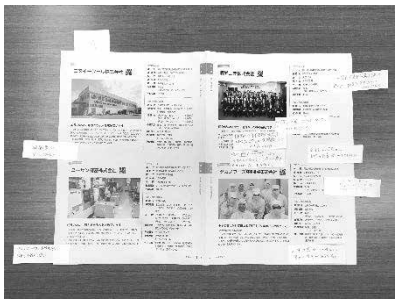
## ４．３－２　各種連携活動

本学の基本方針の1つである「戦略的な地域貢献の取組の推進」を実現するために、地域連携活動の相談や小さな地域連携活動の掘り起こしと支援等、各種連携活動を実施している。

### （１）吉備中央町ＰＲ事業に関する相談

吉備中央町定住促進課より、現行の制作物についてデザインや掲載内容の総合的な見直しを行うべく、令和 2 年度定住促進事業 PR 制作物に関する協力依頼があった。

令和 2 年度は、造形デザイン学科高橋俊臣准教授が、学生の移住促進を狙う企業ガイドと PR ツールについて学生と共に取り組んだ。来年度も引き続き PR 制作物の支援を続ける。



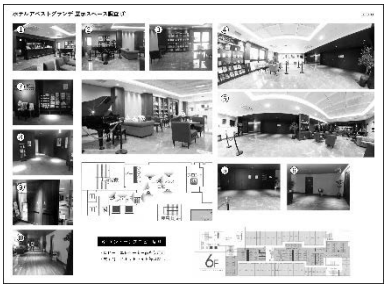
### （２）吉備信用金庫東支店の改修事業に関する相談

吉備信用金庫東支店の店舗を改修して、総社移住・創業サポートセンター（S-スタ）を開設するということで、外装や内装、学生の利用促進についてなど、デザイン工学科三原鉄平教授が相談を受けた。地域のどんな人と、どのような活用の仕方をしていくか、開設に向けて協議を続けている。

### （３）ホテルにおける館内アート展示に関する相談

ホテルアベストグランデ岡山より、ホテルを利用する多くの方に岡山の工芸やものづくりについて知っていただくという趣旨で、館内のアート展示に学生の作品を起用したいと相談を受けた。

造形デザイン学科難波久美子教授と関崎哲教授に相談のうえ企画書を提出したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で客が少なくなっていることから、今年度は企画を見送ることとなった。



### （４）笠岡市におけるごみステーションに関する相談

笠岡市内のごみステーションについて、大学教員や学生の知見によりモデルケースになるようなデザインにしたい、ということでデザイン工学科三原鉄平教授が相談を受けた。

地域に住んでいる若い人を含め、関係人口を増やし、自分事として何ができるか、という取り組みに繋げる方が、解決の糸口が見えやすいのではという提案をし、市の方で検討することとなった。

### （５）総社市デニムマスクの販売促進に関する相談

総社市保健福祉部福祉課より、総社デニムマスクの販売促進について相談があり、造形デザイン学科高橋俊臣准教授が対応し、ゼミ学生 5 名が企画を立案し実行した。

多くの方に総社デニムマスクの存在を知っていただけるよう「総社デニムマスクシティプロジェクト」として、総社市内の看板やオブジェの“口”にマスクを取り付けることで話題性を持たせ、ソーシャルネットワークサービスを活用し広範囲へプロモーションすることを試みた。また、同時期に市役所の中庭にてマスクをつけた石膏像を描く「総社デニムマスクデッサン教室」を開催。総社市内外に暮らす様々な年代や国籍の方々に参加いただいた。

引き続き令和 3 年度に向けても広報活動を予定している。

### （６）備前市子育て支援事業（コミュニティキャンパスおかやま）

備前市で例年 11 月に開催していた「子ども応援フェスタ」が新型コロナウイルスの感染拡大を受け中止となったため 11 月を「子ども応援月間」とし、市役所に子育て支援団体の活動・啓発のブースを設置することとなった。本学も子どもが工作で遊べるコーナーを設け、最終日には保健福祉学科子ども学専攻の柏まり教授の指導のもと学生がブースに立ち、親子に対応した。

### （７）真庭市子育て支援事業（コミュニティキャンパスおかやま）

真庭市での子育て支援プロジェクトとして、真庭市立中央図書館での「わくわくキッズイベント」を企画した。募集当初は対象を未就学児に絞り、親子での参加としていたが、開催時期が冬休みに入っていたため、兄妹での参加も可能とした。

保健福祉学科子ども学専攻柏まり教授のゼミ学生 3 名が会場を下見したうえで準備を進めていたが、直前に近隣で新型コロナウイルスの感染者が出たため、イベント開催を中止とした。

## ４．３－３　各種研究会活動

### （１）コミュニティ家族ケア研究会

#### ①　概要

本研究会は、多職種が連携し(IPE)、地域や学校における看護の実践および研究の発展と向上に努め、地域や学校で生活している子どもとその家族の心身の健康を支援することを目的として活動している。支援策を検討するために調査を行い、その成果を基に具体的な支援策を立案し、実施後の効果を評価している。また、研究や実践の成果を学会等で公表することにより、社会に貢献している。現在の活動メンバーは、大学や高校に勤務している助産師・看護師・養護教諭で構成されている。

今年度は、研究成果を論文にまとめて公表するための活動を中心に、助産師・看護師・養護教諭・看護学生等を対象とした研修会を開催した。

#### ②　実績

ア　研究会の開催

| | 月日・場所 | 内容 | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 6月21日(日)12:30～<br>メール/ライン会議 | 昨年度の会計報告及び今年度予算<br>論文投稿の進捗状況と今後の進め方<br>今年度の活動計画と役割分担 | 5名 |
| 第2回 | 7月30日(木)20:00～<br>Zoom開催 | 2019 年度実施の高校生への調査の月経に関する分析について<br>摂食障害一次予防パンフレットの作製について<br>2019 年度実施の高校生への調査のまとめについて<br>論文投稿の進捗状況報告 | 5名 |
| 第3回 | 9月27日(日)12:30～<br>Zoom開催 | 今年度の研修会開催について<br>論文投稿の和文抄録の検討<br>高校生への調査のまとめについての経過報告 | 4名 |
| 第4回 | 10月17日(土)10:00～<br>Zoom開催 | 今年度の研修会の内容について<br>論文投稿の準備について | 4名 |
| 第5回 | 11月7日(土)10:30～<br>Zoom開催 | 研修会プログラム案の作成<br>投稿論文の検討<br>来年度の予算申請について | 4名 |
| 第6回 | 12月26日(日)10:30～<br>Zoom開催 | 研修会プログラムの完成と役割分担について<br>高校生への調査のまとめの報告<br>摂食障害一次予防パンフレット作成の進捗状況報告 | 3名 |

| | 月日・場所 | 内容 | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 第7回 | 1月23日(土)13:00～<br>Zoom開催 | 研修会開催に向けて案内文作成や参加者の募集方法等の検討<br>論文投稿の準備<br>EAFONS 2021への応募について<br>摂食障害一次予防パンフレット作成の進捗状況報告 | 4名 |
| 第8回 | 2月23日(火)15:00～<br>Zoom開催 | 研修会の企画運営等の振り返り<br>摂食障害1次予防パンフレットに関する研究の今後について<br>EAFONS2021の抄録採択の報告<br>研究会HPの更新について | 5名 |
| 第9回 | 3月6日(土)10:00～<br>Zoom開催メール会議 | 摂食障害1次予防パンフレットの内容の検討<br>投稿論文の修正内容の検討<br>次年度の活動計画について | 4名 |
| 臨時 | 1月下旬から2月中旬<br>メール/ライン会議 | 投稿論文の作成<br>研修会の打ち合わせ、予行演習 | 4名 |

**イ 学会発表**

コロナ禍で様々な学会が開催中止・延期や開催形式の変更などを行ったため年度内の発表はできなかったが、令和3年4月15,16日にWEBにて開催のEAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars)2021にて、「THE RELATIONSHIP BETWEEN INTERNET ADDICTION AND SLEEP QUALITY IN HIGH SCHOOL STUDENTS: A CROSS-SECTIONAL STUDY」を発表予定である。

**ウ 研修会開催**

令和3年2月23日(火)13時30分～、令和2年度(第7回)研修会をWEBにて開催した。参加者は、助産師・看護師・養護教諭・看護学生等約25名であった。

内容は、倉敷中央病院産婦人科部長、中堀　隆氏による講演 「タバコ・アルコール・カフェインと妊婦」、並びに、研究会メンバーによる研究報告「タイ(チェンマイ)で行われたEAFONS2020 での研究発表報告」、活動報告「特別支援学校養護教諭へのインタビュー調査を行うに至った経緯」、「学校における新型コロナウイルス感染症対策」、「アルコール使用障害を有する女性を対象とした教材」、「性的同意を取り入れた性教育の効果と課題」である。

**③　今後の展望と課題**

次年度は、研究成果の学会誌や学術集会での公表、「月経が女子高校生の学校生活に与える影響」と「摂食障害一次予防のための健康教育教材の制作と評価」の研究継続を計画している。研修会では、WEBを有効活用して、参加者を増やすことが課題である。

## （２）岡山医療安全研究会

### ①　概要

本研究会は、研究会の開催、研究活動、会員相互の緊密な交流及び情報交換をとおして、地域の医療安全の推進に努めることを目的とした研究会である。

本年度は、エーザイ株式会社と共催し、Zoom によるオンラインにて「睡眠と医療安全」をテーマとした研究会を開催する。県内全域の医療施設から多数の参加申し込みが寄せられている。

研究会スタッフとして、倉敷・総社地域などの医療施設における医療安全管理者 5 名に企画・運営の活動に継続的に加わっていただいている。今年度は、感染リスクを鑑み、実行委員会はオンラインで開催した。

また、日本看護科学学会第 40 回学術集会において、2 演題を発表した。RCA研修会に参加した医療施設における医療安全文化の経年的変化」では、本研究会が開催したRCA研修会に参加した施設を対象に、医療安全文化の変化を調査した結果を発表した。「医療従事者の抱える医療安全活動の課題」では、これまでに開催された岡山医療安全研究会で実施したアンケートを分析し、医療安全活動における課題について発表した。

### ②　実績

| 日時・場所 | テーマ | 講師 | 内容 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 3 月 13 日（土）<br>Zoom による<br>オンライン開催 | 睡眠と医療安全～せん妄と環境の視点から～ | 井上真一郎氏<br>（岡山大学病院）<br><br>筧　淳夫氏<br>（工学院大学） | 講演およびディスカッション<br>「医療安全の観点からせん妄・不眠へのアプローチを考える」<br>講演およびディスカッション<br>「病室環境と医療安全」 | 95名 |

### ③　今後の展望と課題

次年度は、実践につなげる医療安全に関する教育・研修の在り方をテーマとしたセミナーの開催を予定している。

## （３）エンド・オブ・ライフ・ケア研究会

### ①　概要

本研究会は、エンド・オブ・ライフ・ケア（最後の日々の痛みや苦しみが充分に治療され、本人が望むとおりにすごせるように支援する）に関る基本事項を網羅的に学習して、受講者自身の看護実践能力を高め、患者・家族に質の高い緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアを提供することができることを目的としている。今年度はコロナ禍のため、WEB 開催となった。内容は、苦しむ人への援助と5つの課題とした。

### ②　実績

| | 日・場所 | テーマ | 講師 | 内容 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 7月18日(土)<br>13:30～15:00<br>Zoom開催 | わかるひとになるために思いを聞く。 | 名越恵美准教授<br>(岡山県立大学) | 1.今年度の予定<br>2.困難事例のロールプレイ | 5名 |
| 第2回 | 8月14日(金)<br>19:00～20:00<br>Zoom開催 | ファシリテータ意見交換会 | 實金栄准教授<br>(岡山県立大学) | 研修会のWEB開催に向けての意見交換と研修会報告 | 6名 |
| 第3回 | 9月26日(土)<br>13:30～15:00<br>Zoom開催 | 多職種連携で援助を言葉にする | 名越恵美准教授<br>(岡山県立大学) | 1.最期まで家で穏やかに過ごすために　～多職種での援助を言葉にする～<br>2.事例検討 | 4名 |
| 第4回 | 3月20日(土)<br>13:00～15:00<br>対面 | エンドオブライフケアに関する研究 | 松本梢・永野範子(心臓病センター榊原病院看護師)高杉佳利子(同保健師) | 1.心不全の緩和に関する研究について<br>2.次年度の計画の確認 | 9名 |

### ③　今後の展望と課題

コロナ禍での看取りの実践には、家族だけでなく困難感やジレンマが伴うことが明らかになっている。施設も病院も感染予防と最期の面会のはざまで様々な工夫がなされている。次年度は、そのような看取りの実践について、明らかにしていきたい。

## （４）介護福祉研究会

### ①　概要

介護福祉研究会は、求められる社会ニーズに対応するために介護福祉士(卒業生)が、より質の高い介護福祉士にキャリアアップしていくことを目指しており、本学を卒業した介護福祉士を対象として、相談窓口、再教育、情報発信、指導者としてのスキルアップをすることを目的としている。

本年度は、すべてオンライン(ZOOM会議システム)で行った。

### ②　実績

| | 日時・場所 | 内容 | 卒業生参加人数 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 7月25日(土)<br>13:30～16:40<br>ZOOM会議システム | 介護福祉研究会の概要と今後の活動について説明した。<br>COVID-19の各施設の対応方法についてディスカッションを行った。認知症、医療的ケア、様々な制度に対する学びなおしの希望があった。 | 9名 |
| 第2回 | 11月7日(土)<br>10:00～12:00<br>ZOOM会議システム | 本学の澤田助教より「認知症を脳科学で考える」の講義をしてもらい、実際に現場で困っている事例に対してディスカッションを行った。 | 9名 |
| 第3回 | 12月7日(月)～13日(日)<br>ケアニン～あなたでよかった<br>2月6日(土)～12日(金)<br>ケアニン～心に咲く花<br>映画ケアニンの上映<br>(オンライン) | 1回目の上映では、とても有意義だった、介護にかかわるものとして見つめなおす良い機会となった等の感想があった。<br>2回目の上映では、見てよかった、この映画で卒業生とつながっているように感じた、現場のジレンマと重なり見つめなおす機会となった等の意見があった。 | 1回<br>55名<br><br>2回<br>50名 |
| 第4回 | 2月13日(土)<br>13:00～15:00<br>ZOOM会議システム | 学生の事例研究をもとに経管栄養の在り方についてディスカッションを行った。また、経管栄養の新しい情報について情報提供を行った。栄養学科の井上助教から腸内細菌の調査について、細菌の研究の動向も併せて情報提供があった。 | 1名 |

### ③　今後の展望と課題

卒業生のニーズを明らかにし、情報提供、情報交換を行い、相談窓口、再教育、情報発信、指導者としてのスキルアップにつながるような企画運営を行う。さらに介護福祉現場での課題について実践研究に繋げられるような支援を目指す。また、介護福祉研究会の学びが研究活動または進学につながるように支援していく。来年度は対面での研究会の開催を予定している。

## （５）　看護事例研究会

### ①　概要

看護事例研究会は看護実践の質の向上を目的として、臨床の看護師が困難と感じる事例や良い看護実践ができたと考える事例について考察し、看護研究に繋げている。研究会は2か月に1回水島協同病院で開催している。また、年に1回糖尿病看護認定看護師を対

象とした研修会を開催している。

### ②　実績

今年度は、新型コロナ感染症の影響により、感染予防の観点から対面での研究会と研修会は開催していない。オンラインでの開催を検討したが、医療従事者の業務量が増加しているため、今年度は開催を見合わせた。

### ③　今後の展望と課題

来年度以降は、オンラインを中心とした研究会及び研修会の開催を予定している。

## ４．３－４　岡山県立大学子育てカレッジ

### （１）概要

子育てカレッジは、大学を核とした産・学・官・民協働による岡山県独自の子育て支援の取組である。開設 11 年目となる今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しながら、親子交流広場と授業との連携や親子交流のための企画を推進し、また専門的な学びの機会である「保育ステップアップ講座」、地域の子育て支援活動を支えるネットワーク研修会等を実施した。

### （２）実績

#### ①　子育てカレッジの実施体制

子育てカレッジは地域創造戦略センターの事業に位置づけられ、「県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会」が中心となって実施している。実行委員会は、本学教職員、地域子育て支援者、総社市、備中県民局、チュッピーひろば利用者等で構成され本年度は計3回の実行委員会を開催し事業の充実を図った。

#### ②　子育てカレッジの取組内容

1. 大学の学生が参加して実施する親子交流等
2. 保育士、幼稚園教諭、地域の子育て支援サービスの提供者に対する質的向上の取組
3. 子育てや子育て支援に関する相談の実施
4. 子育てや子育て支援に関する情報発信
5. 子育て支援に関するボランティア・NPO や企業の活動への支援
6. 地域の子育て支援関係者の情報交換
7. その他子育て関連事項の調査等

#### ③　親子交流広場の設置

親子交流広場（チュッピーひろば）を週に１回程度、年間 56日開設し、765名、476 組の親子（延べ）の利用があった。利用の内訳は総社市内：267 組、市外：209 組である。（なお、緊急事態宣言下の期間は 5 回、大学入試共通テスト前の立ち入り制限期間は、2 回開催を自粛した。来訪者には問診票の記載、手指消毒、検温、マスク着用を求め、換気や玩具等の消毒など、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮した。

#### ④　協働授業

保健福祉学部の専門職養成教育の質的充実をめざし、様々な授業科目の一部をチュッピーひろばを利用する親子やスタッフの協力を得て実施した。今年度は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、実施を見送った科目もある。また、感染拡大防止の観点から、感染防止対策を講じつつ、実施形態の変更も伴って実施した。

ア「公衆栄養学実習Ⅰ」

日　時：令和 2 年 7 月 29 日（水）

内　容：ライフステージ別演習の一環として備中県民局及び総社市の子育て支援事業の現状や支援体制への理解と母子の実態について学ぶため、子育てひろばのスタ

ッフとの交流を図った。

参加者:子育て広場スタッフ 2 名、栄養学科 3 年生 41名

担　当:保健福祉学部栄養学科　久保田恵

**イ「体育Ⅱ(運動遊び)」**

日　時:令和 2 年 11 月 18 日(水)

名　称:チュッピーひろばでからだわくわく遊び

内　容:室内プレイパークを作り、親子に対して運動的な遊びの援助を行った。

参加者:親子 8 組×2 回、子ども学専攻 3 年生 20 名

担　当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻　新山順子

**ウ「公衆栄養学実習Ⅱ」**

日　時:令和 2 年 12 月 1 日(火)

内　容:地域における母子支援事業への理解と母子の実態について学ぶとともに、学生が作成したレシピを用いて、子育てひろばのスタッフや参加している母親及びその子どもとの交流を図った。

参加者:親子 10 組、栄養学科 3 年生 3 名

担　当:保健福祉学部栄養学科　久保田恵

**エ「保育内容Ⅰ(人間関係)」**

日　時:令和 2 年 12 月 8 日(火)

名　称:親子で楽しむミニミニクリスマス

内　容:親子がクリスマスの雰囲気を楽しめるようなワークショップと、学生によるパネルシアターや合奏などの出し物を企画し実践した。コロナ禍のため感染症予防対策として、定員を設け、開催時間・内容も例年より変更して実施した。

参加者:午前の部参加者:親子 12 組(大人 12 人、子ども 15 人)、子ども学専攻 1 年生 20 人、4 年生 3 人

午後の部参加者:親子 8 組(大人 8 人、子ども 11 人)、子ども学専攻 1 年生 20 人、4 年生 3 名

担　当:保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻　京林由季子

**オ「保育・教職実践演習」**

日　時:令和 2 年 12 月 23 日(水)

名　称:チュッピーシアター

内　容:前期の授業で制作したペープサートを活用して、ペープサート劇を行い、地域の親子に鑑賞していただいた。

参加者:親子 10 組×2 回(午前・午後) 子ども学専攻4年生 20 名

担　当:保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻　新山順子

### ⑤　スヌーズレン歌声広場

歌や楽器演奏とスヌーズレン（光・音・振動を活用したリラクゼーション）を通して、親子の日常を豊かにする情報発信を行った。オンライン開催も取り入れるなど、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた。

日　程：令和 2 年 9 月 13 日（日）
名　称：アンサンブル総社と遊ぼう！
参加者：16 組（大人 17 名　子ども 24 名）

日　程：令和 2 年 12 月 20 日（日）
名　称：スヌーズレン：クリスマス会（ZOOM によるオンライン開催）
参加者：27 名（大人 6 名　子ども 21 名）

日　程：令和 2 年 3 月 7 日（日）
名　称：アンサンブル総社と遊ぼう！（予定）

### ⑥　保育ステップアップ講座

子育てカレッジの取組内容 2 として、保育士、幼稚園教諭、その他の子育て支援者に対し、今日的なテーマや課題、現場の保育に直結する実践的な講座を開催した。コロナ禍での開催のため、対面とオンライン（リアルタイム）との併用、オンデマンド型での開催と、多様な開催方法を試みた。

ア　令和 3 年度保育ステップアップ講座 A

日　時：令和 3 年 1 月 28 日（木）12:40～13:50
場　所：岡山県立大学　8206 室
テーマ：ロケットくれよん☆あそびうたセミナー
講　師：ロケットくれよん（山口たかし・高田さとし）氏
参加者：一般 6 名・子ども学専攻学生 50 名・本学教員 2 名（対面参加者 35 名、オンライン参加者 22 名）
担　当：京林由季子・新山順子

イ　令和 3 年度保育ステップアップ講座 B

日　時：令和 3 年 1 月 24 日（日）13:00～14:20 ⇒「親子で楽しむ音楽会」ライブ配信延期に伴いオンデマンド型での開催に変更
場　所：岡山県立大学　8901 室
テーマ：「コロナ禍における ICT を導入した保育・子育て支援活動の可能性
～オンラインによる親子で楽しむ音楽会の取り組みを通して一」
講　師：福光節子　氏
参加者：一般 2 名・子ども学専攻学生 20 名・本学教員 4 名
担　当：京林由季子・中野菜穂子・樟本千里・安久津太一

### ⑦　総社市委託：親子支援及び子育て支援者研修事業

総社市から委託を受け、親子支援および子育て支援者研修事業として下記の事業を実施した。

#### ア　NP（ノーバディーズパーフェクト）プログラム

日　時：令和 2 年 9 月 24 日（木）、10 月 1 日（木）、10 月 8 日（木）、10 月 15 日（木）、10 月 22 日（木）、10 月 29 日（木）、令和 3 年 3 月 1 日（月）

場　所：岡山県立大学　講堂内会議室

参加者：5～6 名（延べ 33 名）、託児数：5～7 名（延べ 38 名）

内　容：「子どもの気になる行動を考える」「自分と子どもの一日の過ごし方を振り返る」「子育ての協力者とのかかわりを考える」等のテーマのもと、ファシリテーターの進行により保護者同士の交流と意見交換を行った。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を従来の半数として実施した。

#### イ　親子で楽しむ音楽会　～0歳児からのコンサート～

日　時：令和 3 年 2 月 13 日（土）11:00～12:00 および 14 日（日）　11:00～12:00　2 回のオンライン配信

主　催：県大そうじゃ子育てカレッジ、公益財団法人岡山シンフォニーホール

出　演：岡山フィルハーモニック管弦楽団、保健福祉学科子ども学専攻学生

内　容：乳幼児期の子育て期にある親子に、音楽および歌を通じた親子交流の大切さを伝えることを目的に岡山フィルハーモニック管弦楽団の協力を得て、親子で楽しむクラシックコンサートを開催した。今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、無観客配信でのオンライン開催となった。岡山フィルハーモニック管弦楽団による演奏と保健福祉学科子ども学専攻学生による手遊びや曲目紹介を別々な場所で撮影、組み合わせての動画配信となった。コロナ渦の実施となったこともあり、学生たちはオーケストラと一度も対面せずに本番に臨むことになり、すべてメールのやり取りによる調整となった。また直前まで撮影場所や曲順の変更を余儀なくされた。不確実な状況にも見事に対処し、無事配信を終了することができた。

視聴数：約 150

#### ウ　総社市子育て支援ネットワーク研修会

日　時：令和 3 年 2 月 2 日（火）　13:30～15:00

場　所：総社市総合福祉センター2 階　技能習得室

テーマ：「子育て中の親に伝えたいこと」

対　象：総社市を中心として活動する子育て支援拠点スタッフ他

講　師：総社市教育庁生涯学習課　床真一郎

内　容：3 人×5 グループで具体的なエピソードも交えながら話し合うことができ、子育て支援者間のかかわりの必要性を再確認したという感想が多く寄せられた。

参加者：15 名

**⑧　備中県民局関連事業**

備中子育てカレッジネットワーク会議

日　時:令和 2 年 12 月 26 日(土)　13:30～15:45

場　所:備中県民局第 2 庁舎

出　席:保健福祉学科　准教授　中野　菜穂子

内　容:備中県民局管内の子育てカレッジの活動活性化を図るとともに、今後の連携協働のきっかけづくりとする。

各カレッジ関係者による子育て支援活動の情報および意見交換

**⑨　視察等**

総社高校 PTA

日　時:令和 2 年 10 月 6 日(火)

人　数:保護者 22 名

**（３）評価と来年度の課題**

県大・そうじゃ子育てカレッジは、開設 11 年目を迎えた。開設来、産・学・官・民の協働による取り組みを重ねることにより定着し安定的な評価を得ている。このことが、新型コロナウイルス感染拡大の状況下にあっても実施可能な事業の模索と推進の原動力となったといえよう。

大学構内に開設した「チュッピーひろば」は、「親子への支援」と「学生の学びと実践」の両面による有効な取り組みであり、毎回 10 組以上の親子の利用がある。今年度は、利用者の体調チェック、手指や玩具の消毒、マスク着用、換気の徹底など新型コロナウイルス感染拡大防止に十分に配慮して開催することで、外出や人との交流が困難になるコロナ禍において子育て親子の孤立を防止する場として機能した。

また、コロナ禍における事業実施にあたり、実施方法を柔軟に工夫し、先例となることができた。乳幼児対象の希少な音楽会として毎回盛況である「親子で楽しむ音楽会～0歳児からのコンサート～」はオンデマンド配信による実施とすることで、本学 YouTube チャンネルを活用した広範な地域貢献となった。「保育ステップアップ講座」では、保育現場に直結したテーマによる研修を、対面、オンライン、オンデマンドというあらゆる手法を活用し開催した。そのほかの事業においても、オンラインの活用や定員を設けるなど、コロナ禍にあっても実施可能な形態により実施した。

なお、備中子育てカレッジネットワーク会議では他大学との意見交換が活発になされた。各地域の特性や既存資源の状況に合わせた活動の展開についての情報交換は有益であり、学生が子育て支援事業に参画することによる専門職養成教育の効果向上の可能性について共有することができた。

来年度も、これまでに培われた協働による地域貢献と学生の学びの「場」創造の実績を踏まえ、学生の更なる参加と産・官・学・民連携を一層推進したい。新型コロナウイルス感染防止対策が引き続き必要となるが、十全な感染防止対策の実施により、安心・安全な事業推進とすることで、地域からの信頼向上につなげてゆきたい。

## ４．４　社会連携教育推進部門

### ４．４－１　副専攻「岡山創生学」の推進

今年度は改定されたカリキュラムへ移行した初年度であり、旧カリキュラムと新カリキュラムが同時進行する中、改善を重ねながら新カリキュラムの「岡山創生学」を推進した。

#### （１）概要

副専攻「岡山創生学」の授業科目は、共通教育科目に加え、各学部の学部教育科目で構成されており、現在、共通教育科目の社会連携カテゴリーに配置されている全ての授業科目が、副専攻を構成する科目になっている。副専攻「岡山創生学」では、学びの中で地域の魅力に触れ、コミュニケーションや協働の中で地域課題を認識し、ともにその解決までのプロセスを体験することで地域への愛着の形成や共感力を高め、それを基盤として専門性を存分に発揮して地域の持続的発展のために貢献することができ、社会の変化に対して高い適応能力をもつ人材を育てるものである。このような人材になるために修得すべき能力を次のように設定している。

(1) 地域「おかやま」の実態を体験的に学び、「おかやま」の魅力を発信する力
(2) 実践的学習の中からアクション・ラーニングのプロセスを通じて課題を認識する力
(3) 地域で人とコミュニケーションを取りながら協働して課題解決に取り組む力
(4) 学部・学科の専門性を活かし、自律的に課題解決法を考える応用力
(5) 持続可能な地域「おかやま」の未来を展望し、一市民としてまた専門家として社会に参画する力

#### （２）教育プログラムの推進

副専攻「岡山創生学」は、「社会連携要論」と「地域資源論」が1年次の必修であり、学生の主体的な学びを促すためアクティブ・ラーニングを取り入れ、毎回授業の内容に関する簡単なレポートの提出を求めた。それぞれ370名以上が履修し、主担当は地域創造戦略センター所属の准教授と保健福祉学部所属の准教授（兼任）であった。今年度は共通教育部の講義科目が全てオンラインで実施され、これら 2 科目もオンライン（オンデマンド方式）での実施となったため、講義内容や進行方法を新規に検討し、学習効果をあげられるよう検討を繰り返した。

また、選択の演習科目「地域創生演習」と旧カリキュラムの「地域協働演習」、「地域インターンシップ」においては、年度当初には中止も視野に入れた検討を進めていたが、全国的な緊急事態宣言の解除に伴い、受け入れ団体とも綿密な調整をしながら、オンラインでの指導も併用することで実施に踏み切った。事前学習に十分な時間を確保できたとは言い難いが、受け入れ団体のご協力もあり、すべての演習を実施できた。科目主担当教員以外にも保健福祉学部所属の教員（兼任）が、それぞれ地区別に分かれた学生の指導にあたった。

表　令和 2 年度社会連携カテゴリー科目指導にあたった教員一覧
（○は主担当）

| | |
|---|---|
| 地域資源論<br>(372 名履修) | ○渡邉淳司准教授、髙戸仁郎教授、小畑千晴准教授 |
| 社会連携要論<br>(377 名履修) | ○岩満賢次准教授、髙戸仁郎教授、渡邉淳司准教授 |
| 地域創生演習<br>(55 名履修) | ○岩満賢次准教授、髙戸仁郎教授、渡邉淳司准教授 |
| 地域再生実践論<br>(104 名) | ○渡邉淳司准教授、髙戸仁郎教授、小畑千晴准教授 |
| 地域協働演習<br>(51 名履修) | ○渡邉淳司准教授、小畑千晴准教授，髙戸仁郎教授、岩満賢次准教授 |
| 地域インターンシップ<br>(16 名履修) | ○　渡邉淳司准教授、髙戸仁郎教授、小畑千晴准教授 |

これら以外にも、社会連携カテゴリーでは企業の経営者による講義（企業の組織と活動）や、地方自治体職員による講義（地方自治論）など、各界のトップランナーが講師を担当することで、地域で活躍するために必要な地域の理解と、他者との協働性に関する理解を深める科目群となっている。

平成 28 年度に始まった副専攻「岡山創生学」は文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC＋)」採択を受けて、本学が代表校となって取り組む教育改革の一環で開設された。この事業は昨年度で終了し、今年度からは教育効果を担保し、かつ持続性も考慮した新カリキュラムがスタートした。新カリキュラムの推進にあたり、センター所属の専任教員に加え、コーディネーター2 名（域学・産学、ボランティア活動兼務）が従事する態勢を構築した。

## ４．４－２　副専攻「岡山創生学」のカリキュラム改革

社会連携要論

「おかやまボランティア論」の後継科目として、重点内容をボランティア活動から地域創生、社会連携へ移した。社会人基礎力、地域における大学の役割、大学生に求められるもの、サービス・ラーニングの重要性を含む内容とし、学部・学科を越えたメンバーによるグループワークやアクティブ・ラーニングを取り入れる計画であったが、オンライン授業における通信容量の制限によりグループワークは見送られた。

地域創生演習

「おかやまボランティア演習」および「地域協働演習」の内容を集約し、事前学習、受入先での体験活動、事後学習により構成される 2 単位科目である。特に、今年度は演習期間中のフォローアップ方法への課題が明らかとなり、次年度に向けてサポート教員の配置を含めた対策も検討を進めている。

地域資源論

「おかやまを学ぶ」の後継科目として、岡山県の地域資源（自然環境、歴史、社会、産業、

文化、教育、観光など)を題材として、地域資源に関する基礎的な知識や、地域資源を活用した地域づくりの事例を学び、地域創生の可能性を探る内容である。本科目も前述の制約によりグループワークは見送られた。

地域再生実践論

1年次における「社会連携要論」、「地域資源論」での学びを踏まえ、地域創生、地域活性化に向けて活動する NPO、民間企業、自治体が、どのような課題に対して、解決に向けてどのような活動を実践しているかを「ひと」、「もの」、「こと」、「情報」などの視点から系統的に学習し、次のステップに向けた地域資源を活用した提案を、実践者と共に考える。また、社会や地域は、異なる文化や環境に根付いた多種多様なコミュニティで構成されており、自らもコミュニティの一員であることを自覚させる。来年度からは地域創生実践論に名称を変更し、PBL (Problem Based Learning)を取り入れ、より実践的な内容に移行する予定である。

地域インターンシップ

自治体での職場体験活動を通して、仕事や組織の仕組み、仕事の流れ、職場における人間関係などの理解を深めるもので、学部教育における長期のインターンシップ、実習、演習と時期が重複するのを解消することで、専門教育への接続がよりスムースになるように、次年度からは2年次に開講される。また、これまでの職場体験に終始していたインターンシップと差別化する課題解決型のインターンシッププログラムについても、受け入れ自治体、NPO 等と協議を進め、順次導入することを検討している。

### ４．４－３　地域創生推進士

地域「おかやま」への深い理解と熱い情熱を持ち、地域「おかやま」の創生に貢献したいという強い意思を持った学生に平成 30 年度から授与している称号であり、認定を受けるために先述の副専攻「岡山創生学」の必要単位を取得し、さらに公開イベント等において発表を行うことを認定の要件としている。これらの学修を通じて地域創生推進士は次のような資質を備え、地域での活躍が期待されている。

＜地域創生推進士の資質＞

地域貢献に関する深い理解と実践力

社会に出て活躍できる社会人基礎力

地域を活性化するエネルギッシュな情熱と活力

今年度は令和 3 年 3 月 15 日に認定証の授与式を実施し、17 名の地域創生推進士三期生(保健福祉学部 4 名、情報工学部 12 名、デザイン学部 1 名)が誕生した。授与式後のアンケート(回収数 16)から、副専攻「岡山創生学」を受講したことによって、課題解決に向けて、様々な人とコミュニケーションを取りながら協働することの重要性を認識し、共に活動する力が十分高められたと回答した割合が 81.3%(受講前と変わらない、少し高められた、高められた、十分高められた、の四件法、以下同じ)、地域社会にさまざまな問題が潜んでいる事について視野を拡げることが十分できたと回答した割合が 87.5%、地域社会の身近な問題に対し、課題解決法を自ら考えたり、支援しようという意識が十分高められた割合も 87.5%であった。県内地域における課題解決に向けたさまざまな取り組みについて、知識を得たりその意義について理解を深めることができたかという問いに対しては、十分できたと回答した割合が 75.0%にとどまった。また、これらの力や意識について今後も高めていきたいと思うかとの問いに対し、

地域社会にさまざまな問題が潜んでいる事について視野を拡げる力と、課題解決に向けて、様々な人とコミュニケーションを取りながら協働することの重要性を認識し、共に活動する力について 87.5%がとても思うと回答し(思わない、少し思う、とても思う、の三件法、以下同じ)、地域社会の身近な問題に対し、課題解決法を自ら考えたり、支援しようという意識については 68.8%がとても思うと回答した。3 年間の副専攻「岡山創生学」の履修を通して、地域課題の解決に向けて様々な人々とコミュニケーションをとりながら協働することの重要性を認識し、実際に活動する力も高められたと成果について一定の評価をする一方で、実際の地域課題の複雑さ、課題解決への困難さを認識できたことにより、これらの力を将来に向けて更に高めたいという前向きな姿勢へと反映されているのではないかと考えられる。

## ４．５　ボランティア部門

### ４．５－１　ボランティア活動支援体制

地域創造戦略センターボランティア部門は、令和 2 年度の地域創造戦略センター設立と同時に同センター内に位置づけられた。学生ボランティア活動の支援については、キャリア・学生生活支援センター「正課外・ボランティア活動支援部門」が学生ボランティア活動の一体的支援の方策を検討してきた。令和 2 年度においては、それらの機能を地域創造戦略センターボランティア部門へ引き継ぐ形となった。

令和 2 年度には、部門を運営するにあたり、ボランティア部門会議を 3 回開催し、ボランティア活動支援体制を検討した。

### ４．５－２　学生のボランティア組織

学内には、社会貢献を行う学生団体（学生支援班所管の部活・サークルを含む）が多数あるが、ここでは、学生支援班所管の部活・サークル以外のものとして、消防応援隊（岡山県消防保安課による岡山県大学生消防応援隊育成・支援事業）を掲載する。

消防応援隊は今年度 3 名の学生が申込し、活動を行った。例年では年度当初に募集を行うが、本年度はコロナ禍で募集及び申込が遅れたため、令和 2 年 9 月 30 日（水）9:30～10:30 に認定式を行い、活動を開始した。令和 2 年 11 月 15 日（日）には、ファジアーノ岡山と連携した消防団応援イベント（9:00～13:30、場所：シティライトスタジアム前広場）に 1 名が参加した。

令和 2 年 12 月 2 日（水）には、自衛消防団員及び消防署員指導のもと、岡山県立大学学内の防火・防災訓練へ 3 名が参加した（12:30～14:00、場所：岡山県立大学、講堂前広場及び学生会館北広場）。

消防応援隊認定式

### ４．５－３　活動状況

ボランティア部門の活動として、学生へのボランティア活動の情報提供を行った。外部から依頼のあった 19 件を学生向け掲示板「はっとりん」へ掲載し、個人延べ 23 件、団体 1 件の申し込みがあった。また、新型コロナウイルス感染症禍のもとで、外部からのボランティア活動募集を受け入れるために、「岡山県立大学ボランティア募集依頼申請書」の様式並びに新しい生活様式チェックリストを作成した。その他、学生の自主的な活動の促進を試みた。

また、学生のボランティア活動を促すために、大学生災害ボランティア研修会を開催した。令和 3 年 2 月 10 日（水）10:00～11:00 に、岡山県危機管理課職員の有芳公吾さんによる「災害ボランティア入門編（地域で取り組む防災対策）」とした研修会を行った。オンライン会議システムを用いて開催し学生 7 名が参加した。

## ５．　外部資金獲得実績と今後の課題

### ５．１　令和２年度の実績

### ５．２　科学研究費

### ５．３　今後の課題

## ５．　外部資金獲得実績と今後の課題

### ５．１　令和２年度の実績

本学の外部資金は、科学研究費、共同研究費、受託研究費、教育研究奨励寄附金等の 4 つに分類される。平成 19 年度から令和 2 年度までの合計獲得実績は、図 1 と表 1 のとおりで、令和 2 年度は、前年度と比較して獲得件数は減少したが、獲得金額はほぼ一緒だった。

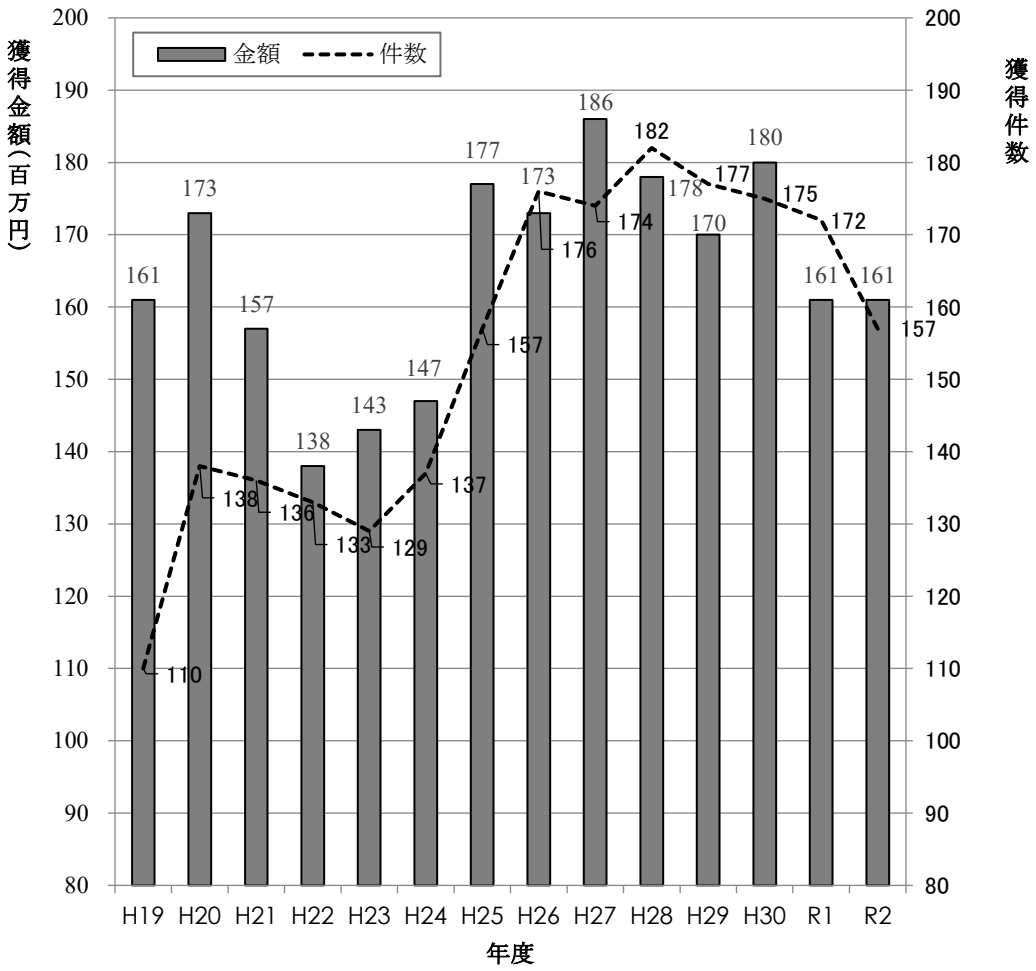



図 1　外部資金獲得実績の推移

表 1　外部資金獲得実績の推移（金額の単位は百万円、それ未満は四捨五入）

| 年　度 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件　数 | 110 | 138 | 136 | 133 | 129 | 137 | 157 | 176 | 174 | 182 | 177 | 175 | 171 | 157 |
| 金　額 | 161 | 173 | 157 | 138 | 143 | 147 | 177 | 173 | 186 | 178 | 170 | 180 | 161 | 161 |

外部資金の種類別のデータは表 2 のとおりである。

表 2 外部資金獲得実績（金額の単位は千円で、千円未満切捨）

| 年 度 | 科学研究費 | | 共同研究 | | 受託研究 | | 教育研究奨励寄附金等 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 |
| H19 | 34 | 73,725 | 23 | 11,575 | 21 | 61,499 | 32 | 13,782 | 110 | 160,581 |
| H20 | 39 | 84,503 | 31 | 12,100 | 38 | 62,248 | 30 | 14,636 | 138 | 173,487 |
| H21 | 35 | 67,376 | 31 | 12,125 | 45 | 67,397 | 25 | 9,639 | 136 | 156,537 |
| H22 | 42 | 70,110 | 33 | 13,490 | 26 | 39,027 | 32 | 15,427 | 133 | 138,054 |
| H23 | 47 | 73,177 | 24 | 8,338 | 26 | 40,633 | 32 | 20,873 | 129 | 143,021 |
| H24 | 51 | 84,727 | 32 | 10,288 | 26 | 35,514 | 28 | 16,012 | 137 | 146,541 |
| H25 | 57 | 87,100 | 38 | 20,928 | 23 | 43,923 | 39 | 25,453 | 157 | 177,404 |
| H26 | 55 | 90,381 | 42 | 24,536 | 29 | 32,592 | 50 | 25,787 | 176 | 173,296 |
| H27 | 57 | 82,917 | 46 | 31,649 | 27 | 52,959 | 44 | 18,153 | 174 | 185,678 |
| H28 | 67 | 89,440 | 48 | 21,000 | 18 | 45,926 | 49 | 21,716 | 182 | 178,082 |
| H29 | 55 | 78,151 | 46 | 24,366 | 24 | 38,781 | 52 | 29,632 | 177 | 170,930 |
| H30 | 64 | 90,675 | 43 | 17,872 | 20 | 48,678 | 48 | 22,639 | 175 | 179,864 |
| R1 | 61 | 78,130 | 50 | 24,301 | 16 | 40,049 | 44 | 18,270 | 171 | 160,750 |
| **R2** | **67** | **90,661** | **45** | **15,345** | **11** | **32,271** | **34** | **22,388** | **157** | **160,665** |

表 2 中で網掛けの部分が過去最高の件数と金額であるが、今年度の科学研究費の件数は、平成 28 年度の過去最高の件数と同数だった。第 3 期中期計画、令和 2 年度計画及び獲得実績の一覧は表 3 のとおりである。令和 2 年度計画と獲得実績を比べると、件数、金額ともに目標を下回った。また、科学研究費については、目標を大きく上回る結果となった。

表 3 中期計画及び年度計画の目標と今年度の実績（金額の単位は千円）

| 種別 | 中期計画 | | R2 年度計画 | | R2 年度実績 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金等 | 130 | 100, 000 | 115 | 80,000 | 90 | 70, 004 |

| 種別 | 中期計画 | R2 年度計画 | R2 年度実績 |
|---|---|---|---|
| | 金額 | 金額 | 金額 |
| 科学研究費 | 85,000 以上 | 80,000 以上 | 90, 661 |

## ５．２　科学研究費

科学研究費は獲得件数、獲得金額の推移は図２のとおりであり、令和２年度は、前年度と比較すると、獲得件数、獲得金額ともに増加した。

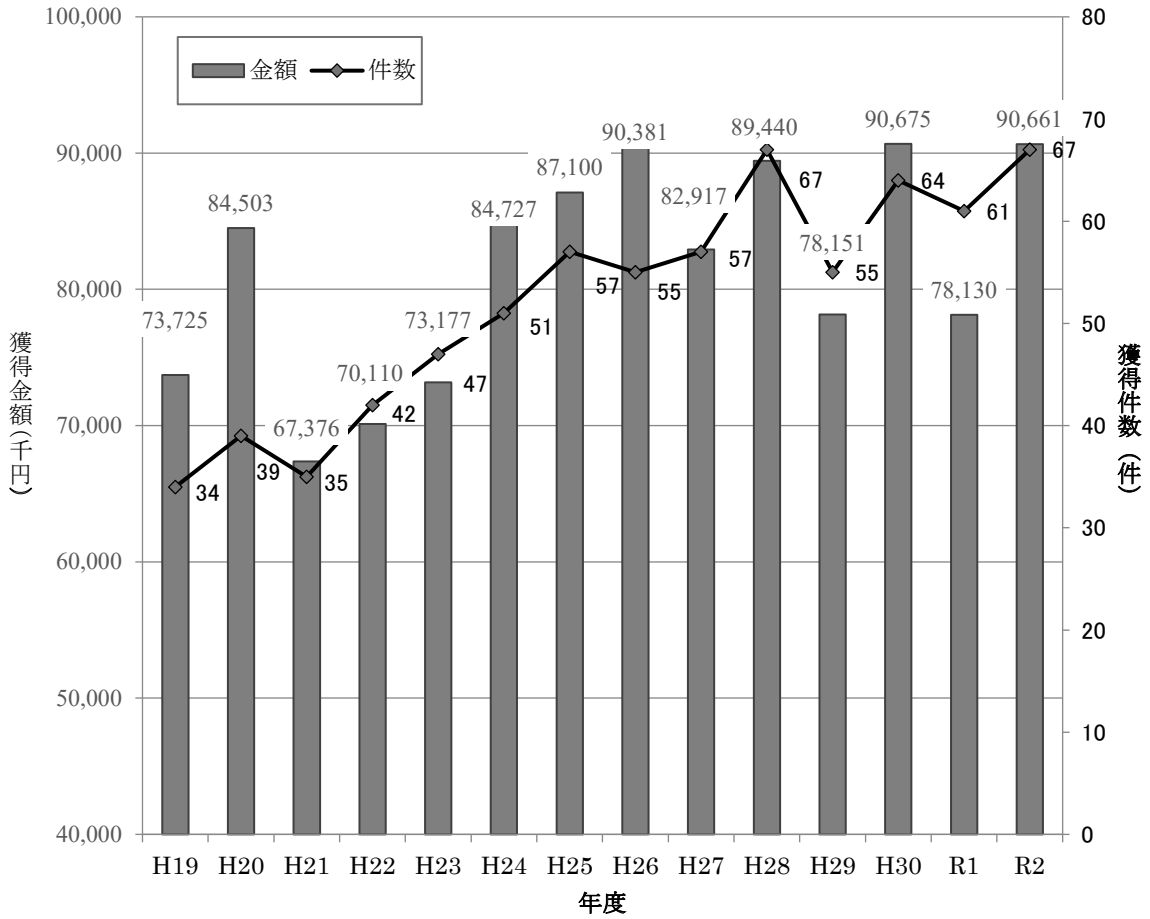



図２　科学研究費の獲得推移

## ５．３　今後の課題

これまで述べたとおり、前年度と比較すると令和２年度の共同研究、受託研究及び教育奨励寄附金の獲得件数、獲得金額はともに減少した。また、科学研究費の獲得件数は、平成 28 年度の過去最高の件数と同数だった。あわせて、獲得金額についても平成 30 年度の過去最高獲得金額とほぼ同額だった。

今後、運営費交付金等の削減に伴う研究資金不足により研究の質を低下させないためにも、外部資金及び競争的資金の獲得をさらに進めるための環境づくり・組織づくりを継続していく必要がある。

巻末資料

３．２－３　各種委員の応嘱（行政関係）

講師派遣（行政関係）

３．５－１　各種委員の応嘱（行政関係以外）

講師派遣（行政関係以外）

非常勤医師（行政関係以外）

非常勤講師・役員（行政関係以外）

## ３．２－３　各種委員の応嘱（行政関係）

**保健福祉学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 池田　隆英 | 岡山県･岡山市教育委員会 | 岡山県･岡山市教員等育成協議会委員 |
| 池田　理恵 | 総社市 | 総社市妊婦支援検討会議スーパーバイザー |
| 伊東　秀之 | 岡山県 | 岡山県環境審議会委員 |
| | | 岡山県農林水産総合センター生物科学研究所外部評価委員会委員 |
| 井上　幸子 | 岡山市教育委員会 | 岡山市問題行動等対策委員会委員 |
| | 総社市 | 総社市障害支援区分認定審査会委員 |
| 井上　祐介 | 岡山県保健福祉部長寿社会課 | 岡山県介護予防効果測定事業評価者 |
| 井上　里加子 | 文部科学省　科学技術･学術政策研究所 | 科学技術専門家ネットワーク専門調査員 |
| 岩満　賢次 | 総社市 | 総社市国民健康保険運営協議会副委員長 |
| 大倉　高志 | 総社市 | 総社市障害者施策推進協議会委員 |
| 沖本　克子 | 岡山県 | 岡山県医療費適正化推進協議会委員 |
| 小畑　千晴 | 徳島県人権問題講師団 | 人権に関する講演 |
| 柏　まり | 岡山県 | 岡山県備中県民局協働事業審査委員会委員 |
| 川上　祐生 | 岡山県 | 岡山県農林水産総合センター農業研究所外部評価委員会委員 |
| | 総社市 | 総社市新農業会議委員 |
| 京林　由季子 | 総社市 | 総社市人権教育推進協議会会員 |
| 久保田　恵 | 岡山県 | 岡山県食の安全･食育推進協議会委員 |
| | 岡山市教育委員会 | 岡山市学校給食運営検討委員会委員 |
| 近藤　理恵 | 岡山県 | 岡山県公益認定等委員会委員 |
| | | 岡山県人権政策審議会副委員長 |
| | | 岡山県保健福祉学会理事 |
| | | 県民生活部指定管理者候補選定委員会委員長 |
| | 笠岡市 | 笠岡市子ども･子育て推進会議委員長 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
| --- | --- | --- |
| 近藤　理恵 | 総社市 | 全国屈指福祉会議 |
| | | 総社市庁舎建設市民ワークショップ委員 |
| | | 総社市特別職報酬等審議会委員 |
| | | 総社市総合計画審議会副委員長 |
| | | 総社市子ども･子育て会議委員長 |
| 坂野　純子 | 岡山県 | 岡山県職業能力開発審議会委員 |
| | 総社市 | 総社市男女共同参画推進審議会委員 |
| 佐々木　純子 | 岡山県 | 岡山県建築審査会委員（公衆衛生分野） |
| | 総社市 | 総社市介護認定審査会委員 |
| 佐藤　ゆかり | 浅口市 | 浅口市介護認定審査会委員 |
| 周防　美智子 | 岡山県危機管理課 | 岡山県国民保護協議会委員 |
| | 岡山県 | 「顔が見える子どもの人権サポーター事業」に係る子どもの人権サポーター |
| | 岡山県教育委員会 | 「スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業」におけるスーパーバイザー |
| | 総社市 | 総社市都市計画審議会委員 |
| | 高梁市教育委員会 | 高梁市いじめ問題対策専門委員会委員 |
| | 滋賀県 | 滋賀県いじめ再調査委員会委員 |
| | 滋賀県草津市 | 草津市青少年問題協議会委員 |
| | 滋賀県守山市 | 守山市いじめ問題第三者委員会調査委員会委員 |
| | 兵庫県神戸市 | 「神戸市生徒指導のあり方検討会」委員 |
| | 奈良県生駒郡三郷町 | 三郷町障害者施策推進協議会委員 |
| | | 三郷町介護保険運営協議会委員長 |
| 住吉　和子 | 岡山市 | 岡山市国民保護協議会委員 |
| | | 岡山市防災会議委員 |
| 髙戸　仁郎 | 岡山県 | 岡山地区福祉有償運送運営協議会会長 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
| --- | --- | --- |
| 髙戸　仁郎 | 岡山県 | 倉敷・井笠地区福祉有償運送運営協議会会長 |
| | | 備前市・赤磐市・和気郡和気町福祉有償運送運営協議会委員及び会長 |
| | 岡山県福祉相談センター | 福祉用具展示・体験コーナー運営委員会委員長 |
| | 岡山市 | 岡山市スポーツ推進審議会委員 |
| | 浅口市 | 浅口市障害者計画等策定委員会委員 |
| | | 浅口市障害支援区分認定審査会委員 |
| 高橋　徹 | 岡山県 | 岡山県公衆浴場入浴料金審議会委員 |
| 竹本　与志人 | 岡山市、(一社)はるそら | 岡山市協働のまちづくり推進事業<br>認知症援助業務・支援内容のニーズ調査とモデル事業の技術指導、意見聴取及び倫理審査 |
| | 早島町 | 認知症初期集中支援チーム検討委員会副委員長 |
| 田淵　真愉美 | 総社市 | 学校給食センター運営審議会委員 |
| 中野　菜穂子 | 岡山県 | 岡山県社会福祉審議会委員 |
| | 岡山県教育委員会 | おかやま子ども応援推進委員会委員及び専門部会委員 |
| | 岡山県備中県民局 | 備中子育てカレッジネットワーク会議 |
| 中村　光 | 岡山県 | 岡山県介護保険審査会委員 |
| 村社　卓 | 岡山県保健福祉部 | 岡山県介護保険審査会会長代理 |
| | | 岡山県介護保険制度推進委員会部会長 |
| | | 岡山県障害者施策推進審議会会長 |
| | | 岡山県自立支援協議会会長 |
| | | 岡山県障害者差別解消支援地域協議会会長 |
| | | 岡山県発達障害者支援地域協議会委員長 |
| | | 岡山県特別支援連絡協議会委員長 |
| | | 岡山県災害弔慰金等支給審査会会長 |
| | | 岡山県保健福祉部指定管理者候補選定委員会委員長 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 森永　裕美子 | 岡山県 | 岡山県都市計画審議会委員 |
| | | 岡山県建築審査会委員（公衆衛生分野） |
| | | 岡山県自然環境保全審議会委員 |
| | 香川県高松市 | 「高松市コンパクト・エコシティ推進懇談会」委員 |
| 山下　広美 | 岡山県 | 岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議委員 |
| 山本　登志子 | 岡山県農林水産総合センター | 外部知見活用型・産学官連携研究事業に係る評価委員 |
| 樂木　章子 | 総社市 | 日本語教育事業運営委員会委員 |

**情報工学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 有本　和民 | 国立研究開発法人科学技術振興機構 | 戦略的創造研究推進事業における追跡評価委員会委員長 |
| 伊藤　照明 | 岡山県 | おかやまIoT推進ラボ協議会委員 |
| 稲井　寛 | 岡山県 | 岡山県高度情報化推進協議会幹事 |
| | | 岡山県本人確認情報保護審議会委員 |
| | | 「岡山県救急医療情報システムに関する役務提供事業」業者選定特別委員 |
| 尾﨑　公一 | 岡山県 | 岡山県大規模小売店舗立地審査会 |
| | 岡山県工業技術センター | 岡山県工業技術センター外部評価委員会委員 |
| 齋藤　誠二 | 内閣府政策統括官 | 「心の輪を広げる障害者理解促進事業（心の輪を広げる体験作文及び障害者週間のポスター）」審査委員 |
| 佐藤　洋一郎 | 岡山県 | 岡山県高度情報化推進協議会幹事 |
| | | 「岡山県救急医療情報システムに関する役務提供事業」業者選定特別委員 |
| | 備前市 | 備前市行政評価市民委員会委員 |
| 末岡　浩治 | 総社市 | 総社市総合計画審議会委員 |
| | 備前市 | 楷の木賞選考委員会委員 |
| 滝本　裕則 | 文部科学省　科学技術・学術政策研究所 | 科学技術専門家ネットワーク・専門調査員 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 但馬　康宏 | (独)日本学生支援機構 | 官民協働海外留学支援制度選考委員会専門選考委員 |
| 妻屋　彰 | 真庭市 | 真庭市情報化計画策定・推進委員会委員長 |
| | (独)製品評価技術基盤機構 | 事故原因技術解析ワーキンググループ委員 |
| 渡邉　淳司 | 内閣府経済社会総合研究所 | 内閣府経済社会総合研究所研究協力者 |
| 渡辺　富夫 | (独)日本学生支援機構 | 官民協働海外留学支援制度選考委員会委員 |

**デザイン学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 嘉数　彰彦 | 岡山県 | 景観アドバイザー |
| | | 岡山県環境審議会委員 |
| | | 第 74 回全国植樹祭岡山県実行委員会の式典等専門委員会委員 |
| | 瀬戸内市 | 瀬戸内市景観審議会委員 |
| | 赤磐市 | あかいわ魅力発見フォトコンテスト審査委員会委員 |
| 齋藤　美絵子 | 岡山県 | 景観アドバイザー |
| | 岡山市 | 岡山市浸水対策推進協議会委員 |
| | | 岡山市都市・消防政策審議会委員 |
| | | 岡山市景観審議会委員 |
| | | 岡山市本庁舎整備検討会会員 |
| | 玉野市 | 玉野市本庁舎整備方針準備会外部委員 |
| | | 玉野市本庁舎整備方針検討会外部委員 |
| | 浅口市 | 浅口市都市計画審議会委員 |
| 柴田　奈美 | 岡山県 | 岡山県文化振興審議会委員 |
| | | 第 74 回全国植樹祭岡山県実行委員会の大会テーマ・シンボルマーク・大会ポスター専門委員会委員 |
| | 美咲町教育委員会 | 「第 24 回さくらのうた」俳句部門審査員 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
| --- | --- | --- |
| 西川　博美 | 岡山県 | 岡山県建築士審査会委員 |
| | | 岡山県都市計画審議会委員 |
| | | 岡山県環境影響評価技術審査委員 |
| | | 岡山県土地開発審査会委員 |
| | 岡山市 | 岡山市環境影響評価審議会委員 |
| | 倉敷市 | 倉敷市都市計画審議会委員 |
| | | 倉敷市都市景観審議会委員 |
| | | 倉敷市空家等対策協議会及び<br>倉敷市空家等対策審議会委員 |
| | 総社市 | 総社市都市計画審議会委員 |
| | | 総社市空家等対策協議会委員 |
| | 早島町 | 早島町都市計画審議会委員 |
| 西田　麻希子 | 岡山県 | 「岡山県統計グラフコンクール」審査員 |
| 野宮　謙吾 | 岡山県 | 岡山県屋外広告物審議会委員 |
| 朴　貞淑 | 倉敷市 | STOP 温暖化くらしき実行委員会委員 |
| | 三重県亀山市 | 亀山市総合環境研究センター研究員 |
| 畠　和宏 | 瀬戸内市 | 瀬戸内市景観審議会委員 |
| 福濱　嘉宏 | 岡山市 | 岡山市景観審議会委員 |
| | 倉敷市 | 倉敷市都市景観審議会委員 |
| | | 倉敷市琴浦公民館建替事業者選定委員会委員 |
| | | 倉敷市立大高小学校調理場･校舎整備事業<br>事業者選定委員会委員 |
| 向山　徹 | 愛媛県今治市 | 今治市本庁舎整備事業専門委員 |
| 山下　万吉 | 総社市 | 総社市放送番組審議会委員 |
| 吉原　直彦 | 岡山県 | 岡山県屋外広告物審議会委員 |
| | 広島県 | 広島県 Web 公募美術展審査員 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 吉原　直彦 | 総社市 | 総社市総合計画審議会委員 |

### ３．２－３　講師派遣（行政関係）

**保健福祉学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 井上　祐介 | 岡山県保健福祉部長寿社会課 | 令和元年度岡山県介護予防効果測定事業分析報告説明会講師 |
| 井村　圭壮 | 岡山県消防学校 | 消防学校教育課程「社会福祉原論」講師 |
| 岡﨑　愉加 | 岡山県警察本部 | 「保護者サポート会」講師 |
| 小畑　千晴 | 徳島県警察本部 | ストーカー行為に関する官学共同研究に含む加害者面接 |
| | 岡山県女性相談所 | 令和２年度第１回岡山県女性相談所女性相談員等連絡会議　講師 |
| | 徳島県警察学校 | 臨床心理学の授業講師 |
| 柏　まり | 岡山県総合教育センター | 岡山県総合教育センター研修講座講師 |
| | 笠岡市 | 就学前教育･保育研修講座講師 |
| | 井原市子育て支援課 | 保育士階層別研修会講師 |
| | 総社市教育委員会 | いじりの認定こども園園内研修会講師 |
| | | きよね認定こども園園内研修会講師 |
| | | 総社市北幼稚園園内研修会講師 |
| | 美作市教育委員会 | 美作市子育て講演会及び保幼合同研修会講師 |
| | 真庭市 | 真庭市保育職二次試験実技試験の助言 |
| 川上　貴代 | 美作保健所 | 給食施設研修会(成人の施設対象)講演 |
| 川下　菜穂子 | 岡山県備中保健所井笠支所 | 未来のパパ＆ママを育てる出前講座講師(笠岡商業高校) |
| | 岡山県備北保健所新見支所 | 未来のパパ＆ママを育てる出前講座講師(新見高校) |
| | 岡山県美作保健所 | 未来のパパ＆ママを育てる出前講座講師(津山東高校) |
| 久保田　恵 | 総社市ファミリーサポートセンター | 保育サービス講習会講師 |
| 佐々木　新介 | 岡山市立市民病院 | 岡山市立市民病院看護部看護研究の講師 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 周防　美智子 | 内閣府 | 「子供・若者育成支援のための地域連携事業」近畿ブロック研修会のファシリテーター |
| | 玉野市教育サポートセンター | 就学前スクールソーシャルワーカー活用研究事業講師 |
| | 広島県国民健康保険団体連合会 | 第1回広島県市町村保健活動協議会保険部会研修会講師 |
| 髙戸　仁郎 | 岡山市北区北保健センター | 高松中学校区四地区愛育委員合同研修会講師 |
| 中村　光 | 岡山県保健福祉部 | 岡山県通所付添サポーター養成講習講師 |
| 名越　恵美 | 岡山市立市民病院 | 「ELNEC-J ミニコース」講師 |

**デザイン学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 関﨑　哲 | 倉敷市立美術館 | 美術講座「銅版画・石版画」講師（後期） |
| 吉原　直彦 | 倉敷市 | 屋外広告物講習会講師 |

## ３．５－１　各種委員等の応嘱（行政関係以外）

**保健福祉学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 池田　理恵 | (公社)日本看護科学学会 | 日本看護科学学会英文誌編集委員会委員 |
| 井上　幸子 | 日本産業看護学会 | 日本産業看護学会編集委員会査読委員 |
| 井上　祐介 | (福)総社市社会福祉協議会 | 総社市社会福祉協議会評議員 |
| 井村　圭壮 | (福)岡山県共同募金会 | 評議員・配分委員 |
| | 日本福祉図書文献学会 | 学会評議員 |
| | 中国四国社会福祉史学会 | 学会理事 |
| | | 「中国四国社会福祉史研究」査読委員 |
| 岩満　賢次 | 大学コンソーシアム岡山 | 社会人教育事業部社会人教育委員会副委員長 |
| | (福)早島町社会福祉協議会 | 「第2次早島町地域福祉活動計画」策定委員長 |
| 岡﨑　愉加 | (公社)岡山県看護協会 | 岡山県看護学会座長 |
| | | 学会委員会 |
| 荻野　哲也 | 岡山大学医学部 | 岡山大学病理専門研修プログラム管理委員会委員 |
| 小畑　千晴 | (特非)徳島ヒューマンネット | 運営会議委員 |
| 桐野　匡史 | (一社)日本認知症ケア学会 | 「日本認知症ケア学会誌」査読委員 |
| | (一社)日本社会福祉学会 | 機関誌「社会福祉学」等査読委員 |
| | (一社)日本在宅ケア学会 | 日本在宅ケア学会誌査読委員 |
| 樟本　千里 | (一社)中・四国保育士養成協議会 | 全国保育士養成セミナー実行委員会 |
| 近藤　理恵 | 日仏社会学会 | 理事及び編集委員長 |
| | (福)総社市社会福祉協議会 | 困窮者生活支援センター協議会委員（子どもの貧困部会長） |
| 坂野　純子 | 日本福祉大学 | 日本福祉大学博士学位請求論文審査委員 |
| 佐々木　純子 | (一社)岡山県訪問看護ステーション連絡協議会 | 課題検討委員会委員 |
| 佐々木　新介 | (公社)岡山県看護協会 | 岡山県看護学会座長 |
| | | 学会委員会 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 佐藤　ゆかり | (福)総社市社会福祉協議会 | 総社市生活支援サービス検討委員会委員 |
| 周防　美智子 | 岡山県立岡山盲学校 | いじめ対策委員会指導・助言 |
| | (福)総社市社会福祉協議会 | 総社市ひきこもり等支援検討委員会委員 |
| | 立命館守山中学校 | 立命館守山中学校いじめ重大事態に関する調査委員会委員 |
| 住吉　和子 | 岡山県看護教育施設代表者会 | 岡山県看護教育施設代表者会議 |
| | (一社)日本糖尿病教育・看護学会 | 日本糖尿病教育・看護学会<br>理事・編集委員会委員・研究推進委員会委員 |
| 髙戸　仁郎 | 岡山県ハンドボール協会 | 岡山県ハンドボール協会の常任理事 |
| | | 第 72 回日本ハンドボール選手権大会(男子の部)岡山大会実行委員 |
| | (一社)公立大学協会 | LINKtopos2020 企画チーム委員 |
| | (一社)日本人間工学会中国・四国支部 | 日本人間工学会中国・四国支部役員 |
| | 一般財団法人岡山市スポーツ協会 | スポーツ振興委員会副委員長 |
| 竹本　与志人 | 日本学術会議 | 日本学術会議連携会員 |
| | (一社)日本在宅ケア学会 | 日本在宅ケア学会編集委員会委員 |
| | (一社)日本認知症ケア学会 | 日本認知症ケア学会代議員 |
| 中野　菜穂子 | 岡山県立成徳学校 | 岡山県立成徳学校苦情解決要領に基づく第三者委員 |
| 中村　光 | 日本高次脳機能障害学会 | 日本高次脳機能障害学会代議員 |
| | (一社)中・四国保育士養成協議会 | 全国保育士養成セミナー実行委員 |
| | (一社)日本言語聴覚士協会 | 代議員選挙管理委員 |
| | | 生涯学習部部員 |
| | (福)総社市社会福祉協議会 | 第三者委員(苦情解決委員) |
| | 日本コミュニケーション障害学会 | 学会理事 |
| | | 「コミュニケーション障害学」編集委員 |
| 名越　恵美 | (公社)岡山県看護協会 | 研究倫理審査委員会委員 |
| | (一社)日本看護研究学会 | 日本看護学会雑誌専任査読委員 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 名越　恵美 | (一社)日本がん看護学会 | 第 35 回日本がん看護学会学術集会査読委員 |
| 新田　陽子 | 岡山科学技術専門学校 | 教育課程編成委員会委員 |
| 原野　かおり | (一社)日本介護福祉学会 | 日本介護福祉学会理事 |
| | 介護福祉士養成大学連絡協議会 | 介護福祉士養成大学連絡協議会理事 |
| | (公財)社会福祉振興試験センター | 介護福祉士国家試験　試験委員 |
| 實金　栄 | (公社)日本看護協会 | 第 52 回日本看護学会抄録選考委員 |
| | (一社)日本看護研究学会 | 日本看護研究学会雑誌専任査読委員 |
| 村社　卓 | (福)吉備の里 | 評議員 |
| | (福)ももぞの学園 | 評議員 |
| | (福)旭川荘 | 第三者委員 |
| | (福)岡山県社会福祉協議会 | 岡山県福祉人材センター運営委員会委員 |
| | (一社)日本社会福祉学会 | 日本社会福祉学会機関紙『社会福祉学』査読委員 |
| | 日本ソーシャルワーク学会 | 日本ソーシャルワーク学会機関紙『ソーシャルワーク学会誌』査読委員 |
| 森永　裕美子 | 全国健康保険協会香川支部 | 全国健康保険協会香川支部評議会評議員 |

**情報工学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 伊藤　信之 | (一社)電気学会 | 高速・高周波集積回路の新分野展開と高度化技術調査専門委員会委員 |
| | (一社)電子情報通信学会 | ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員 |
| | | A:基礎・境界ソサイエティ英文論文誌小特集編集委員会　編集委員長 |
| 稲井　寛 | (公財)八雲環境科学振興財団 | 助成事業選考委員 |
| 大久保　賢祐 | IEEE 広島支部 | IEEE 広島支部第 3 回理事会 |
| | | IEEE Metro Area Workshop 2020 in Hiroshima 委員長 |
| 尾﨑　公一 | 岡山理科大学 | 岡山理科大学博士学位論文審査委員 |
| | (公社)日本鋳造工学会中国四国支部 | 第 35 期日本鋳造工業会支部理事 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 金﨑　真人 | 金沢工業大学 | 革新複合材料研究開発センター客員研究員 |
| 國島　丈生 | (一社)WebDINO Japan | 2020 年度 Web×IoT メイカーズチャレンジ　岡山運営委員会委員 |
| 齋藤　誠二 | 九州大学大学院 | 九州大学大学院博士学位論文審査に係る学外審査委員 |
| | (一社)日本人間工学会 | 日本人間工学会編集委員会委員 |
| | (一社)日本人間工学会中国・四国支部 | 日本人間工学会中国・四国支部理事 |
| 佐藤　洋一郎 | 岡山県立総社南高等学校 | 学校評議員 |
| | 岡山大学 | 岡山大学利益相反マネジメント委員会委員 |
| 末岡　浩治 | 大学コンソーシアム岡山 | 社会人教育事業部事業「備美っと大学キャラバン隊」 |
| | 岡山理科大学 | 「OUS フォーラム 2020」奨励賞審査委員 |
| 杉村　藍 | 日本英文学学会中国四国支部学会 | 「学会誌中国四国英文学研究」の編集委員 |
| 髙林　健人 | 電子情報通信学会中国支部 | 学生会顧問 |
| | (一社)電子情報通信学会 | ヘルスケア・医療情報通信技術研究専門委員会幹事補佐 |
| | | 英文論文誌小特集編集委員会編集幹事 |
| 滝本　裕則 | IEEE 広島支部 | IEEE 広島支部講演会、第 3 回理事会 |
| 妻屋　彰 | 関西原子力懇談会 | 原子力施設の社会的安全性に関する検討委員会シニアアドバイザー |
| | (一社)日本機械学会 | 第 98 期　設計工学・システム部門副部門長、技術委員長、総務委員 |
| | | 分野連携委員会委員 |
| | (公社)精密工学会 | 関西支部選出代議員 |
| | | 18th International Conference on Precision Engineering 2020　運営委員会委員 |
| | 精密工学会、日本デザイン学会、日本機械学会、日本設計工学会、日本建築学会 | Design シンポジウム 2021 運営委員会委員 |
| | 神戸大学大学院 | 修士学位論文審査委員 |
| | 日本学術振興会協力会・事業譲渡委員会 AI 活用型システム創成委員会 | 日本学術振興会協力会・事業譲渡委員会 AI 活用型システム創成委員会委員 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 春木　直人 | (公社)日本伝熱学会中国四国支部 | 副支部長 |
| | (一社)日本機械学会生産システム部門 | 第 98 期運営委員　兼　中国四国支部部門代議員 |
| | 日本熱物性学会 | 第 13 期編集委員会編集委員 |
| 福田　忠生 | レスキューロボットコンテスト実行委員会 | 第 20 期レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員 |
| 山内　仁 | レスキューロボットコンテスト実行委員会 | 第 20 期レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員 |
| | (一社)電子情報通信学会 | ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員 |
| | (一社)映像情報メディア学会 | 中国支部運営委員 |
| 渡邉　淳司 | 岡山大学 | 岡山大学大学院客員研究員 |
| 渡辺　富夫 | (一社)日本経済団体連合会 | 産学連携推進分科会委員 |
| | 子ども学会 | 常任理事 |
| | 共創学会 | 理事 |

**デザイン学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 柴田　奈美 | (公社)岡山県文化連盟 | 第 55 回岡山県文学選奨審査員 |
| | みつ朝日学園朝日塾中等教育学校 | 朝日塾“ゆめ”俳句大賞選考委員 |
| 津田　勢太 | (一社)岡山県建築士事務所協会 | 岡山県建築物耐震診断等評価委員会委員 |
| | 岡山県建築住宅センター(株) | 構造計算適合性判定専門委員 |
| 難波　久美子 | 日本繊維機械学会中国支部 | 学会理事 |
| | 倉敷民藝館 | 倉敷民藝館賞選考委員 |
| 西田　麻希子 | (一社)日本デザイン学会 | 「デザイン学研究作品集」専門審査委員 |
| 三原　鉄平 | 大学コンソーシアム岡山 | 社会人教育事業部事業「備美っと大学キャラバン隊」実施 |
| 向山　徹 | (一社)日本建築学会中国支部 | 設計審査委員会委員 |
| | | 常議員 |

## ３．５－１　講師派遣（行政関係以外）

**保健福祉学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 安久津　太一 | (株)リビング事業社 | リビングカルチャー倶楽部「バイオリン講座」 |
| | (特非)f.saloon | 備前まなび塾講師 |
| 池田　隆英 | 矢掛町立中川小学校 | 中川小学校の専門評価講師 |
| 池田　理恵 | (公社)岡山県看護協会 | 看護研修センター教育研修講師<br>「看護研究の実践」 |
| 井村　圭壮 | エフエムゆめウェーブ(株) | ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑮「民生委員今昔物語」 |
| | | ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑯佐々エイ(冨田エイ) |
| | | ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑰留岡幸助と報徳思想 |
| | | ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑱戦前期の職業紹介所 |
| | | ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑲河本乙五郎 |
| | | ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑳戦前期の共同宿泊所 |
| | | ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ㉑留岡夏子 |
| 入江　康至 | 吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山) | 吉備創生カレッジ講師「腸内環境を整えて介護予防」 |
| 岡﨑　愉加 | 総社市立総社東中学校 | 性教育講演会講師 |
| | 山陽学園中学校・高等学校 | 思春期理解のための講演会講師 |
| | 就実高等学校 | 性教育講演会講師 |
| | 岡山県立倉敷南高等学校 | 思春期講演会講師 |
| | (公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院 | 看護研究講義講師 |
| 柏　まり | 岡山市保育協議会 | 岡山市保育協議会５ブロック研究委員会講師 |
| | 美咲町保育協議会 | 美咲町保育協議会研究部会講師 |
| | (一財)香川県私立認可保育園連盟 | 施設長・保育士対象の研修会講師 |
| 近藤　理恵 | (福)クムレ | 「子育てをめぐる地域の現状と課題～ひとり親支援を考える～」講演会講師 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 佐々木　純子 | (公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院 | 「倉敷中央病院看護研究発表会」講師 |
| 佐々木　新介 | (公社)岡山県看護協会 | 看護研修センター教育研修講師<br>「看護研究の実践」 |
| | (公社)赤磐医師会 | 赤磐医師会病院看護部看護研究の講師 |
| | 岡山県立倉敷南高等学校 | 学校設定科目「キャリアⅠ」学問の哲人講座の講師 |
| 佐藤　ゆかり | (福)総社市社会福祉協議会 | 総社市介護予防・生活支援サポーター養成講座講師 |
| | | ボランティア養成講座(専門講座)講師 |
| 周防　美智子 | 岡山県立岡山東支援学校 | いじめの問題に関する研修会講師 |
| | (一社)滋賀県保育協議会 | 保育研修会講師 |
| | (福)総社市社会福祉協議会 | 総社市ひきこもりサポーター養成講座講師 |
| | (特非)日本放課後児童指導員協会 | 令和2年度放課後児童支援員認定資格研修講師 |
| | (特非)ほっとはあと | 総社市市民提案型事業講師<br>「子どもの非認知能力を育むための大人のかかわり」 |
| 髙戸　仁郎 | (一社)岡山県介護福祉士会 | 認定介護福祉士養成研修講師<br>「福祉用具と住環境」 |
| | 岡山県立岡山南高等学校 | 「介護予防について」の講義・実技指導 |
| | | 「高齢者の健康」について |
| 髙林　範子 | (公財)中国地域創造研究センター | 第2回ヘルスケア・医療福祉事業化交流会講師 |
| 趙　敏廷 | (福)こころの家族　故郷の家・神戸 | 職員研修講師「高齢者虐待防止と権利擁護」 |
| | (福)総社市社会福祉協議会 | ボランティア養成講座(専門講座)講師 |
| | (福)稔福祉会 | 新人研修の講師 |
| | | 介護福祉士国家試験受験対策学習支援の講師 |
| 都島　梨紗 | 放送大学 | 「学校リスク論('22)」教材作成 |
| 中野　菜穂子 | 岡山大学大学院 | 岡山大学大学院保健学研究科講師<br>「子育て支援における助産師の役割」の講演 |
| 中村　光 | (株)gene | 株式会社 gene 主催セミナー講師<br>「失語症の評価と訓練」 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 名越　恵美 | 心臓病センター榊原病院 | 看護研究指導の講義 |
| 新山　順子 | 岡山県児童館連絡協議会 | 児童健全育成活動指導者研修会講師 |
| | (公社)日本女子体育連盟 | サマーセミナー2020 学校体育コース講師 |
| 原野　かおり | (一社)岡山県介護福祉士会 | 介護福祉士実習指導者講習会講師<br>「介護過程の理論と指導方法」 |
| 平松　智子 | (公社)岡山県看護協会 | 保健師職能集会セミナー講師 |
| | (特非)消費者ネットおかやま | 消費生活マイスター講座講師 |
| 實金　栄 | (公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院 | 「倉敷中央病院看護研究発表会」講師 |
| | (公社)岡山県看護協会 | 「看護研究の実践」発表会の講評 |

**情報工学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 岩橋　直人 | 吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山) | 吉備創生カレッジ講師「人工知能最前線」 |
| 尾﨑　公一 | (公財)岡山県産業振興財団 | 「鋳造における諸現象/鋳造欠陥に係るミニシーズ発信会」講師 |
| 小枝　正直 | 電子情報通信学会関西支部 | ICT基礎講座講師 |
| 末岡　浩治 | 岡山県工業技術センター | ミクロものづくり大学「半導体シリコンの高品位化技術と今後の研究開発動向」講演 |
| 穂苅　真樹 | 岡山県立岡山芳泉高等学校 | オープン講座講師 |
| 渡辺　富夫 | 愛媛大学 | 「情報工学特別講義」「最新 ICT ビジネス・技術動向」 |
| | 姫路大学 | 「人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術」 |

**デザイン学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 柴田　奈美 | 岡山県高等学校文化連盟 | 「高校生文芸道場おかやま 2020」俳句部門の応募作品の審査および講評執筆 |

### ３．５－１　非常勤医師（行政関係以外）
**保健福祉学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 荻野　哲也 | (一社)岡山市医師会総合メディカルセンター | 病理医(生検材料･外科材料の診断等) |
| | 三原赤十字病院 | 生検材料･外科材料の診断･臨床各科との症例検討 |
| 高橋　徹 | (医)盛全会　岡山西大寺病院 | 麻酔科医師として手術症例の術前･術中･術後管理 |
| | (医)三樹会　梶木病院 | 日本麻酔科学会認定麻酔科指導医･専門医 |
| | (医)水和会　水島中央病院 | 麻酔科医師として手術症例の術前･術中･術後管理および卒後研修医に対する教育指導 |

### ３．５－１　非常勤講師・役員（行政関係以外）
**保健福祉学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 安久津　太一 | 就実学園就実大学 | 「欧米の世界と文化」<br>「コラボレーション学脩Ⅰ」 |
| 池田　隆英 | 岡山赤十字看護専門学校 | 「教育学」 |
| 池田　理恵 | 就実学園就実大学 | 「看護学演習」 |
| 入江　康至 | 桃山学院教育大学 | 「生活習慣病学」 |
| 岩満　賢次 | 愛知学院大学 | 「社会福祉･教育」<br>「言語聴覚心理評価学」 |
| | 弘徳学園豊岡短期大学 | 通信授業(福祉行財政と福祉計画、社会調査の基礎) |
| | 中央法規出版(株) | 社会福祉士国家試験模擬問題作成･解説作成 |
| 柏　まり | 就実学園就実大学 | 「乳児保育Ⅱ」 |
| | 弘徳学園姫路大学 | 教育学部通信教育課程レポート添削及びスクーリング講義 |
| | 兵庫大学 | 「男女共同参画社会の構築」 |
| 樟本　千里 | 川崎医療福祉大学 | 春学期　「発達心理学」<br>秋学期　「幼児理解の理論と方法」 |
| | | 免許法認定講習「発達心理学」 |
| 坂野　純子 | 東京大学 | 「社会福祉･社会保障論」 |
| 佐々木　純子 | 倉敷看護専門学校 | 「在宅看護概論」 |
| 澤田　陽一 | 中国短期大学 | 「社会心理学」 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 関根　紳太郎 | 岡山大学 | 「英語（R＆W）－1，2」 |
| 髙戸　仁郎 | 岡山大学 | 「するスポーツ演習」 |
| | 朝日医療大学校 | 「体育」 |
| 高橋　徹 | 岡山大学医学部 | ドラッグ・リポジショニングを応用した急性肺障害に対する治療法の開発 |
| 竹本　与志人 | （株）ミネルヴァ書房 | 「保健医療と福祉」編集 |
| | | 「高齢者福祉」執筆 |
| | 中央法規出版（株） | 「社会福祉調査の基礎」編集委員 |
| | | 「ソーシャルワークの理論と方法［共通科目］執筆 |
| | （一社）日本ソーシャルワーク教育学校連盟 | 「社会福祉調査の基礎」執筆 |
| | （株）弘文堂 | 「保健医療と福祉」執筆 |
| 田中　晃一 | 山陽学園短期大学 | 「食品衛生学」 |
| 都島　梨紗 | 玉野総合医療専門学校 | 「教育原理」、「教育学方法論」 |
| 中野　菜穂子 | 岡山大学 | 「社会的養護内容」、「児童家庭福祉（1）（2）」 |
| | 岡山大学大学院 | 「リプロダクティブ・ヘルス演習Ⅰ」 |
| 中村　光 | （公財）操風会　岡山旭東病院 | 言語聴覚士としての臨床業務（リハビリテーション課　言語聴覚部門） |
| 名越　恵美 | 岡山労災看護専門学校 | 「看護研究の基礎」 |
| | 倉敷看護専門学校 | 「倫理学」 |
| | 山陽学園大学 | 山陽学園大学大学院看護学研究科特別講師 |
| 新田　陽子 | 公立大学法人大阪 | 大学院生活科学研究科「給食経営学理論Ⅰ」 |
| 原野　かおり | ノートルダム清心女子大学 | 「こころとからだの理解Ⅰ、Ⅱ」 |
| 藤井　保人 | ノートルダム清心女子大学 | 「こころとからだの理解Ⅰ」 |
| 森永　裕美子 | 香川大学医学部 | 香川大学協力研究員 |
| | | 「公衆衛生看護学概論」、「公衆衛生看護学基礎実習」 |
| 森本　美智子 | 山梨大学大学院 | 大学院総合教育部医学域講師<br>「感染看護学特論」 |

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 山下　広美 | 岡山大学教育学部 | 「食物調製の科学(1)」 |
| 山本　孝司 | 神戸親和女子大学 | 通信教育部添削指導員 |
| | 九州看護福祉大学 | 「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」<br>「教育課程論」 |
| 山本　登志子 | 徳島大学医学部 | 「地域公衆栄養学」、「公衆栄養学」 |

**情報工学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 綾部　誠也 | 就実学園就実大学 | 「スポーツ 1v」「スポーツ 1w」(前期)「スポーツ 2a」「スポーツ 2d」(後期) |
| 荒井　剛 | 順正高等看護福祉専門学校 | 「情報科学」 |
| 稲井　寛 | 森北出版(株) | 「はじめての情報理論(第 2 版)」改訂版校正 |
| 岩橋　直人 | 玉川大学 | 脳科学研究所非常勤特別研究員 |
| 大久保　賢祐 | 岡山理科大学 | 「電気電子計測」 |
| 國島　丈生 | 尾道市立大学 | 「データベース」 |
| 小椋　清孝 | 岡山大学 | 「情報処理入門 2」 |
| | | 「微分方程式 1,2」 |
| 榊原　勝己 | 岡山理科大学 | 「コンピュータネットワーク」 |
| | 愛媛大学 | 「ディジタル通信特論」 |
| 佐藤　洋一郎 | 岡山理科大学 | 「情報処理工学Ⅱ」 |
| 忻　　欣 | 神戸大学 | 「計算生体力学」 |
| 末岡　浩治 | (株)SUMCO | 半導体シリコン結晶に関する研究開発方針について助言 |
| | | 半導体シリコン結晶の高品位化に関する技術コンサルタント |
| 妻屋　彰 | 神戸大学 | 「設計工学Ⅱ」 |
| 徳田　安紀 | 大阪大学レーザー科学研究所 | 光量子ビーム科学研究部門招へい教授 |
| 山内　仁 | (一社)アール・アンド・コミュニティー | レスキューロボットコンテストをはじめとする事業の計画・立案・実施およびこれに関する業務 |

**デザイン学部**

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---|---|---|
| 河合　大介 | 慶應義塾大学 | 「美学特殊ⅡD」 |
| 齋藤　美絵子 | 新見公立大学 | 「地域防災論」 |
| 柴田　奈美 | 山陽学園大学 | 「近現代文学史」 |
| 髙橋　俊臣 | 嵯峨美術大学 | 「オープン演習Ｘ」(実践デザインAデザインマーケティングのワークショップ型授業) |
| | ㈱大広 | 広告業務依頼を受けている企業のコミュニケーション活動におけるクリエイティブディレクションデザインコンサルティング |
| 西川　博美 | 京都芸術大学 | 「環境デザイン演習［建築］Ⅱ－2」 |
| 西田　麻希子 | (株)昭和堂 | 昭和堂「ビジュアルデザインのための発想のスイッチ」執筆 |
| 朴　貞淑 | 美作学園　美作大学 | 「韓国語Ⅰ(前期)」「韓国語Ⅱ(後期)」 |
| 樋笠　勝士 | 慶應義塾大学 | 「美学概論Ⅰ」「美学芸術学特殊講義演習Ⅰ/美学芸術学特殊研究Ⅰ」「美学特殊Ⅱ」「美学芸術学特殊講義演習Ⅱ/美学芸術学特殊研究Ⅱ」 |
| ブルネリ・アンソニー | 岡山大学 | 「英語(S＆L)－1」「英語(S＆L)－2」 |
| 吉原　直彦 | (株)昭和堂 | 昭和堂「ビジュアルデザインのための発想のスイッチ」編著 |

岡山県立大学　社会貢献年報　2020

発行日　　令和３年６月
編　集　　岡山県立大学　地域創造戦略センター
発　行　　岡 山 県 立 大 学
〒719-1197　岡山県総社市窪木 111 番地
TEL　0866-94-2111
URL　https://www.oka-pu.ac.jp/
印　刷　　サンコー印刷株式会社